令和６年度 学習の手引き

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

履修時の一般事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅰ　教育理念・教育目的
・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・ 3

Ⅱ　学科目の構造図と科目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅲ　単位修得表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅳ　教育計画および進度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Ⅴ　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表　・・・・・・・・・・・・・・ 11

Ⅵ　１年次科目
１．基礎分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

２．専門基礎分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

３．専門分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

Ⅶ　２年次科目
１．基礎分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

２．専門基礎分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

３．専門分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123

Ⅷ　３年次科目
１．専門分野　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 176

はじめに

本学の教育目的は、「学校教育法および保健師助産師看護師法に基づき、看護師になろうとするものに対して、看護に必要な知識・技術・態度を修得させ、生命の尊厳を尊重する倫理感と感性豊かな人間性を養い、専門職業人としての自覚を持ち、地域・社会に貢献しうる看護実践者を育成する」となっています。

カリキュラムは、この目的を達成するために組まれています。令和４年度より第５次カリキュラム改正の骨子に沿い、本学の目的を基盤として授業内容を構築しました。今回のカリキュラム改正の目的は、地域で生活する人々を理解した上で、他の医療職種と連携し、看護師としての看護実践能力を修得していくことです。

この「学習の手引き」は、学生の皆さんが看護教育について基本的な理解をもって主体的に学習するために、各科目の到達目標や授業の方法、評価方法を記載してあります。

まず、カリキュラムのねらいとするものを簡単に説明しましょう。はじめに、３ 年間で学ぶ科目の全体を示しました。単位認定の科目試験単位で載せてありますので、学生の皆さんは、学年の進行に従って、その一つ一つをクリアしていただきたいと思います。

科目構成は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の大きな３つの分野に亘ります。基礎分野は、幅広い人間理解と科学的思考を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促し、さらに人間理解の根源である生命倫理や医療倫理についても考える教育内容としました。

専門基礎分野は、次の専門分野に進むための基盤となるもので、人体の構造と機能を理解し、病気の成り立ちやその経過や回復の促進といった健康、疾病に関するものです。また、健康を支援するための社会資源の活用のための社会保障制度についても学んでいきます。

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、看護の統合と実践、の８領域に分かれています。基礎看護学では、幅広い看護の基盤を学びます。地域・在宅看護論は、地域の生活者の理解と在宅療養者に対する看護ニーズの増大に対応しています。精神看護学は、すべての年代にわたる人間のこころの健康がテーマです。また、成人・老年・小児看護学は、人間のライフステージから見た特徴とその看護を学びます。母性看護学では、女性の妊娠・分娩・産褥・新生児の看護を通して生命の神秘や尊厳、そして母親としての役割、家族への認識を深めるためのものです。看護の統合と実践では、医療安全・災害看護や国際協力について学び、多様な場での看護の提供ができるような学習を組み込みました。

今後、少子高齢化と生産年齢人口の減少に伴い、我が国の社会は大きく変化していきます。これまでの施設中心の看護から地域へと看護の役割が拡大され、今まで以上に看護の責務が増すことになります。それに伴い３年間の看護基礎教育の学びが重要になってきます。

地域社会の中で生活を営む「人」を理解し、適切な看護実践力を修得できるように、基礎学力を培うことが本学の教育目的です。科目ごとに「講義のねらい」を示してありますので、学生の皆さんは科目履修と単位取得、さらには予習や復習のための自己学習を深めるものとなるように精読し、活用して下さることを望みます。

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

履修時の一般事項

１．本校で履修する科目は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大別される。これらの分野にはそれぞれの科目が置かれている。

２．１年次には主として基礎分野を履修し、平行して専門基礎分野と専門分野を履修するカリキュラムが組まれている。

３．各科目はすべて必修であり、卒業までに 103 単位すべてを取得しなければならない。

４．時間割を配布するのでシラバスを参考にテキストなど準備して臨む。

５．科目の記載は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の順とした。

６．記載内容は、科目、開講年次・時期、単位数、時間数、担当教員、講義のねらい、到達目標、DP との関連、評価方法、回数、講義計画（学習内容・方法と場所・担当教員）、学習課題、テキスト・参考書、受講上の注意点等である。

７．科目は前期科目・後期科目に分かれる。講義終了後に単位認定試験を実施する。

８．単位認定試験の資格は、講義 3 分の 2 以上の出席を満たした者である。出席日数不足などで、単位認定の資格が取得できなかった場合、改めて該当科目を受講しなければならない。

Ⅰ　教育理念

教育理念・教育目的・アドミッションポリシー
・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

Ⅰ　教育理念・教育目的・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

埼玉医科大学　建学の精神

第１．生命への深い愛情と理解と奉仕に生きるすぐれた実地臨床医家の育成

第２．自らが考え、求め、努め、以て自らの生長を主体的に開展し得る人間の育成

第３．師弟同行の学風の育成

本校は、埼玉医科大学の医療活動を担う目的で、埼玉医科大学により設立された。

学生の主な実習施設である総合医療センターは、中核市である川越の北東に位置して、病床数 1053 床の地域医療支援病院である。高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターを持ち、災害拠点病院、地域がん診療連携病院として、地域医療の拠点となっている。

「限りなき愛」を基本理念において、看護部理念「見える看護の実践とやさしい看護の提供」をもとに、満足度の高い看護を提供して、地域から信頼される医療機関を目指している。

本校は、卒業後に埼玉医科大学関連病院で活動して、地域医療、保健・福祉の充実に貢献し得る人材を育成することを期待されている。

【教育理念】

看護とは、生命への畏敬を払い、対象者である人間を総合的に捉えることが重要である。人々との相互作用の中であらゆる健康レベルにある人がもてる力を最大限に発揮し、最適な健康状態を生み出すよう援助する活動である。その援助者として、深い洞察力と高い専門知識と適切な判断能力を持ち、看護の役割と責任を果たすことが求められている。

本校は、生命の尊厳と人間を尊重することを基盤とし、礼儀正しく誠実な行動がとれ、チームの一員として協働できる人間関係の成立や、地域に貢献できる看護実践者を育成する。

【教育目的】

本校は、学校教育法及び保健師助産師看護師法に基づき、看護師になろうとするものに対して、必要な知識及び技術を修得させ、併せて人格の涵養に努め、地域・社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする

【アドミッションポリシー】

1．看護師になりたいという自らの意思のある人。
2．看護学を学ぶための必要な基礎学力があり自らの言葉で表現できる人。
3．他者とコミュニケーションをとり、ともに活動することができる人。
4．保健・医療・福祉に広く関心のある人。
5．相手の立場になって物事が考えられ、思いやりを持って関わることができる人。
6．挨拶ができ、誠実に行動できる人。
7．埼玉医科大学に貢献しようと考える人。

【カリキュラムポリシー】

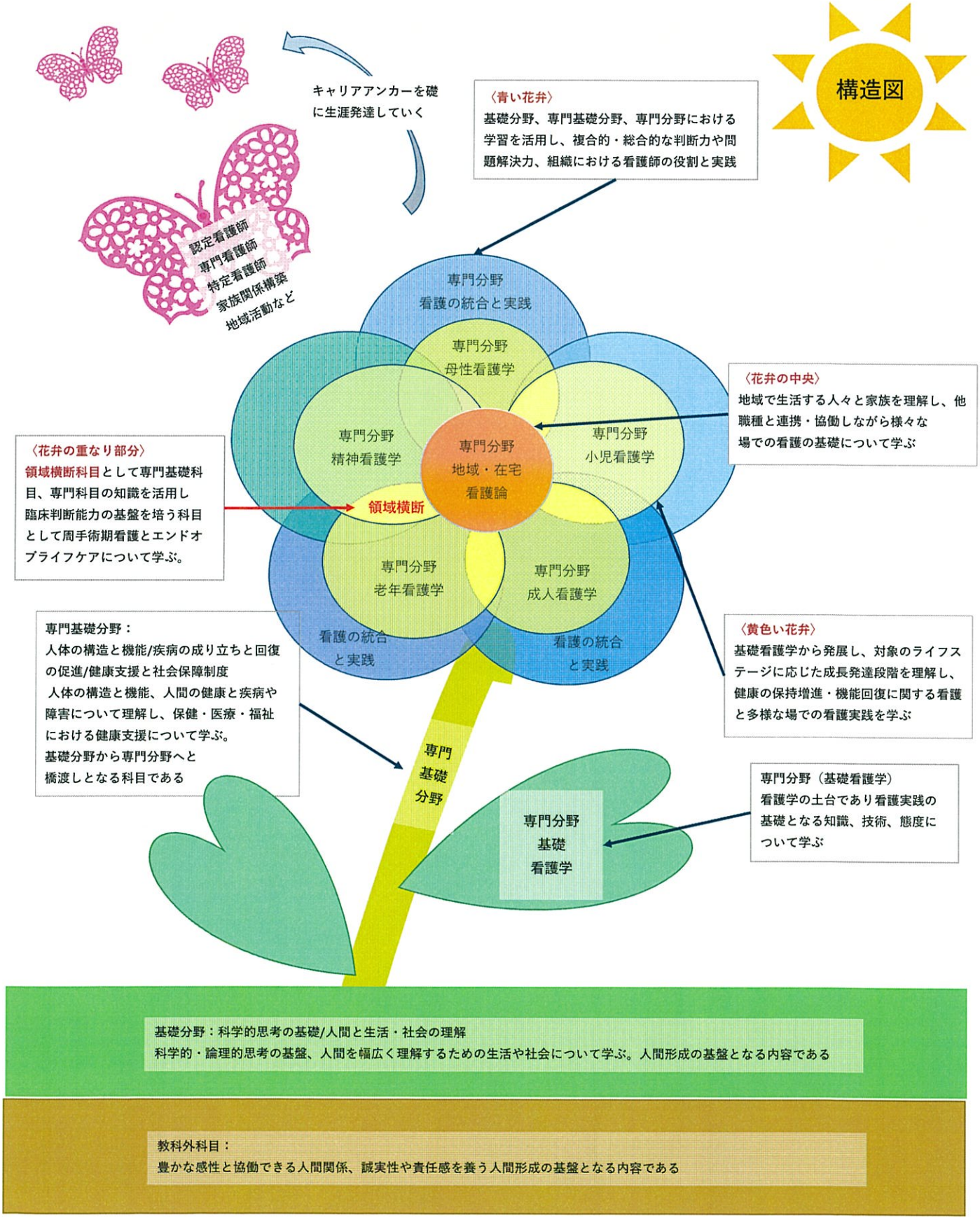
1．地域の人々の暮らしを知り、生活者としての看護の対象を理解する力を育成する。
2．看護の現象を理解するためにアクティブラーニングを通して臨床判断能力の基礎を育成する。
3．多様性を受け入れ、他者と関わる力や協調性、倫理的態度を育成する。
4．多職種連携を通して専門性を活かした支援を理解することで、対象のＱＯＬの向上につなげる力を育成する。
5．看護を学ぶ中での体験を内省し、経験を価値づける力を育成する。

【ディプロマポリシー】

1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる。
2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする。
3．多様な価値観を尊重し、科学的な根拠に基づいて看護が実践できる。
4．地域包括ケアチームの一員として、多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている。
5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める。
6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける。

Ⅱ　学科目の構造図と科目

構造図


キャリアアンカーを礎
に生涯発達していく
認定看護師
専門看護師
特定看護師
家族関係構築
地域活動など
〈青い花弁〉
基礎分野、専門基礎分野、専門分野における学習を活用し、複合的・総合的な判断力や問題解決力、組織における看護師の役割と実践
専門分野
看護の統合と実践
専門分野
母性看護学
専門分野
精神看護学
専門分野
地域・在宅
看護論
専門分野
小児看護学
領域横断
専門分野
老年看護学
専門分野
成人看護学
看護の統合
と実践
看護の統合
と実践
〈花弁の中央〉
地域で生活する人々と家族を理解し、他職種と連携・協働しながら様々な場での看護の基礎について学ぶ
〈花弁の重なり部分〉
領域横断科目として専門基礎科目、専門科目の知識を活用し臨床判断能力の基盤を培う科目として周手術期看護とエンドオブライフケアについて学ぶ。
専門基礎分野：
人体の構造と機能/疾病の成り立ちと回復の促進/健康支援と社会保障制度
人体の構造と機能、人間の健康と疾病や障害について理解し、保健・医療・福祉における健康支援について学ぶ。
基礎分野から専門分野へと橋渡しとなる科目である
〈黄色い花弁〉
基礎看護学から発展し、対象のライフステージに応じた成長発達段階を理解し、健康の保持増進・機能回復に関する看護と多様な場での看護実践を学ぶ
専門
基礎
分野
専門分野
基礎
看護学
専門分野（基礎看護学）
看護学の土台であり看護実践の基礎となる知識、技術、態度について学ぶ
基礎分野：科学的思考の基礎/人間と生活・社会の理解
科学的・論理的思考の基盤、人間を幅広く理解するための生活や社会について学ぶ。人間形成の基盤となる内容である
教科外科目：
豊かな感性と協働できる人間関係、誠実性や責任感を養う人間形成の基盤となる内容である

【カリキュラムツリー】

D1	D2	D3	D4	D5	D6
看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる 人間関係の構築	生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする 倫理観	多様な価値観を尊重し、科学的な根拠に基づいて看護が実践できる 実践能力	地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている 連携・協働	グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める グローバルな視点	自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける 主体的学修能力

3学年	臨床看護統合実習					
	地域・在宅看護論実習　成人・老年看護学実習　精神看護学実習　小児看護学実習　母性看護学実習　成育過程実習					
	臨床看護統合科目Ⅰ（看護研究の実際）　臨床看護統合科目Ⅱ（看護管理／医療安全）　臨床看護統合科目Ⅳ（OSCE）					
2学年	基礎看護学実習Ⅱ					
	医療倫理	病態治療学　総論	基礎看護　援助論Ⅲ	成人看護　援助論Ⅰ	精神看護　援助論Ⅱ	周手術期看護
	コミュニケーション論	臨床薬理学演習	（フィジカルアセスメント）	成人看護　援助論Ⅱ	精神看護　援助論Ⅲ	エンドオブライフケア看護
	医療情報学	公衆衛生学	臨床看護論	成人看護　援助論Ⅲ		
		看護関係法規	看護研究の基礎	成人看護　援助論Ⅳ	小児看護　援助論Ⅰ	臨床看護統合科目Ⅲ
		健康教育方法論			小児看護　援助論Ⅱ	（災害看護／国際交流）
		リハビリテーション概論	地域・在宅看護　援助論Ⅰ	老年看護　援助論Ⅰ	小児看護　援助論Ⅲ	
			地域・在宅看護　援助論Ⅱ	老年看護　援助論Ⅱ		
			地域・在宅看護　援助論Ⅲ	老年看護　援助論Ⅲ	母性看護　援助論Ⅰ	
			地域・在宅看護　援助論Ⅳ		母性看護　援助論Ⅱ	
					母性看護　援助論Ⅲ	
1学年	心理学	生化学	基礎看護　概論	基礎看護　援助論Ⅷ	地域・在宅看護　概論	
	発達心理学	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ	基礎看護　援助論Ⅰ	（診療の補助技術）		
	家族社会学	解剖生理学演習	（看護過程）	基礎看護　基礎統合演習	成人看護　概論	
	論理的思考	病理学	基礎看護　援助論Ⅱ			
	教育学	病態治療学　Ⅰ	（バイタルサイン）		老年看護　概論	
	文化人類学	病態治療学　Ⅱ	基礎看護　援助論Ⅳ			
	自己啓発演習	病態治療学　Ⅲ	（感染防止・コミュニケーション）		精神看護　概論	
	情報リテラシー	病態治療学　Ⅳ	基礎看護　援助論Ⅴ		精神看護　援助論Ⅰ	
	英語	病態治療学　Ⅴ	（環境・活動休息）			
	環境と人間	微生物学	基礎看護　援助論Ⅵ		小児看護　概論	
	地域体験	薬理学	（清潔・衣生活）			
		栄養食事療法	基礎看護　援助論Ⅶ		母性看護　概論	
		医療概論	（食事・排泄）			
		社会福祉				
	基礎看護学実習Ⅰ					

Ⅲ　単位修得表

Ⅲ　令和 6年度　単位修得表

区分		授業科目	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解	心理学	1	30	○					
		人間発達学	1	15		○				
		家族社会学	1	15	○					
		論理的思考	1	15		○				
		医療情報学	1	30			○			
		情報リテラシー	1	15		○				
		教育学	1	30	○					
		英語	1	30	○	○				
		環境と人間	1	15		○				
		医療倫理	1	30			○			
		コミュニケーション論	1	15			○			
		文化人類学	1	15		○				
		自己啓発論	1	30	○	○				
		地域体験	1	15		○				
専門基礎分野	人体の構造と機能	生化学	1	30	○					
		解剖生理学Ⅰ	1	30	○					
		解剖生理学Ⅱ	1	30	○					
		解剖生理学Ⅲ	1	30		○				
		解剖生理学演習	1	30		○				
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15		○				
		病態治療学総論	1	30			○			
		病態治療学Ⅰ（呼吸・循環）	1	30		○				
		病態治療学Ⅱ（血液・アレルギー・膠原病）	1	30		○				
		病態治療学Ⅲ（脳神経・運動器）	1	30		○				
		病態治療学Ⅳ（腎・泌尿器・女性生殖器）	1	30		○				
		病態治療学Ⅴ（消化器・内分泌・乳腺）	1	30		○				
		リハビリテーション概論	1	15			○			
		微生物学	1	30	○					
		薬理学	1	30		○				
		臨床薬理学演習	1	15			○			
		栄養食事療法	1	15		○				
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30				○		
		社会福祉	1	30		○				
		看護関係法令	1	30			○			
		健康教育方法論	1	15			○			
		医療概論	1	15		○				
専門分野	基礎看護学	看護概論	1	30	○					
		援助論Ⅰ（共通看護技術Ⅰ：看護過程）	1	30	○	○				
		援助論Ⅱ（共通看護技術Ⅱ：バイタルサイン）	1	15	○					
		援助論Ⅲ（共通看護技術Ⅲ：フィジカルアセスメント）	1	30			○			
		援助論Ⅳ（共通看護技術Ⅳ：安全・感染予防・コミュニケーション）	1	30	○					
		援助論Ⅴ（日常生活援助Ⅰ：環境・活動・休息）	1	30	○					
		援助論Ⅵ（日常生活援助Ⅱ：清潔）	1	30	○					
		援助論Ⅶ（日常生活援助Ⅲ：食事・排泄）	1	30	○	○				
		援助論Ⅷ（診療補助技術）	1	30		○				
		臨床看護論	1	30			○			
		基礎看護統合演習	1	30		○				
		看護研究の基礎	1	15				○		

区分		授業科目	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	30		○				
		援助論Ⅰ（在宅における日常生活援助技術）	1	15			○			
		援助論Ⅱ（在宅における主な医療処置技術）	1	30			○			
		援助論Ⅲ（在宅療養者の看護活動の特徴　看護過程）	1	15				○		
		援助論Ⅳ（在宅療養者と災害）	1	15				○		
	成人看護学	成人看護概論	1	30		○				
		援助論Ⅰ（循環器機能障害と看護）	1	30				○		
		援助論Ⅱ（内分泌・栄養代謝機能障害と看護）	1	30			○			
		援助論Ⅲ（消化・吸収機能障害と看護）	1	30			○			
		援助論Ⅳ（脳神経機能障害と看護）	1	30				○		
	老年看護学	老年看護概論	1	15		○				
		援助論Ⅰ（高齢者の日常生活援助）	1	30			○			
		援助論Ⅱ（高齢者の健康障害と看護）	1	30			○	○		
		援助論Ⅲ（認知症看護　老年看護援助論演習）	1	30			○	○		
	精神看護学	精神看護概論	1	30	○	○				
		援助論Ⅰ（主な精神障がいの診断・治療・看護）	1	30		○				
		援助論Ⅱ（精神看護の特徴と看護の実際）	1	30			○			
		援助論Ⅲ（精神看護援助論演習）	1	15				○		
	小児看護学	小児看護概論	1	15		○				
		援助論Ⅰ（子どもの健康増進の看護）	1	30			○			
		援助論Ⅱ（子どもの主な疾病と治療）	1	15			○			
		援助論Ⅲ（健康障害のある子どもと家族への看護・小児看護援助論演習）	1	30				○		
	母性看護学	母性看護概論	1	15		○				
		援助論Ⅰ（女性の健康問題と看護 母性看護援助論演習）	1	30			○	○		
		援助論Ⅱ（周産期の看護～妊娠から分娩期）	1	30			○			
		援助論Ⅲ（周産期の看護～産褥期及び新生児期）	1	30				○		
	看護の統合と実践	臨床看護統合科目Ⅰ（看護研究の実際）	1	15					○	○
		臨床看護統合科目Ⅱ（看護管理　医療安全）	1	30					○	
		臨床看護統合科目Ⅲ（災害看護　国際交流）	1	30				○		
		臨床看護統合科目Ⅳ（OSCE）	1	30						○
	領域横断	周手術期看護	1	30			○	○		
		エンドオブライフケア看護学	1	30				○		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○					
		基礎看護学実習Ⅱ	3	135				○		
		地域・在宅看護論実習	2	90					○	○
		成人・老年看護学実習Ⅰ	3	135					○	○
		成人・老年看護学実習Ⅱ	1	45					○	○
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90					○	○
		成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90					○	○
		精神看護学実習Ⅰ	1	45					○	○
		精神看護学実習Ⅱ	1	45					○	○
		成育過程Ⅰ実習	1	45					○	○
		成育過程Ⅱ実習	1	45					○	○
		成育過程Ⅲ実習	1	45					○	○
		母性看護学実習	2	90					○	○
		臨床看護統合実習	2	90						○
学科単位小計			80	3060	43単位		34単位		3単位	
実習単位小計			23		1単位			3単位	19単位	
合　計			103		44単位		37単位		22単位	

Ⅳ　教育計画および進度

Ⅳ　教育計画および進度

令和6年度　カリキュラム進度表

学年	1学年		2学年		3学年	
到達目標	1．看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的側面からわかる。 2．人間の生命の尊さについて考えを深め、人間を尊重することができる。 3．看護の基礎的知識・技術を科学的な根拠を基づいてわかる。 4．あらゆる場において環境に働きかけ、人間の適応能力を促進し、最適な健康生活を送るための基礎的知識がわかる。 5．社会の変化と看護の機能・役割を理解し保健医療福祉への　関心を持つことができる。 6．看護の学習を深め、自己の課題を明らかにし、看護実践者としての自覚をもつことができる。 7．社会情勢の変化や科学技術の進歩など社会の動向に関心がもてる。 8．看護の学習を深め、社会人としての常識を意識的に改善できる。		1．臨地実習を通し、人間を統合的に捉え、多様な価値観・欲求を持つ人間を理解できる。 2．人間をかけがえのない存在として捉え、その人が自己実現に向かって行けるように看護を考えることができる。 3．科学的な根拠に基づいた看護実践をするための看護過程を身につけることができる。 4．あらゆる場において環境に働きかけ、人間の適応能力を促進し、最適な健康生活を送るためのその人のQOL、尊厳ある死を支える看護の基礎的知識を身につける。 5．対象者と家族を取り巻く保健医療福祉のあり方を理解できる。 6．臨地実習を経験し、対象者を見つめることで、自己の傾向を知り、他者理解への知識を広げることができる。 7．社会の変化や科学技術の進歩など社会の動向に関心が持て視野を広げることができる。 8．臨地実習を通し、看護者としての態度を意識的に改善できる。		1．看護の対象である人間を統合的に捉え、対象者と看護者との人間関係を築くことができる。 2．対象者を尊重し、その人が自己実現に向かって行けるように看護が実践できる。 3．あらゆる健康レベルにある人に看護過程を用い、看護が展開でき、自己の看護の評価をすることができる。 4．あらゆる場において環境に働きかけ、人間の適応能力を促進し、最適な健康生活を送るためのその人のQOL、尊厳ある死を支える看護を実践できる。 5．保健医療福祉チームの一員としての看護の機能と役割を自覚することができる。 6．臨地実習を通し、自己理解・他者理解への体験学習から看護者としての人間形成と成長基盤を作り、看護実践ができる。 7．社会の変化や科学技術の進歩など社会の動向に関心が持て自己の看護を探求する姿勢を身につけることができる。	
基礎分野	心理学 家族社会学 教育学 英語 自己啓発論演習	人間発達学 論理的思考 情報リテラシー 環境と人間 文化人類学 地域体験	コミュニケーション論 生命倫理 情報科学			
専門基礎分野	生化学 解剖生理学Ⅰ～Ⅲ 微生物学	病理学 病態治療学Ⅰ～Ⅴ 薬理学 解剖生理学演習 栄養食事療法 医療概論 社会福祉	**臨床薬理学演習** 看護関係法令 健康教育方法論 公衆衛生学			
専門分野	基礎看護学　看護概論 基礎看護学　援助論Ⅱ 基礎看護学　援助論Ⅳ 基礎看護学　援助論Ⅴ 基礎看護学　援助論Ⅵ 基礎看護学臨地実習Ⅰ 基礎看護学　援助論Ⅰ	基礎看護学　援助論Ⅶ 基礎看護学　援助論Ⅷ 基礎看護統合演習	看護研究 基礎看護学　援助論Ⅲ 臨床看護論 基礎看護学臨地実習Ⅱ			
		地域・在宅看護概論 成人看護概論 老年看護概論 精神看護概論 小児看護概論 母性看護概論 精神看護学　援助論Ⅰ	成人看護学　援助論Ⅱ 成人看護学　援助論Ⅲ 老年看護学　援助論Ⅰ 精神看護学　援助論Ⅱ 小児看護学　援助論Ⅰ 小児看護学　援助論Ⅱ 母性看護学　援助論Ⅱ	成人看護学　援助論Ⅰ 精神看護学　援助論Ⅲ 小児看護学　援助論Ⅲ 母性看護学　援助論Ⅰ 母性看護学　援助論Ⅲ 成人看護学　援助論Ⅳ 老年看護学　援助論Ⅱ 老年看護学　援助論Ⅲ		
			地域・在宅看護援助論Ⅰ 地域・在宅看護援助論Ⅱ	地域・在宅看護援助論Ⅲ 臨床看護統合科目Ⅲ（災害看護、国際協力と看護）	臨床看護統合科目Ⅰ（看護研究） 臨床看護統合科目Ⅳ（OSCE） 臨床看護統合科目Ⅱ（看護管理・医療安全） 地域・在宅看護論臨地実習→ 成老看護臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ→ 精神看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ→ 成育過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ臨地実習→ 母性看護学臨地実習→	看護の統合と実践 （臨床看護統合実習）

Ⅴ　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

令和6年度　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

分野	科目名	担当教員	開設		単位数	時間数	授業区分
基礎分野	心理学	医療機関において実務経験を有する公認心理師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	人間発達学	医療機関において実務経験を有する臨床心理士が担当する	1年次	前期	1	15	講義・演習
	コミニケション論	医療機関において実務経験を有する公認心理師が担当する	2年次	前期	1	15	講義・演習
専門基礎分野	生化学	医療機関において実務経験を有する薬剤師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	解剖生理学Ⅰ	医療機関において実務経験を有する看護師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	解剖生理学Ⅱ	医療機関において実務経験を有する看護師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	解剖生理学Ⅲ	医療機関において実務経験を有する看護師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	解剖生理学演習	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	演習
	病理学	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	前期	1	30	講義
	病態治療学総論	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	2年次	前期	1	30	講義
	病態治療学Ⅰ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	病態治療学Ⅱ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	病態治療学Ⅲ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	病態治療学Ⅳ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	病態治療学Ⅴ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	リハビリテーション概論	医療機関において実務経験を有する医師・理学・作業療法士が担当する	2年次	前期	1	15	講義
	栄養食事療法	医療機関において実務経験を有する管理栄養士が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	薬理学	医療機関において実務経験を有する薬剤師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	臨床薬理学演習	医療機関において実務経験を有する薬剤師・専任教員が担当する	2年次	後期	1	15	演習
	微生物学	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	健康教育方法論	医療機関において実務経験を有する保健師が担当する	2年次	前期	1	15	講義
	医療概論	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	1年次	後期	1	15	講義
専門分野	基礎看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	15	講義・演習
	援助論Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅳ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅴ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅵ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅶ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅷ	医療機関において看護師・助産婦の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	30	講義・演習
	臨床看護論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	基礎看護統合演習	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	前期	1	30	演習
	看護研究の基礎	医療機関において実務経験を有する看護師が担当する	2年次	後期	1	15	講義・演習
	地域・在宅看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	援助論Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	15	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義
	援助論Ⅳ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	講義	1	30	講義
	成人看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅳ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義・演習
	老年看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	15	講義
	援助論Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	通年	1	30	講義・演習
	援助論Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	侑年	1	30	講義・演習
	精神看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	通年	1	30	講義
	援助論Ⅰ	医療機関において実務経験を有する医師、看護師が担当する	1年次	後期	1	30	講義
	援助論Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義
	援助論Ⅲ	医療機関において実務経験を有する看護師、専任教員が担当する	2年次	講義	1	15	演習
	小児看護　概論	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	15	講義
	援助論Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において実務経験を有する医師が担当する	2年次	前期	1	15	講義
	援助論Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義・演習
	母性看護　概論	医療機関において助産師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	後期	1	15	講義
	援助論Ⅰ	医療機関において実務経験を有する看護師・専任教員が担当する	2年次	通年	1	30	講義・演習
	援助論Ⅱ	医療機関において助産師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	援助論Ⅲ	医療機関において助産師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義・演習
	臨床看護統合科目Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	15	講義・演習
	臨床看護統合科目Ⅱ	医療機関において管理者としての実務経験を有する看護師が担当する	3年次	前期	1	30	講義
		医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する					講義・演習
	臨床看護統合科目Ⅲ	医療機関において実務経験を有する看護師が担当する	2年次	後期	1	30	講義・演習
	臨床看護統合科目Ⅳ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	30	演習
	領域横断　周手術期看護	医療機関において実務経験を有する医師・専任教員が担当する	2年次	前期	1	30	講義・演習
	エンドオブライフケア看護学	医療機関において実務経験を有する医師・専任教員が担当する	2年次	後期	1	30	講義
臨地実習	基礎看護学　実習Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	1年次	通年	1	45	実習
	基礎看護学　実習Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	2年次	後期	3	135	実習
臨地実習	地域・在宅看護論実習	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	2	90	実習
	成人・老年看護学実習Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	3	135	実習
臨地実習	成人・老年看護学実習Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
	成人・老年看護学実習Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	2	90	実習
臨地実習	成人・老年看護学実習Ⅳ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	2	90	実習
	精神看護学実習Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
臨地実習	精神看護学実習Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
	成育過程実習Ⅰ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
臨地実習	成育過程実習Ⅱ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
	母性看護学実習	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	2	90	実習
臨地実習	成育過程実習Ⅲ	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	通年	1	45	実習
	臨床看護統合実習	医療機関において看護師の実務経験を有する専任教員が担当する	3年次	後期	2	90	実習
計					89	2790	

Ⅳ　1年次科目

1. 基礎分野

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
心理学 時間割表記名　心理学	講義	1年	前期	1	30	小林周平
講義のねらい:　看護という新しい職業に適応するために、自分自身をよく理解する必要性と患者の心理を理解するために心理学を学ぶ。						
到達目標　: １．心理学の基本的知識を習得する。 ２．人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、人間の行動を理解する。 ３．カウンセリングの基本技術を理解する。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の感想　(試験配分30%)　と筆記試験　(試験配分70%)	終講試験

成績評価基準　:　　毎回の感想文、定期試験から評価する

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	心理学とは何か(第1章)	合同	講義　A	小林周平
2	感覚・知覚（第2章）	合同	講義　A	小林周平
3	記憶（第3章）	合同	講義　A	小林周平
4	思考・言語・知能（第4章）	合同	講義　A	小林周平
5	学習（第5章）	合同	講義　A	小林周平
6	感情と動機づけ（第6章）	合同	講義　A	小林周平
7	性格とパーソナリティ（第7章）	合同	講義　A	小林周平
8	社会と集団（第8章）	合同	講義　A	小林周平
9	発達①（第9章）	合同	講義　A	小林周平
10	発達②（第9章）	合同	講義　A	小林周平
11	心理臨床①（第10章）	合同	講義　A	小林周平
12	心理臨床②（第10章）	合同	講義　A	小林周平
13	カウンセリングの実際と基本的な技術	合同	講義　A	小林周平
14	医療・看護と心理（第11章）	合同	講義　A	小林周平
15	まとめ	合同	講義　A	小林周平

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　： １．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。 ２．毎回の授業の感想は評価の対象となるので提出する。 ３．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
オフィスアワー　： 後日連絡する。
使用するテキスト　：　医学書院　基礎分野　心理学
参　考　書　：　　看護学生のための心理学　　医学書院
教員の実務　： 医療機関において公認心理士としての経験を踏まえ、自己理解・他者理解について、心理学の基本的知識を教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
人間発達学 時間割表記名　　発達学	講義	1年	後期	1	15	森岡由起子
講義のねらい: 身体的・心理的・社会的存在である人間を胎児期から老年期までのライフサイクルの中で理解し、ライフイベントが人間に与える影響と人間が成長発達し続けるという意味を学び、人間の尊厳を考えることができる。また、各段階における健康問題への支援について理解する。						
到達目標 １．人間発達学の定義と関連用語を知り、人間発達学の意義を説明できる。 ２．発達理論を説明できる。 ３．各期におけるライフサイクルを理解し、各段階の発達の特徴を知る。 ４．人間発達の視点から、健康問題や支援について説明できる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の感想　筆記試験　(試験配分100%)	終講試験

成績評価基準　:

各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り60点以上を合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	人間発達学の概説 １）人間と発達 ①形態・機能的側面の発達 ②心理・社会的側面の発達 ③発達の評価 ④発達にかかわる健康上の問題：死因順位・受療率 ⑤発達に必要な支援 ２）発達理論と歴史的展開	合同	講義　A	森岡由起子
2	人間のライフサイクルと発達 １）ライフサイクルとは ２）マタニティサイクル ３）胎児期の心と身体	合同	講義　A	森岡由起子

3	乳幼児期の心と身体	合同	講義　A	森岡由起子
4	学童期の心と身体 学生自身の学童期についてグループワーク	合同	講義　B	森岡由起子
5	思春期の心と身体	合同	講義　A	森岡由起子
6	青年期の心と身体 青年期である現在の心についてのグループワーク	合同	講義　B	森岡由起子
7	成人期の心と身体	合同	講義　A	森岡由起子
8	老年期の心と身体 「穏やかな死を迎える」ことを考える	合同	講義　A	森岡由起子

＊授業で取り扱う課題
事前学習として、自分の成長記録（母子手帳や母親から聞いたエピソードや自身の記録にある出来事やその時の様子）を振り返り簡単にまとめて参加してください。

オフィスアワー　：

講義の終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：　舟島なをみ、望月美知代　著　「看護のための人間発達学」第5版　医学書院

参　考　書　：　上田礼子　生涯人間発達学　改訂第2版増補版　美和書店
系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院

教員の実務　：　臨床心理士の実務経験のある非常勤講師
山形大学医学部看護学科教員経験（10年）：教授

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
家族社会学 時間割表記名　家族社会学	講義	1年	前期	1	15	牧野 修也
講義のねらい: 社会変動に伴い変化する様々な状況が、集団生活として最小単位である家族に与える影響について理解する。その上で、家族の構造や機能、夫婦関係、親子関係について考え、個人や社会にとっての家族の意義と医療現場においての家族支援の在り方を学習する。						
到達目標　:家族の”現実”と”多様性”を社会変動と関連して理解する。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　　レポート課題	終講試験

成績評価基準　:　　レポート、定期試験から評価する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	家族類型と家族機能	合同	講義　A	牧野 修也
2	自我とアイデンティティ	合同	講義　A	牧野 修也
3	近代家族と家制度	合同	講義　A	牧野 修也
4	ジェンダー	合同	講義　A	牧野 修也
5	核家族化	合同	講義　A	牧野 修也
6	家族と人口	合同	講義　A	牧野 修也
7	文化再生産と家族	合同	講義　A	牧野 修也
8	貧困と家族	合同	講義　A	牧野 修也

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:

1．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

オフィスアワー　:　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　:　〈社会のセキュリティ〉を生きる　「安全」「安心」と「幸福と」の関係　学文社

参　考　書　:

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
論理的思考 時間割表記名　論理的思考	講義 演習	1年	後期	1	15	飯塚　舜
講義のねらい: 誤った推論を避けてよい推論をする方法を身につけ、因果関係の理解を通して科学的な考え方に触れる。また表現したいことを適切に文章で表現できるようにする。						
到達目標　: １．私たちには誤った推論に陥る傾向があることを知り、よい推論の特徴を理解する。 ２．因果関係の様々なパターンと、因果関係を捉える科学的な方法を理解する。 ３．伝えたいことが読み手に正しく伝わるように文章を組み立てられる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　100%	終講試験

成績評価基準　:

この科目の到達目標の到達とし、筆記試験により判断する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	イントロダクション	合同	講義　A	飯塚　舜
2	バイアスと誤謬	合同	講義　A	飯塚　舜
3	推論－演繹と帰納	合同	講義　A	飯塚　舜
4	因果関係（1）－因果関係と相関関係	合同	講義　A	飯塚　舜
5	因果関係（2）－因果関係を捉える方法	合同	講義　A	飯塚　舜
6	科学と反証可能性	合同	講義　A	飯塚　舜
7	文章を書く(1)－情報の取捨選択と構成	合同	講義　A	飯塚　舜
8	文章を書く(2)－文と文の接続	合同	講義　A	飯塚　舜

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:

オフィスアワー　:　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　:　特に指定しない。資料を配布する

参　考　書　:

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
情報リテラシー 時間割表記名 情報リテラシー	講義	1年	後期	1	15	鈴木康文
講義のねらい: 医療関係者がなぜ情報を学ばなければならないのか、医療の情報化や守秘義務について理解し、医療とコンピュータについて基本的な事柄を学習する。 また、医療現場における情報の取り扱い方について、一部演習を用いて学習する。						
到達目標　: １．医療・医学に医療情報学が必要になった背景・要因を説明できる。 ２．医療で行われている情報システムの概要と役割を説明できる。 ３．パーソナルコンピューターの基本原理を理解する。 ４．パーソナルコンピュータによるデータの統計的処理の仕方を学ぶ ５．パーソナルコンピューターで簡単なプレゼンテーションをする。						

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　課題内容	終講試験
成績評価基準　:　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。		

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	医療の情報化、情報処理について	クラス別	講義　G	鈴木　康文
2	コンピュータの概要、基本操作	クラス別	講義　G	鈴木　康文
3	インターネットからの情報検索と収集	クラス別	演習　G	鈴木　康文
4	文書処理ソフトウェア演習	クラス別	演習　G	鈴木　康文
5	表計算ソフトウェア演習1	クラス別	演習　G	鈴木　康文
6	表計算ソフトウェア演習2	クラス別	演習　G	鈴木　康文
7	プレゼンテーションソフトウェア演習1	クラス別	演習　G	鈴木　康文
8	プレゼンテーションソフトウェア演習2	クラス別	講義　G	鈴木　康文

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:	授業は情報処理室で行います。 情報処理室へは筆記用具の持ち込みを禁止します。
オフィスアワー　:	授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト　:	新訂版　看護・医療系のための情報科学入門　第２版
参　考　書　:	

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
教育学 時間割表記名　　教育学	講義	1年	前期	1	30	笛木　哲
講義のねらい: 「教育とは何か」の概念と目標、評価方法を学び、人間を対象とする専門職である看護につなげることができる。さらに、自己を理解し将来のキャリアデザインの考え方について学習する。						
到達目標　: 1．教育目的、目標、評価方法を理解できる。 2．人の育て方を理解し看護に役立てる方法をが学ぶ。 3．自分や他者を理解するための方法を学ぶ。 4．自己の課題を明確にし自ら学ぶ姿勢をもつことができる。 5．将来のキャリアデザインを考えることができる。						

DPとの関連		
	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:

この科目の到達目標の到達とし、筆記試験や出席状況や提出物を加味し、総合的に判断する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	社会の中の教育と看護	合同	講義　A	笛木　哲
2	教育とは何か～「教育」の概念	合同	講義　A	笛木　哲
3	教育の対象～子ども観と発達	合同	講義　A	笛木　哲
4	社会変動と教育	合同	講義　A	笛木　哲
5	教育の組織化ー学校	合同	講義　A	笛木　哲
6	教授ー人を教えるということ	合同	講義　A	笛木　哲
7	訓育ー他者との関りを導く	合同	講義　A	笛木　哲
8	養護ー教育の受け手を見守る	合同	講義　A	笛木　哲
9	発達ー教育を受けて発達する	合同	講義　A	笛木　哲
10	学びの場ー家庭と学校	合同	講義　A	笛木　哲
11	教育の目標と評価	合同	講義　A	笛木　哲
12	教育のメディアー教育をデザインする	合同	講義　A	笛木　哲
13	教育の担い手ー専門性と専門職性	合同	講義　A	笛木　哲
14	教育の場の変動ー教育環境の変化にどう対応するか	合同	講義　A	笛木　哲
15	キャリア教育、特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育、生涯学習、シティズンシップ教育	合同	講義　A	笛木　哲

受講上の注意点　： １．講義前に該当するテキストの箇所を必ず読むこと。 ２．授業中の私語、居眠り、は慎み、携帯電話の持ち込みは禁止します。	
オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。	
使用するテキスト　：　医学書院　基礎分野　教育学	
参　考　書　：　適時提示します。	
教員の実務　：　小学校教諭一級普通免許を持ち、34年間の教員、校長経験を経て、幼稚園の園長として勤務している。	

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 基礎分野	科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
英語 時間割表記名　英語	講義	1年	前期	1	30	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor

講義のねらい:
　各自に正しい発音を学び、英語の聞き取りになれ、簡単な病院内の一般英会話と実践的看護英語ができるように基礎を学ぶことで、英会話の能力を伸ばすこと。

到達目標　:
　1．医療専門用語について理解する。
　2．医療・看護場面における日常英会話の簡単な

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	自己紹介・オリエンテーション	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
2・3	2号機　心配しないでください	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
4・5	Unit3　何かお手伝いできますか?	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
6・7	Unit4　調子はどうですか?	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
8	Unit5　この問診票に記入してもらえますか?	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
9	6号機　エレベータに乗る	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
10・11	Unit7　あなたの症状は何ですか? Unit8　どこが痛いですか?	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
12・13	Unit9　この症状はどれくらい前からありますか Unit10 血液サンプルを採取します	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
14	Unit11　バイタルサイン	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor
15	レビュー	Aクラス Bクラス	講義　B	Stephen Mark O'toole Nathan Taylor

	試験	Aクラス	講義　　B	Stephen Mark O'toole
		Bクラス		Nathan Taylor
＊授業で取り扱う課題				
受講上の注意点　：				
オフィスアワー　：				
使用するテキスト　：　Life Saver センゲージラーニング				
参　考　書　：				
教員の実務　：				

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
環境と人間 時間割表記名　　環境と人間	講義	1年	後期	1	15	与五沢真吾 山賀　貴
講義のねらい:　物理的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境を学び、環境の変化が人間の健康に大きくかかわっていることを学習する						
到達目標　:　1. 環境を生態学的にとらえ、人間もその中の一員として考えられる 2. 環境と人間の関わり合いが理解できる						

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:

到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	地球の変化と人間への影響 ・地球温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染、砂漠化それに対するの日本及び世界各国の環境対応	合同	講義　A	与五沢真吾
2	公害と健康影響について ・わが国の代表的な公害事件とその健康影響について	合同	講義　A	与五沢真吾
3	大気と健康 ・大気汚染物質とその健康影響について ・感染症における環境要因の重要性	合同	講義　A	与五沢真吾
4	上水道と下水道の役割 ・上水道の水質基準について ・上水道と下水道の普及率について	合同	講義　A	与五沢真吾
5	物理的環境要因の人間への影響(1) ・温熱、気圧など人の健康への影響	合同	講義　A	山賀　貴
6	物理的環境要因の人間への影響(2) ・放射線・非電離放射線など人の健康への影響	合同	講義　A	山賀　貴
7	物理的環境要因の人間への影響(3) ・騒音、振動など人の健康への影響	合同	講義　A	山賀　貴
8	まとめ	合同	講義　A	山賀　貴

＊授業で取り扱う課題 人間が生活する上でどのような環境が影響しているのかを考えた上で講義に参加
受講上の注意点　：　各講義前には指定の教科書を読んでから講義に参加すること
オフィスアワー　：　講義終了後に質問を受けつけます
使用するテキスト　： 公衆衛生がみえる2023-2024　　編集：医療情報科学研究所　発行：メディックメディア
参　考　書　：

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 基礎分野　科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
文化人類学 時間割表記名　文化人類学	講義	1年	後期	1	15	田口亜紗
講義のねらい:人やその生活を理解するためには、背景にある文化を知ることが欠かせない。人類の多様性と普遍性を研究する文化人類学を学ぶことで、異なる価値観や存在への理解に向けた柔軟性ある態度を養い、医療の世界を考える新しい視点の獲得を目指す。						
到達目標： 1.文化人類学の概念である文化相対主義の視座を身につけ、多様な価値を相対比して評価できるようになる。 2.看護学のケーススタディ（症例研究）に応用されるエスノグラフィ手法を学ぶ。 3.生老病死の社会的文脈を多角的に考える。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の課題　(40%)　とレポート　(60%)	

成績評価基準　：　全8回分の授業課題とレポート課題とをあわせて総合的に評価し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	【文化人類学とは何か】 文化相対主義の概念を学ぶことで、文化人類学のものの見方を理解する。エスノグラフィ手法の看護への応用可能性を知る。	合同	講義　A	田口亜紗
2	【食の文化史】 人類の環境適応と資源活用、食文化の歴史を知る。植民地主義やグローバリゼーション/グローカリゼーション、宗教的実践、持続可能社会について検討する。	合同	講義　A	田口亜紗
3	【家族のかたち】 母系制やポリガミー、女性婚、生殖革命がもたらした家族などの事例に触れることで家族モデルの多様性を理解すると同時に、これからの家族のありかたを考える。	合同	講義　A	田口亜紗
4	【男女という制度】 DSDや「第３の性」の文化から性の多様性を学ぶ。性別2元制や異性愛主義、近代家族モデル、医療化概念を理解し、ジェンダー平等社会について展望する。	合同	講義　A	田口亜紗
5	【出産と月経の今昔】 出産や月経の事例を紐解き、身体や生命をめぐる価値の変化を考察する。医療化、SDGsとMHM、包括的性教育、生理の貧困、フェムテックについて多角的に検討する。	合同	講義　A	田口亜紗
6	【人体部分の流通】 人体の資源化の歴史を辿りながら、現代進展しているグローバルな人体流通や医療ツーリズムの実態を知るとともに、医療行為と身体の今日的な意味について考える。	合同	講義　A	田口亜紗
7	【老いと死の価値】 長寿儀礼や葬送儀礼、遺体処置の事例に触れながら、人類の死生観の変遷や穢れ感、専門家支配、ポスト・コロナ時代における遺体との向き合い方について考察する。	合同	講義　A	田口亜紗

8	【苦悩と癒し】 優生思想と健康概念、非西洋医学や代替医療を活用する統合医療の理論的背景を知る。治病儀礼の意義を分析し「スピリチュアルな健康」概念を検討する。	合同	講義　　A	田口亜紗

＊授業で取り扱う課題
第1回目の授業で提示する。

受講上の注意点　：　授業日までに関連する文献や新聞記事などに目を通しておく。

授業後は、授業で配布された資料や自身が作成したノートを見直したり、参考文献にあたるなどしてテーマへの理解を深めること。

オフィスアワー　：　授業後に教室で相談を受ける。Webclassでの問い合わせも可能。

使用するテキスト　：　特に指定しない。

参　考　書　：　『医学書院　基礎分野　文化人類学』。その他、適宜紹介する。

教員の実務　：

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
自己啓発論 時間割表記名　自己啓発論	演習	1年	前期	1	30	※2一色潤子 ※2菊池　衛 ※2中村麻美 ※2岩澤浩江

講義のねらい:
過去の自己を振り返り、現在・近未来の自分について考え、自己の潜在能力や可能性を引き出す為の、考え方や意識のもち方、自立に向けた動機づけとなる技術・方策を学ぶ。また対人関係に必要なコミュニケーションスキルを身につける。

到達目標　:
1．過去の自己を振り返り、現在・近未来の自分について考え、短期目標を設定する。今後の学校生活を意欲的に取り組めるようにする。
2．物事に対して主体的な態度で、ポジティブに取り組むことの必要性、重要性を理解する。
3．グループ活動を通して、要点をまとめ積極的に意見を述べ、他者の発言を傾聴し思いを汲み取る大切さを体感する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる 4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている 5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	授業の参加態度

成績評価基準　:

到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	①実践行動学プログラムの動機づけ モチベーション自己評価・アイスブレイク ②Part１　マジックドア１： 夢と目標	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
2	①Part１　マジックドア２： 夢を食うバク「誤った思い込みと言い訳」 ②Part１　マジックドア３： 自分への信頼を取り戻すために その１ - 行動のよりどころと心構え	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
3	①Part１　マジックドア４： 自分への信頼を取り戻すために その２ - まず第１歩を(ポジティブ・ネガティブマインド) ②Part１　マジックドア５： 目標を設定しよう	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
4	①Part１の振り返り、Part２自分の可能性を広げよう ②Part２　マジックドア１： プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
5	①Part２　マジックドア２： 考え方を変えれば行動が変わる ※肯定的な言葉	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
6	①Part２　マジックドア３： あなたの問題はあなたが解決できる ②ソリューション・フォーカスについて講義	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
7	①Part２　マジックドア４： あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう ②アサーションについての講義・演習	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)
8	①ステップアップシート：目標達成の振り返り ②モチベーション自己評価　アイスブレイク	ｸﾗｽ別	演習	A	一色潤子 中村麻美 (岩澤・菊池)

9	①Part２　マジックドア５： 目標があなたの才能・可能性を開花させる ②Part２の振り返り、Part３社会へ出る準備を始めよう ステップアップシート作成	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
10	①Part３　マジックドア１： 入学から今日までの成長を実感しよう	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
11	①Part３　マジックドア２： 働く自分をイメージしてみよう	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
12	①Part３　マジックドア３： 自分が最大限に活きる働き方とは ②社会人３つの能力と12の能力要素について講義	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
13	①Part３　マジックドア４： 将来を描いてみよう 生涯設計ライフプラン	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
14	①Part３　マジックドア５： 夢実現への第一歩を踏み出そう 夢実現整理・行動シート作成	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)
15	①ステップアップシート：目標達成の振り返り ②モチベーション自己評価・アイスブレイク	ｸﾗｽ別	演習	A	菊池衛 岩澤浩江 (一色・中村)

※授業で取り扱う課題
生活指導に関連する文献検索および自己学習

受講上の注意点　：　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙの自己統制・表現力・解読力・自己主張・他者受容・関係調整を意識して演習に臨みましょう。
※シラバス1-8は１年次に実施し、9-15は２年次に実施する。

オフィスアワー　：　授業に関する質問は、授業終了後や放課後に受け付けます。

使用するテキスト　：　夢実現のための実践行動学　実践行動学研究所

参　考　書　：なし

※2看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基盤・人間の生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域体験 時間割表記名　地域体験	演習	1年	後期	1	15	中村美智子 小林成美
講義のねらい: 看護の対象は、地域で生活する人々である。川越市の特性を知り、その特性が地域の人々の暮らしや健康にどのように影響しているのかを理解し、健康な生活への支援方法を考えることができる。						
到達目標　: １．川越市の歴史と文化、住民の意識調査結果、市の第4次総合計画を理解する。 ２．地域踏査で得られた地域の雰囲気や住民の暮らしぶりについて説明する。 ３．地域の人々の生活と健康問題について意見を述べる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	グループ活動の発表内容とレポート
成績評価基準　:	グループ活動の行動計画（20%）・発表（50%）・個人のレポート（30%）

各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	地域体験の概要の説明 １）目的と地域踏査の企画方法 川越市の特性を理解する １）歴史と文化 ２）住民の意識調査 ３）第4次総合計画	合同	講義　A	中村美智子 小林成美
2	川越市の特性や住民の暮らしを理解するための地域踏査の計画を話し合う １）各自で考えたテーマを発表し、グループのテーマを決める。 ２）地域踏査の行動計画を立てる。 ３）地域の人々へのインタビューの内容を考える。	合同	グループワーク	中村美智子 小林成美

3~5	グループのテーマを探求するために、立案した行動計画に沿って地域踏査を行う １）グループで目的地を見て歩き、地域の生活環境を観察すると共に人々の暮らしを知る ２）テーマに合った視点の内容、川越の住みやすさ、健康の保持増進のために心掛けていることなどのインタビューを通し、地域の人々の意識を知る ３）発表をするために役立つ資料（写真、パンフレットなど）を収集する	合同	G.その他 学外	中村美智子 小林成美
6	地域踏査のまとめ １）事前学習や体験前の思いも交えて、地域踏査でわかったことをテーマに沿ってまとめる ２）住民の健康問題や暮らしやすさの視点で話し合う ３）効果的な発表方法を考えまとめる	合同	グループワーク	中村美智子 小林成美
7~8	地域踏査の発表を通して、テーマにあげた課題と地域踏査から得られた結果を明確にし、川越という地域の特性と人々の暮らしと健康について共有する	合同	グループワーク	中村美智子 小林成美

＊授業で取り扱う課題
1回目は川越市の資料から情報を収集する。２回目は、各自が考えた地域踏査のテーマををグループで話し合う。３回目からの地域体験は、クラス別に5～6人のグループで、テーマに沿って川越市内の歴史や文化財の見学や地域の人々へのインタビューなどを行う。発表会は、地域体験から得た地域の特徴を発表し、川越市の人々の暮らしと健康について共有する。

受講上の注意点　：

自由なグループ活動です。各自が主体的に学習に取り組み、行動計画をしっかり立てましょう。また、訪問する場合は、各グループで事前に連絡調整し、挨拶や時間厳守などマナーをしっかりして下さい。
混雑した場所での活動ですので、感染対策をしっかり行ってください。

オフィスアワー　：

講義の終了後、空いている時間に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

特にテキストはありません。

参　考　書　：　川越市広報室編、川越市市勢要覧2022
川越市市民部広聴課編、第14回川越市市民意識調査報告書、2022
川越市総合政策部政策企画課編、第4次川越市総合計画実施計画（令和5年度～7年度）
川越市政策企画課編、川越市百周年記念誌、2022

教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

2. 専門基礎分野

授業科目の区分:　専門基礎分野	人体の構造と機能	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
生化学 時間割表記名：生化学	講義	1年	前期	1	30	大澤　雄一郎 小島　光寛

講義のねらい:
　生命を維持するための細胞の構造と機能を学習し、生体がどのような化合物で構成されているのか、壊された生体の恒常性が保たれているのかを知ることで、人体の生命反応を学習する。

到達目標　:
　１．生体を構成する化学物質の性状、機能を理解する。
　２．生体のホメオスターシスのための代謝調節の仕組みを理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	無機化学（１） １．生体を構成する物質 １）生体を構成する元素	合同	講義　A	小島光寛
2	無機化学（２） １．酸と塩基	合同	講義　A	小島光寛
3	無機化学（３） １．配合変化	合同	講義　A	小島光寛
4	有機化学（１） １．有機化合物と無機化合物 １）有機化合物の特徴	合同	講義　A	小島光寛
5	有機化学（２） １．有機化合物と無機化合物 １）金属 ２）食品の化学	合同	講義　A	小島光寛
6	生化学の基礎知識 １．生命維持と生化学・栄養学 ２．消化の意義そして吸収方法 ３．生化学の基礎知識	合同	講義　A	大澤雄一郎
7	生体を構成する物質（１） １．糖質 ２．脂質	合同	講義　A	大澤雄一郎
8	生体を構成する物質（２） １．タンパク質 ２．核酸	合同	講義　A	大澤雄一郎
9	生体を構成する物質（３） １．ミネラル(無機質) ２．酵素	合同	講義　A	大澤雄一郎

10	エネルギー代謝 物質代謝（１） １．エネルギー代謝とは ２．ATP ３．エネルギーの使い道 ４．糖代謝	合同	講義　A	大澤雄一郎
11	物質代謝（２） １．脂質代謝	合同	講義　A	大澤雄一郎
12	物質代謝（３） ２．脂質代謝	合同	講義　A	大澤雄一郎
13	物質代謝（４） ３．タンパク代謝	合同	講義　A	大澤雄一郎
14	遺伝情報の伝達と発現 １．核酸代謝そしてタンパク合成 ２．タンパク合成の仕組み	合同	講義　A	大澤雄一郎
15	ホメオスターシス（健康のしくみ） 1．ホルモンの意義と種類 ２．生体防御のしくみ	合同	講義　A	大澤雄一郎

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

１．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：　穂刈茂　他著　「超入門　生化学・栄誉学」　照林社

参　考　書　：

穂刈茂、長谷川正博、小山岩雄著「超入門生化学・栄養学」照林社

教員の実務　：　医療機関において薬剤師としての経験を踏まえ、生命活動を営むための基本な原理と物質代謝の機序について概説する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門基礎分野	人体の構造と機能	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
解剖生理学Ⅰ 時間割表記名　解生Ⅰ	講義	1年	前期	1	30	佐々木順承

講義のねらい:
　疾患の理解をもとにした看護展開や根拠に基づいた医療実践には、ヒトの正常構造に関する知識と、生体の変化についての知識が必要不可欠である。解剖生理学Ⅱでは消化と吸収、ホルモン、身体内部環境の調整にあずかる部分の構造と機能について学習し、臨床判断能力の基盤とする。

到達目標　:栄養・排泄とそれに関わる神経の解剖学的構造の知識を土台として、正常機能を科学的に理解し記憶することで栄養・排泄の正常・異常が理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　：この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容と成果	クラス	※方法と場所	担当教員
1	はじめに ①解剖生理学からどのようなことを学ぶのか (看護学と解剖学との接点を考える)	合同	講義　A	佐々木順承
2	②人体とはどのようなものか 人体の素材としての細胞・組織 ①細胞・組織の構造と機能 ②上皮組織・支持組織・骨組織・神経組織の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
3	体液とホメオスタシス 人体機能の場としての体液の構成を学習し「調整」について学習する。	合同	講義　A	佐々木順承
4	血液の循環とその調節-１ ①循環器系の構成 ②心臓の構造と機能と異常症状 ③血管の構造と機能と異常症状 ④心電図の正常・異常波形	合同	講義　A	佐々木順承
5		合同	講義　A	佐々木順承
6		合同	講義　A	佐々木順承
7	血液の循環とその調節-２ ④肺循環の血管系 ⑤体循環の動脈系 ⑥体循環の静脈系 ⑦リンパとリンパ管系	合同	講義　A	佐々木順承
8		合同	講義　A	佐々木順承
9		合同	講義　A	佐々木順承
10	息をする－１ ①呼吸と呼吸器系の構造 ②呼吸運動とその調節 ③換気とその異常を学習する	合同	講義　A	佐々木順承
11		合同	講義　A	佐々木順承
12	息をする－２ ④血液の組成と機能 ⑤酸素と二酸化炭素の人体内での移動およびその化学変化	合同	講義　A	佐々木順承
13		合同	講義　A	佐々木順承
14		合同	講義　A	佐々木順承
15	まとめ	合同	試験　A	佐々木順承

＊授業で取り扱う課題等
受講上の注意点　： １．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ２．解剖生理学ワークブックは、予習・復習に活用する。 ３．解剖学は専門基礎科目、専門科目のベースとなる授業になる授業になるので特に復習の時間を要すること。 ４．専門用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。
オフィスアワー　:授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト:　系統看護学講座専門基礎分野　解剖生理学人体の構造と機能〔1〕医学書院 目で見るからだのメカニズム　第2版　医学書院
参　考　書　：解剖生理ワークブック　医学書院
教員の実務　：看護師の実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 専門基礎分野	人体の構造と機能	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
解剖生理学Ⅱ 時間割表記名　解生Ⅱ	講義	1年	前期	1	30	佐々木順承

講義のねらい:
　疾患の理解をもとにした看護展開や根拠に基づいた医療実践には、ヒトの正常構造に関する知識と、生体の変化についての知識が必要不可欠である。解剖生理学Ⅱでは、呼吸・循環体液の調整の構造と機能および以上について学習し、臨床判断能力の基盤とする。

到達目標　:呼吸・循環・体液の調整に関係する解剖学的構造の知識を土台として、正常機能を科学的に理解し記憶することで酸素化と体液の調整の正常・異常が理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容と成果	クラス	方法と場所	担当教員
1	栄養の消化と吸収-1 食物の吸収から排泄までを理解する。 ①食物摂取と消化器系 ②口腔～咽頭～食道の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
2		合同	講義　A	佐々木順承
3	栄養の消化と吸収-2 ③腹部消化管の構造と機能　（胃～小腸～大腸）	合同	講義　A	佐々木順承
4		合同	講義　A	佐々木順承
5	栄養の消化と吸収-3 ④付属腺の構造と機能（肝臓・胆嚢・膵臓） ⑤腹膜と内臓の位置関係	合同	講義　A	佐々木順承
6		合同	講義　A	佐々木順承
7	体液の調整と尿の生成-1 ①尿生成と泌尿器系 ②腎臓の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
8		合同	講義　A	佐々木順承
9	体液の調整と尿の生成-2 ③排尿路の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
10	内臓機能の調節－1 ①内分泌系による調節 ②内分泌系とホルモン ③視床下部の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
11		合同	講義　A	佐々木順承
12	内臓機能の調節－2 ④甲状腺・膵臓・副腎・精巣・卵巣などの構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
13	内臓機能の調節-3 ⑤自律神経系による調節 ⑥交感神経と副交感神経	合同	講義　A	佐々木順承
14		合同	講義　A	佐々木順承
15	まとめ	合同	試験　A	佐々木順承

＊授業で取り扱う課題等
受講上の注意点　： １．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ２．解剖生理学ワークブックは、予習・復習に活用する。 ３．解剖学は専門基礎科目、専門科目のベースとなる授業になる授業になるので特に復習の時間を要すること。 ４．専門用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。
オフィスアワー　：授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト：系統看護学講座　専門基礎分野「解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕医学書院 目で見るからだのメカニズム　第2版　医学書院
参　考　書　：　解剖生理ワークブック　　医学書院
教員の実務　：　看護師の実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	人体の構造と機能	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
解剖生理学Ⅲ 時間割表記名　解生Ⅲ	講義	1年	後期	1	30	佐々木順承

講義のねらい:
　疾患の理解をもとにした看護展開や根拠に基づいた医療実践には、ヒトの正常構造に関する知識と、生体の変化についての知識が必要不可欠である。解剖生理学Ⅲでは、骨格・筋・感覚器・脳など、外部環境への対応に働く部分の構造と機能、および生殖・発生の仕組みについて学習し、臨床判断能力の基盤とする。

到達目標　:活動に関わる骨・筋・神経の解剖学的構造を土台として、正常機能を科学的に理解し記憶することで活動・防御の正常・異常が理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　：この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容と成果	クラス	方法と場所	担当教員
1	身体の支持と運動-１ ①人体の骨格・骨の形態・骨の発生　②骨の連結 ③骨格系の構造（脊柱・頭頚部・胸郭・上肢・骨盤・下肢の骨）	合同	講義　A	佐々木順承
2	身体の支持と運動-２ ④筋の収縮と基本的な動き ⑤頭頚部・胸部・背部・腹部の筋 ⑥骨格筋と支配神経	合同	講義　A	佐々木順承
3	身体の支持と運動-3 ⑦骨格筋の機能と調整	合同	講義　A	佐々木順承
4	情報の受容と処理-１ ①神経系の構造 ②中枢神経と末梢神経 ③脳・脊髄の構造と機能およびその異常。	合同	講義　A	佐々木順承
5		合同	講義　A	佐々木順承
6		合同	講義　A	佐々木順承
7	情報の受容と処理-２ ④脳神経・脊髄神経の構造と機能 ⑤脳神経の構成と支配領域およびその異常 ⑥脊髄神経の構造と支配領域	合同	講義　A	佐々木順承
8		合同	講義　A	佐々木順承
9		合同	講義　A	佐々木順承
10	情報の受容と処理-３ ⑦視覚の構造と機能およびその異常 ⑧聴覚・平衡覚の構造と機能およびその異常 ⑨味覚と嗅覚の構造と機能およびその異常	合同	講義　A	佐々木順承
11		合同	講義　A	佐々木順承

12	外部環境からの防御 ①皮膚の構造と機能 ②生体防御の関連臓器（リンパ節・脾臓など）	合同	講義　A	佐々木順承
13	生殖・発生のしくみ-1 ①女性生殖器の構造と機能 ②乳腺の構造と機能	合同	講義　A	佐々木順承
14	生殖・発生のしくみ-2 ③男性生殖器の構造と機能 ④受精と胎児の発生	合同	講義　A	佐々木順承
15	まとめ	合同	試験　A	佐々木順承

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点　：
１．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
２．解剖生理学ワークブックは、予習・復習に活用する。
３．解剖学は専門基礎科目、専門科目のベースとなる授業になる授業になるので特に復習の時間を要すること。
４．専門用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　：授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト系統看護学講座　専門基礎分野「解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕医学書院
目で見るからだのメカニズム　第2版　医学書院

参　考　書　：解剖生理ワークブック　医学書院

教員の実務　：看護師の実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門基礎分野	人体の構造と機能	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
解剖生理学演習 時間割表記名　解生演習	講義	1年	後期	1	30	高田 麻衣 山野 歩 他専任教員

講義のねらい:
人間が「生きる」「生きていく」ために関係する解剖生理学をグループワークで日常生活と関連させて主体的に学習し、臨床判断能力の基盤とする。

到達目標　:
１．臨床判断を行ううえでの基礎となる人間のからだのつくりやはたらきを理解する。
２．からだのつくりやはたらきを理解することで看護援助は人間の生命の営みを助ける重要　　な役割をもっていることを理解する。
３．生命の尊厳と倫理観に基づいた行動がとれる。
４．解剖生理学の基本的な共通用語を使用して、他者にからだのつくりやはたらきを説明する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：	グループワークの参加状況と発表による成果物から評価	終講試験

成績評価基準　:
自己学習、GWへの参加状況と発表内容が到達目標を達成できているかで評価する。

回	学習内容と成果	クラス	※1　方法と場所	担当教員
1	講義の全体の説明とグループ編成。 ①血液が巡る②息をする③食べる④トイレに行く排尿⑤トイレに行く排便⑥防御する⑦清潔にする⑧リラックスする⑨眠る⑩活動する⑪子供を産む⑫話すに関係する人体に生じる症状が起こるメカニズムをグループで文献を使用し解明する。また、全体に共有ができるように発表資料とスライドを作成する。	合同	ガイダンスA GW	高田 麻衣 山野 歩
2			GW　G	専任教員
3			GW　G	専任教員
4	学習の成果と方向性の確認を指導教員から指導を受ける。	合同	GW　G	専任教員
5	文献学習と発表原稿の作成 ①血液が巡る②息をする③食べる④トイレに行く排尿⑤トイレに行く排便⑥防御する⑦清潔にする⑧リラックスする⑨眠る⑩活動する⑪子供を産む⑫話すに関係する人体に生じる症状が起こるメカニズムをグループで文献を使用し解明する。また、全体に共有ができるように発表資料とスライドを作成する。	合同	GW　G	専任教員
6		合同	GW　G	専任教員
7		合同	GW　G	専任教員
8	解剖見学オリエンテーション	合同	オリエンテーション　A	専任教員
9	解剖見学 ①剖出された臓器を観察することによって、その臓器と他臓器との位置関係をより深く理解する。	合同	解剖学教室 G	※外部講師
10	解剖見学 ②看護実践力を身に付けるため、看護技術の根拠となる構造を確認する。	合同	解剖学教室 G	※外部講師

11	発表スライドの指導・修正 人体に生じる症状が起こるメカニズムが、解剖生理学の視点が入った学習と資料作成ができているかを添削指導を受け、修正する。	合同	GW　G	専任教員
12	発表会１ ①～⑥	合同	発表会　A×２	専任教員
13		合同	発表会　A×２	専任教員
14	発表会２ ⑦～⑫	合同	発表会　A×２	専任教員
15		合同	発表会　A×２	専任教員

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点
グループワークには、各個人で調べ学習をして参加すること。

オフィスアワー　：４・８回で指導教員への質問を受け付けます。

使用するテキスト:
系統看護学講座　専門基礎分野「解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕医学書院
目で見るからだのメカニズム　第2版　医学書院

参　考　書　：看護　形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会
解剖生理ワークブック　医学書院

教員の実務　：※実務経験のある医師
看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進　　令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病理学 時間割表記名　病理学	講義	1年	後期	1	15	山下高久 今田浩生 永田真莉乃

講義のねらい:
疾病の成り立ちを考える上で病態生理の理解は必須であり，病理学はそのための基礎知識として必須である．本講義では臨床科目を理解する上で必要な知識を身につける．

到達目標　:
１．様々な症状、徴候、疾病の原因、成り立ち、を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容と成果	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	【総論】病理学で学ぶこと， 生活習慣と環境因子による生体の障害	合同	講義　A	永田真莉乃
2	【炎症・細胞障害】細胞・組織の損傷と修復，炎症	合同	講義　A	今田浩生
3	【免疫】免疫，移植と再生医療	合同	講義　A	山下高久
4	【感染症】感染症	合同	講義　A	山下高久
5	【循環障害】循環障害	合同	講義　A	今田浩生
6	【代謝障害】代謝障害	合同	講義　A	今田浩生
7	【先天異常】老化と死，先天異常と遺伝性疾患	合同	講義　A	山下高久
8	【腫瘍】腫瘍	合同	講義　A	永田真莉乃

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:

１．講義中の私語，居眠り，携帯電話の使用は厳禁とする．
２．初めて聞く用語が多く登場し，日常で使う用語であっても異なる意味で用いられているものもある．病理総論を中心とした講義であるが，各講師には臨床経験に基づいた実際的な話を含めて講義していただくように依頼している．講義中に登場してきた疾患は各自病理学テキストあるいは各臓器別の教科書を参照すること．

オフィスアワー　:　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　:　医学書院　疾病の成り立ちと回復の促進［１］　病理学

参　考　書　:

教員の実務　：

医療機関において臨床医と病理部での経験を踏まえて、疾病の原因となる個々の病変を理解するうえで必要な事柄について概説する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学Ⅰ (呼吸・循環) 時間割表記名　病態Ⅰ	講義	1年	後期	1	30	重城健太郎 井上芳郎 小宮山英徳 石原嗣郎 植松和嗣

講義のねらい:
健康障害の原因となる疾病や発生要因、病態・症状・検査・診断・治療について学ぶ。

到達目標　:
1. 循環器疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。
2. 呼吸器疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（試験配分　呼吸器50%　循環器　50%）	終講試験

成績評価基準　:
この科目の到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	循環器系疾患の病態と診断・治療 1. 冠血流障害 心筋梗塞・狭心症の発症様式と症候、診断 心筋梗塞・狭心症の外科的治療と内科的治療	合同	講義	A	重城健太郎
2	循環器系疾患の病態と診断・治療 2. 刺激伝導系の障害 徐脈性不整脈と頻脈性不整脈の病因・病態・症候 検査と診断、治療	合同	講義	A	石原嗣郎
3	循環器系疾患の病態と診断・治療 3. 弁機能の障害 大動脈弁疾患,僧帽弁疾患,三尖弁疾患の病因・ 病態・症候、検査と診断、治療（外科的治療含）	合同	講義	A	重城健太郎
4	循環器系疾患の病態と診断・治療 4. 血管系の疾患 大動脈瘤・大動脈解離の病因・病態・症候 検査と診断、内科的治療と外科的治療 下肢静脈瘤,深部静脈血栓症の病態・症候・診断・治療	合同	講義	A	石原嗣郎
5	循環器系疾患の病態と診断・治療 5. 心筋障害と心膜の異常 心筋症・心筋炎・心膜炎の病因・病態・症候 検査と診断、治療,心タンポナーデ	合同	講義	A	井上芳郎
6	6. 血圧異常・動脈硬化症 本態性高血圧症,二次性高血圧症の概要と診断・治療 低血圧症の概要と診断・治療	合同	講義	A	井上芳郎

7	循環器系疾患の病態と診断・治療 7. 心不全 心不全の定義,原因と基礎疾患 心不全の病態とメカニズム・代償機構, 心不全の分類,ステージ分類,重症度分類 検査と診断、治療	合同	講義　A	小宮山英徳
8	循環器系疾患の病態と診断・治療 8. 先天性心疾患　心臓の形態異常とは 動脈管開存症,心房中隔欠損症,心室中隔欠損症, ファロー四徴症,完全大血管転位症の病態と検査 診断・治療	合同	講義　A	小宮山英徳
9	呼吸器系疾患の病態と診断・治療 1.呼吸器感染症 かぜと急性気管支炎,インフルエンザ,細菌性肺炎 結核の症状,診断,治療	合同	講義　A	植松和嗣
10	呼吸器系疾患の病態と診断・治療 2. 気道疾患 気管支喘息,気管支拡張症の症状・診断・治療	合同	講義　A	植松和嗣
11	呼吸器系疾患の病態と診断・治療：換気障害① 3. 慢性閉塞性肺疾患 病態・症状・身体所見 検査、診断・治療	合同	講義　A	植松和嗣
12	呼吸器系疾患の病態と診断・治療：換気障害② 4. 間質性肺疾患 間質性肺炎,放射線肺炎,薬剤性肺炎,サルコイドーシスの病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義　A	植松和嗣
13	呼吸器系疾患の病態と診断・治療 5. 肺腫瘍 良性腫瘍：過誤腫と硬化性血管腫 悪性腫瘍：原発性肺がんの組織型の分類と病態 症状・検査・診断(病期分類)・治療(外科療法・ 放射線療法・化学療法)	合同	講義　A	植松和嗣
14	呼吸器系疾患の病態と診断・治療 6. 胸膜・縦隔疾患 胸膜炎,気胸・血胸,胸膜中皮腫の病態・診断・治療 縦隔炎・縦隔腫瘍の病態,検査・診断・治療	合同	講義　A	植松和嗣
15	呼吸器系疾患の病態と診断・治療 7. 肺循環疾患 肺高血圧症の病態,症状,診断,治療 肺血栓塞栓症の病態,症状,診断,治療と予防	合同	講義　A	植松和嗣

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点　：

１．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
３．病態学は解剖生理学、病理学の知識を必要とします。予習をして授業に臨むこと。
４．専門用語が頻出します。読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：　医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学［２］　呼吸器」
医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学［３］　循環器」

参　考　書　：

教員の実務　：
医療機関において臨床医としての非常勤講師。呼吸器、循環器系の主な病態・診断・治療について教授する。

※1 方法と場所の場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　E、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学Ⅱ （血液造血器・化学療法・ アレルギー・膠原病） 時間割表記名　病態Ⅱ	講義	1年	後期	1	30	多林孝之 髙橋康之 倉沢隆彦

講義のねらい:
健康障害の原因となる疾病や発生要因、病態・症状・検査・診断・治療について学ぶ。

到達目標　:
1. 血液疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。
2.アレルギー・膠原病の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。
3. 化学療法について理解できる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験 （血液造血器30%　化学療法15% アレルギー膠原病55%）	終講試験

成績評価基準　:
この到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	血液・造血器疾患の病態　検査と診断・治療 1．貧血：鉄欠乏性貧血,再生不良性貧血,溶血性貧血 自己免疫性溶血性貧血,巨赤芽球性貧血の 原因と病態、症状,検査,診断と治療	合同	講義　A	多林孝之
2	血液・造血器疾患の病態　検査と診断・治療 2．出血性疾患：突発性血小板減少性紫斑病, 血栓性血小板減少性紫斑病,　血友病,播種性血管 内凝固,IgA血管炎の原因と病態,症状,検査,診断と 治療	合同	講義　A	多林孝之
3	血液・造血器疾患の病態　検査と診断・治療 3．血球異常①：急性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病,慢性骨髄性白血病,骨髄異形 成症候群の原因と病態,症状,検査,診断と治療 造血幹細胞移植,骨髄移植について	合同	講義　A	髙橋康之
4	血液・造血器疾患の病態　検査と診断・治療 4．血球異常②：急性リンパ性白血病,成人T細胞 白血病/リンパ腫,慢性リンパ性白血病,多発性骨髄 腫の原因と病態,症状,検査,診断と治療	合同	講義　A	多林孝之
5	血液・造血器疾患の病態　検査と診断・治療 5．悪性リンパ腫：ホジキンリンパ腫 非ホジキンリンパ腫の原因と病態 症状,検査,診断と治療	合同	講義　A	髙橋康之

6	化学療法① 化学療法とは 化学療法の施行が決定されるまでの流れ 化学療法が実施可能な条件 患者・家族へのインフォームドコンセント	合同	講義　　A	多林孝之
7	化学療法② 抗悪性腫瘍薬の種類と特徴 化学療法の治療計画（レジメン） 化学療法実施後の治療効果と副作用について	合同	講義　　A	多林孝之
8	アレルギー疾患の病態　検査と診断・治療 1. アレルギーのしくみ アレルギー反応の分類とアレルゲンの種類 アトピー性皮膚炎,接触性皮膚炎の原因,病態,症状, 検査,診断,治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦
9	アレルギー疾患の病態　検査と診断・治療 2. 食物アレルギー,薬物アレルギー,蕁麻疹の原因と 病態,症状,検査,診断,治療 アナフィラキシーの発生機序	合同	講義　　A	倉沢隆彦
10	アレルギー疾患の病態　検査と診断・治療 3. 気管支喘息,花粉症の原因,病態,症状,検査, 診断,治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦
11	アレルギー疾患の病態　検査と診断・治療 4.ラテックスアレルギー,職業性アレルギー 化学物質過敏症 アレルゲン免疫療法について	合同	講義　　A	倉沢隆彦
12	自己免疫疾患・膠原病の病態　検査と診断治療 1. 多発性筋炎・皮膚筋炎・強皮症の原因,病態,症状 検査・診断・治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦
13	自己免疫疾患・膠原病の病態　検査と診断治療 2. 全身性エリテマトーデス,シェーグレン症候群の 原因,病態,症状,検査,診断,治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦
14	自己免疫疾患・膠原病の病態　検査と診断治療 3. 関節リウマチの原因,病態,症状,検査,診断,治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦
15	自己免疫疾患・膠原病の病態　検査と診断治療 ４．血管炎症候群,ベーチェット病の原因,病態,症状 検査,診断,治療	合同	講義　　A	倉沢隆彦

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点　：

１．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
３．病態学は解剖生理学、病理学の知識を必要とします。予習をして授業に臨むこと。
４．専門用語が頻出します。読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学［４］　血液・造血器」

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[11]　アレルギー　膠原病　感染症」

参　考　書　：

教員の実務　：

医療機関において臨床医としての非常勤講師。血液・造血器系、化学療法、アレルギー・膠原病の主な病態・診断・治療について教授する。

※1 方法と場所の場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　E、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学Ⅲ （脳・神経、運動器） 時間割表記名　病態Ⅲ	講義	1年	後期	1	30	吉田信介 齊藤　徹 花　大洵 轟　和典 海田賢一 王子　聡 門間一成 武井良太
脳・神経系、運動器系の健康障害の原因となる疾病や発生要因、病態や症状検査について理解できる。						
到達目標 ①脳神経系の機能障害のメカニズムと原因・症状・検査・診断・治療について説明することができる。 ②運動器系の機能障害のメカニズムと原因・症状・検査・診断・治療について説明することができる。						

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　（試験配分　脳・神経60%　運動器40%）	終講試験

成績評価基準　：　試験内容

この到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	脳の解剖と生理	合同	講義	A	吉田信介
2	神経学的診察法	合同	講義	A	花　大洵
3	頭部外傷	合同	講義	A	轟　和典
4	脳卒中（1）：脳梗塞	合同	講義	A	轟　和典
5	脳卒中（2）：脳出血とクモ膜下出血	合同	講義	A	斉藤　徹
6	脳腫瘍：悪性と良性	合同	講義	A	花　大洵
7	変性疾患 ①パーキンソン病　②認知症　③多発性硬化症の病態・症状・検査・診断・治療　不随運動	合同	講義	A	海田賢一
8	末梢神経系の疾患 ①ギランバレー症候群　圧迫性神経障害　顔面神経麻痺 自律神経失調症の病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義	A	門間一成
9	炎症性疾患 ①脳炎　②髄膜炎　③脳膿瘍の病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義	A	王子聡
10	筋肉・神経系接合部の疾患の病態と治療 ①筋ジストロフィー②重症筋無力症③筋萎縮性側索硬化症（ALS）④筋炎の病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義	A	門間一成
11	外因性の運動器疾患と内因性の運動器疾患 ①骨折　②捻挫・打撲　③脱臼④神経損傷⑤筋・腱・靭帯の損傷　⑥先天性運動器疾患　病態・症状・検査・診断・治療 コンパーメント症候群	合同	講義	A	武井良太
12		合同	講義	A	武井良太
13	脊椎の疾患 ①頸椎・脊椎症②腰部脊柱管狭窄症③脊柱靭帯骨化症④椎間板ヘルニアの病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義	A	武井良太

14	骨関節の炎症性疾患と骨・軟部腫瘍 ①骨髄炎　②脊椎炎③変形性関節症（リウマチ含む）の病態・症状・検査・診断・治療（人工関節置換術）	合同	講義　　A	武井良太
15	骨・軟部腫瘍と代謝性疾患・腱・上肢と上肢帯下肢の疾患の病態・症状・検査・診断・治療	合同	講義　　A	武井良太

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

1．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
2．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
3．病態学は解剖生理学、病理学の知識を必要とします。予習をして授業に臨むこと。
4．専門用語が頻出します。読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[7]　脳・神経」

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[10]　運動器」

参　考　書　：

教員の実務　：

医療機関において臨床医としての非常勤講師。脳・神経、運動器の主な病態・診断・治療について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学Ⅳ （腎・泌尿器　女性生殖器） 時間割表記名　病態Ⅳ	講義	1年	後期	1	30	前嶋明人 竹下英毅 北山沙知 永本将一 魚谷隆弘 鮫島浩輝

講義のねらい:
健康障害の原因となる疾病や発生要因、病態・症状・検査・診断・治療について学ぶ。

到達目標　:
1. 腎泌尿器疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。
2. 女性生殖器疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験 （試験配分　腎・泌尿器50%　女性生殖器50%）	終講試験

成績評価基準　:
到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	1.腎不全 急性腎不全,慢性腎不全の病態,検査,診断・治療 薬物療法,食事療法,透析療法	合同	講義	A	前嶋明人
2	原発性糸球体疾患 2. ネフローゼ症候群の病態,症状,検査,診断・治療 薬物療法,食事療法 浮腫について	合同	講義	A	前嶋明人
3	原発性糸球体疾患 3. 急性糸球体腎炎,急速進行性糸球体腎炎,IgA腎症の病態,症状,検査,診断と治療	合同	講義	A	前嶋明人
4	高血圧および腎血管障害 4. 腎硬化症,腎血管性高血圧の病態,検査, 診断と治療	合同	講義	A	前嶋明人
5	5. 尿細管間質性腎症,腎性尿崩症の病態,検査, 診断と治療 アミロイド腎症と薬剤性腎障害の病態と分類について	合同	講義	A	前嶋明人
6	6. 腎盂腎炎,膀胱炎,尿道炎・性感染症,前立腺炎 尿路結石,腎結石の病態,症状,検査,診断と治療	合同	講義	A	竹下英毅
7	7. 下部尿路機能障害,過活動膀胱,前立腺肥大症, 女性腹圧性尿失禁の病態,症状,検査,診断と治療	合同	講義	A	北山沙知
8	腫瘍性疾患 8. 腎細胞癌,膀胱癌,前立腺癌の病態,検査,診断,予後 治療：手術療法,薬物療法,放射線・化学療法 ホルモン療法について	合同	講義	A	永本将一

9	月経発来機構について。視床下部,下垂体,卵巣系のホルモンフィードバック機構について 卵胞ホルモンと黄体ホルモンの作用による子宮内膜の周期的変化 基礎体温の温度変化と月経異常と随伴症状,診断と治療	合同	講義　　A	魚谷隆弘
10	性器の炎症・性感染症 ・外陰部・膣の炎症,骨盤内炎症性疾患について ・性感染症の種類,病原微生物と発生動向 　それぞれの感染症の症状,診断と治療	合同	講義　　A	鮫島浩輝
11	子宮の疾患① ・子宮内膜症,子宮腺筋症,子宮筋腫の病態,症状,検査診断と治療：手術療法,薬物療法,ホルモン療法など予後について	合同	講義　　A	鮫島浩輝
12	子宮の疾患② ・子宮頸癌,子宮体癌の病態,症状,検査,診断,治療 絨毛性性疾患について 　原因,病態,症状,検査,診断と治療　予後について	合同	講義　　A	魚谷隆弘
13	卵巣・卵管の疾患 ・卵巣腫瘍の病態,分類,症状,検査,診断,予後について治療：手術療法,化学療法,放射線療法 ・異所性妊娠の概要と症状・診断・治療	合同	講義　　A	魚谷隆弘
14	不妊症・不育症の定義,女性要因,男性要因,リスク要因 検査と診断,様々な治療法について	合同	講義　　A	鮫島浩輝
15	更年期障害とは 症状,原因,病態,検査,診断と治療	合同	講義　　A	魚谷隆弘

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点　：

１．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
３．病態学は解剖生理学、病理学の知識を必要とします。予習をして授業に臨むこと。
４．専門用語が頻出します。読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。
５．授業に際し、指定教科書を必ず持参すること。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学［８］　腎・泌尿器」

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学［９］　女性・生殖器」

参　考　書　：

教員の実務　：

医療機関において臨床医としての非常勤講師。腎・泌尿器、女性生殖器の主な病態・診断・治療について教授する。

※1 方法と場所の場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　E、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学Ⅴ （消化器・内分泌・乳腺） 時間割表記名　病態Ⅴ	講義	1年	後期	1	30	辻　美隆 熊谷洋一 松山貴俊 母里淑子 名越澄子 加藤真吾 松原三郎 竹村信行 浦橋泰然 山崎悠理子 北條　隆

講義のねらい:
消化器・内分泌・乳腺系の 健康障害の原因となる疾病や発生要因、病態・症状・検査・診断・治療について学ぶ。

到達目標　:
1. 消化器・内分泌疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。
2. 乳腺疾患の病態,発症要因と症候、検査・診断の要点・治療について理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　（試験配分　消化器70%　内分泌20%　乳腺10%））　終講試験

成績評価基準　:
到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	クラス	学習内容	※1 方法と場所	担当教員
1	合同	食道・胃・十二指腸良性疾患 胃食道逆流症,食道アカラシア,胃炎,十二指腸潰瘍, 胃ポリープの病態,症状,診断治療	講義　A	辻　美隆
2	合同	小腸・大腸良性疾患 潰瘍性大腸炎,クローン病,大腸ポリープ,大腸形憩室症, 過敏性大腸症候群などの病態,症状,治療	講義　A	加藤真吾
3	合同	上部消化管悪性疾患 食道癌・胃癌の病態,症状,検査,診断,治療 癌の進行度分類と内視鏡的切除,外科的治療と術後合併症 がん薬物療法,治療経過と予後について	講義　A	熊谷洋一
4	合同	下部消化管の外科的治療 大腸癌の病態,症状,検査,診断,治療,術後経過と予後について 炎症性腸疾患の外科治療 腸閉塞,虫垂炎,痔核痔瘻の病態と症状検査,診断と治療 ストマ造設について	講義　A	松山貴俊
5	合同	肝臓の内科的治療 肝炎,脂肪肝,肝硬変,肝不全,食道静脈瘤の病態,症状,検査, 診断,治療	講義　A	名越澄子
6	合同	肝臓の外科的治療 肝臓癌の種類と病態,検査と診断・治療,長期経過と予後	講義　A	竹村信行
7	合同	胆膵の内科的治療 胆石症,胆管炎・胆嚢炎,胆嚢癌,膵臓癌の病態,症状,検査(ERCP) 診断,治療(内視鏡),急性膵炎,慢性膵炎の病態,症状,検査,診断	講義　A	松原三郎
8	合同	胆膵の外科的治療 胆道癌,胆嚢癌,膵臓癌の病態,病期分類,手術療法,がん薬物療法 放射線治療,術後合併症,治療経過と予後	講義　A	浦橋泰然

9	合同	腹膜・腹壁・横隔膜の疾患 腹膜炎,急性腹症,ヘルニア(内ヘルニア・外ヘルニア) の症状,検査,診断と治療	講義　　A	母里淑子
10	合同	糖代謝異常：糖尿病 ・グリコーゲン合成系と分解系、解糖系と糖新生系 糖尿病の病型分類と原因,症状 糖尿病診断に必要な検査と診断,糖尿病の治療 （運動,食事,薬物療法）糖尿病合併症について	講義　　A	山崎悠理子
11	合同	視床下部・下垂体疾患 内分泌腺と産生ホルモンについて クッシング病,先端巨大症,下垂体前葉機能低下症, 尿崩症の病態,症状,検査,診断と治療	講義　　A	山崎悠理子
12	合同	甲状腺・副甲状腺疾患 内分泌腺と産生ホルモンについて バセドウ病,甲状腺クリーゼ,甲状腺機能低下症,橋本病 の原因,病態,症状,検査,診断と治療,経過と予後 甲状腺腫瘍の病態と手術療法	講義　　A	山崎悠理子
13	合同	副腎皮質・髄質疾患　　内分泌腺と産生ホルモン 原発性アルドステロン症,副腎皮質機能低下症, 褐色細胞腫の病態,症状,検査,診断と治療 その他の代謝・栄養疾患 肥満症・メタボリックシンドロームの概念,検査,診断	講義　　A	山崎悠理子
14	合同	乳房の疾患① 乳腺炎,乳腺症,線維腺腫の病態,原因,症状,検査 診断と治療	講義　　A	北條　隆
15	合同	乳房の疾患② 乳癌(家族性・遺伝性）の原因と各病期と症状 検査：画像検査(マンモグラフィ・超音波）,病理検査 診断,治療方針の選択,手術療法,放射線療法,薬物療法, ホルモン療法,治療後の経過と予後	講義　　A	北條　隆

＊授業で取り扱う課題等(～をいつまでに提出等)

受講上の注意点　：

1．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
2．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
3．病態学は解剖生理学、病理学の知識を必要とします。予習をして授業に臨むこと。
4．専門用語が頻出します。読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[５]　消化器」
医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[６]　内分泌・代謝」
医学書院　系統学看護学講座　「専門Ⅱ　成人看護学[９]　女性・生殖器」

参　考　書　：

教員の実務　：

医療機関において臨床医としての非常勤講師。消化器・内分泌・乳腺系の主な病態・診断・治療について教授する。

※1 方法と場所の場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　E、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
微生物学 時間割表記名　　微生物	講義	1年	前期	1	30	守屋　修
講義のねらい: ヒトに病気をおこす病原微生物について学び、病原微生物の感染・機構、それに対応してのヒトの生体防御のしくみを理解する。重要と思われる病原体については、感染機構、病原性、診断、治療を細かく学ぶ。						
到達目標　: １．微生物の基本的知識を理解する。 ２．感染のメカニズムを理解し、その予防につて説明できる。 ３．主な感染症の様式、診断、治療について説明できる。						

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	細菌の形態と特徴、培養、遺伝、常在細菌叢	合同	講義　A	守屋　修
2	真菌の性質　原虫の性質	合同	講義　A	守屋　修
3	ウイルスの形態と特徴、増殖、分類、プリオン	合同	講義　A	守屋　修
4	微生物の感染機構、侵入と感染経路	合同	講義　A	守屋　修
5	感染に対する生体防御、微生物の病原因子	合同	講義　A	守屋　修
6	自然免疫のしくみ、免疫担当細胞	合同	講義　A	守屋　修
7	獲得免疫のしくみ、アレルギー	合同	講義　A	守屋　修
8	滅菌と消毒、感染症の検査と診断	合同	講義　A	守屋　修
9	感染症の治療薬、副作用の特性	合同	講義　A	守屋　修
10	感染症の現状と対策、院内感染	合同	講義　A	守屋　修
11	主なグラム陽性菌の性質と疾患	合同	講義　A	守屋　修
12	主なグラム陰性菌の性質と疾患	合同	講義　A	守屋　修
13	DNAウイルス感染症	合同	講義　A	守屋　修
14	RNAウイルス感染症、発癌ウイルス①	合同	講義　A	守屋　修
15	RNAウイルス感染症、発癌ウイルス②	合同	講義　A	守屋　修

＊授業で取り扱う課題
受講上の注意点　： １．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。 ２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ３．専用用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。
オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト　：　系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　医学書院
参　考　書　：
教員の実務　：　大学の微生物学教室での経験を踏まえて、ヒトに病気をおこす病原微生物の基本的な知識について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
薬理学 時間割表記名　　薬理学	講義	1年	後期	1	30	矢野　俊介
講義のねらい: 薬物の体内動態や薬理作用について学び、薬物療法の基礎となる考え方を身につける						
到達目標　: 1．薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。 2．医薬品の取り扱いについて理解する。 3．薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。						

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	総論：薬力学と薬物動態学	合同	講義　A	矢野俊介
2	総論：薬効の個人差に影響する因子・薬と法律	合同	講義　A	矢野俊介
3	各論：抗感染症薬（抗菌薬・抗ウイルス薬）	合同	講義　A	矢野俊介
4	各論：抗がん薬	合同	講義　A	矢野俊介
5	各論：免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	合同	講義　A	矢野俊介
6	各論：末梢神経系に作用する薬物	合同	講義　A	矢野俊介
7	各論：中枢神経系に作用する薬物（１）	合同	講義　A	矢野俊介
8	各論：中枢神経系に作用する薬物（２）	合同	講義　A	矢野俊介
9	各論：循環器系に作用する薬物（１）	合同	講義　A	矢野俊介
10	各論：循環器系に作用する薬物（２）	合同	講義　A	矢野俊介
11	各論：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	合同	講義　A	矢野俊介
12	各論：物質代謝に作用する薬物	合同	講義　A	矢野俊介
13	各論：皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物	合同	講義　A	矢野俊介
14	各論：漢方薬・消毒薬	合同	講義　A	矢野俊介
15	各論：輸液製剤・輸血剤	合同	講義　A	矢野俊介

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：	１．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。 ２．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。 ３．薬理学は解剖生理学、生化学の知識が必要であり、全病態学の基礎となる科目です。予習・復習をして授業に臨むこと。 ４．専用用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。
オフィスアワー　：	授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト　：	系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　医学書院
参　考　書　：	
教員の実務　：	医療機関において薬剤師としての経験を踏まえて、薬物療法の基礎となる知識について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
栄養食事療法 時間割表記名　栄養	講義 演習	1年	後期	1	15	横田稚子 矢澤和恵

講義のねらい:
　健康維持・増進・回復・予防のための生命に必要な基本的な栄養と摂取方法を学習する。さらに臨床で活用できる栄養指導方法を学習する。

到達目標　:
1．日常の正しい食事と健康の関連について理解する。
2．栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解する。
3．ライフステージと栄養について理解する。
4．食事療法の基礎的知識を理解する

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標の到達とし、提出物等を含め総合的に判断する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	第1～4章：人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき、食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝	合同	講義　A	矢澤和恵
2	第5～7章：食事と食品、栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定　　（食事記録の実施）	合同	講義　A	矢澤和恵
3	第8章：ライフステージと栄養　（第9章：G①含む）	合同	講義　A	矢澤和恵
4	第9章A～E：チームで取り組む栄養管理、病院食、栄養補給法、経腸栄養食品、静脈栄養	合同	講義　A	横田稚子
5	第9章F①～③、⑤、⑥：疾患・栄養別食事療法	合同	講義　A	横田稚子
6	第9章F④、G②：疾患・栄養別食事療法	合同	講義　A	矢澤和恵
7	第9章F⑦～⑩、H①～③：疾患・栄養別食事療法	合同	講義　A	横田稚子
8	第10章：健康づくりと食生活、まとめ （食習慣アンケートの実施）	合同	講義　A	矢澤和恵

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:
1．講義中の私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。
2．予習としてテキストの該当箇所を読んで授業に臨むこと。
3．栄養食事は解剖生理学、生化学の知識を必要とします予習をして授業に臨むこと。
4．専用用語が頻出します、読み方、書き方、意味などを事前に調べておくこと。

オフィスアワー　:　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト ：	系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学 別巻　栄養食事療法　　医学書院 「食品成分表」　　女子栄養大学出版館 「食品80Kcalガイドブック」　　女子栄養大学出版館
参　考　書 ：	
教員の実務 ：	医療機関において管理栄養士としての経験を踏まえて、展開、健康維持・増進・回復・予防のための生命に必要な基本的な栄養学の知識について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
社会福祉 時間割表記名　　社会福祉	講義	1年	後期	1	30	小林明弘
講義のねらい: 社会福祉とは何かを、歴史的発達過程を踏まえて、社会福祉保健制度・医療保険制度を含む広義の社会福祉制度を理解する。さらに、健康な生活を営むための社会福祉の方法・援助技術の基礎を学習し、福祉と看護の共通点を学習する。						
到達目標　: １．　支援が必要な人々に対して、福祉の制度や仕組みなどを理解する 。 ２．　人々の生活を支援するための専門知識を理解する。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	社会福祉とはなにか	合同	講義　　A	小林明弘
2	社会福祉の歴史的視点（外国）	合同	講義　　A	小林明弘
3	社会福祉の歴史的視点（日本）	合同	講義　　A	小林明弘
4	社会福祉の概念	合同	講義　　A	小林明弘
5	ソーシャル・ワークと実践の専門技術	合同	講義　　A	小林明弘
6	社会福祉法、社会福祉六法・八法	合同	講義　　A	小林明弘
7	公的扶助、生活保護法	合同	講義　　A	小林明弘
8	児童福祉	合同	講義　　A	小林明弘
9	障害者の福祉①	合同	講義　　A	小林明弘
10	障害者の福祉②	合同	講義　　A	小林明弘
11	高齢者の福祉	合同	講義　　A	小林明弘
12	社会福祉行財政の仕組み	合同	講義　　A	小林明弘
13	社会保障と社会保険①	合同	講義　　A	小林明弘
14	社会保障と社会保険② これからの社会福祉のあり方　【1】	合同	講義　　A	小林明弘
15	社会保障と社会保険② これからの社会福祉のあり方　【2】	合同	講義　　A	小林明弘

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：	1．授業中の私語、居眠りは慎み、携帯電話の持ち込みは禁止します。
オフィスアワー　：	授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト　：	系統看護学講座　専門基礎分野　　健康支援と社会保障制度［３］ 社会保障・社会福祉
参　考　書　：	

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
医療概論 時間割表記名　　医療概論	講義	1年	後期	1	15	加部一彦 奈倉道明 小野寺亘

講義のねらい:
医学の歴史、人間の疾病像、社会との関係を理解し、人間が健康で幸福であるために看護や他の関連領域とどのように協働していくのかを学ぶ。また、医療経済のしくみを理解する。

到達目標

１．医学、医療の歴史を理解できる。

２．医療を実践する上での医療倫理や医療安全について理解できる。

３．医療を担う専門職としての看護師の役割が説明できる。

４．人間の権利である健康を支える制度を理解できる。

５．医療経済と医療政策に地て理解できる。理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の感想　筆記試験　(試験配分100%)	終講試験

成績評価基準　:
各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り60点以上を合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	病を得るということ １）人間の命を考える ２）人がどのように生まれ、老い、病み、死ぬか	合同	講義　A	加部一彦
2	医療を担う専門職との連携 １）チーム医療とは ２）看護職に求められる役割	合同	講義　A	加部一彦
3	医療の実践 １）医療倫理 ２）医療安全	合同	講義　A	加部一彦
4	健康格差と社会的要因 １）発達段階別の健康問題と社会的要因	合同	講義　A	奈倉道明

5	健康で文化的な生活を支える社会保障制度 １）社会保障制度、保険制度、医療・介護システム ２）保健・医療・福祉の連携 地域包括ケアシステム	合同	講義　A	奈倉道明
6	医学、医療の歴史 １）医学がどのように歩みを進め、現代の医療を支え ているか	合同	講義　A	奈倉道明
7～8	医療経済と医療政策 １）経済学を用いて医療を読みとく ２）転換を迫られる医療政策 まとめ	合同	講義　A	小野寺亘

＊授業で取り扱う課題
事前学習として、新聞記事やニュースから現在の医療の課題について自分の意見をレポートにして参加する。

オフィスアワー　：

講義の終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

系統看護学講座　基礎分野　医療概論　医学書院

参　考　書　：　新体系看護学全書　健康支援と社会保障制度①医療総論
メヂカルフレンド社

教員の実務　：　医療機関において臨床医としての非常勤講師。
大学において常勤の教員。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

3. 専門分野

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
概論 時間割表記名　看護概論	講義	1年	前期	1	30	中村美智子

講義のねらい:　看護の主要概念である 人間・環境・健康・看護についての学びを通し、看護の機能と役割、対象について理解する。また、看護の変遷を理解した上で看護職への課題と今後の方向性を考え、さらに、保健医療福祉システムと看護の法的責任を学ぶ。

到達目標　:
1．看護の概念について理解できる。
2．看護の対象である人間を統合体として理解できる。
3．健康の概念を理解し、健康レベルに応じた看護の役割・機能について理解できる。
4．保健医療福祉における看護師の役割を理解できる。
5．看護倫理に関する基礎的知識を理解できる。
6．看護の変遷を理解し今後の課題と展望について考えることができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	看護覚え書のレポート（5%）筆記試験　(95%)	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験より点数化し
学則26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	基礎看護学が他の看護学の基盤であることを理解する ・看護師のイメージと目指す看護師像 ・看護学の特徴	合同	講義　A	中村美智子
2	看護の対象　1) ・看護の対象を学ぶ視点 ・人間の「こころ」と「からだ」 ・ホメオスタシスという体の反応 ・マズローの基本的欲求 ・ストレスとは	合同	講義　A	中村美智子
3	看護の対象　2) ・生涯発達し続ける存在としての人間 ・発達段階と発達課題 ・人間の暮らしの理解 ・個人・家族、地域の中での看護活動	合同	講義　A	中村美智子
4	健康の概念 ・健康のとらえ方 ・健康の定義 ・人々の生活と健康に関する統計と看護活動	合同	講義　A	中村美智子
5	看護の変遷 ・看護はどのような変遷をたどったのか ・職業としての看護の確立 ・フローレンス・ナイチンゲールの功績	合同	講義　A	中村美智子

6	看護の概念 ・看護師は何をしているのか ・看護の定義 ・専門職としての看護	クラス別	講義 演習　　B	中村美智子
7	看護倫理 ・看護倫理とは ・倫理的意思決定 ・看護者の倫理綱領	合同	講義　　A	中村美智子
8	看護の提供の場と制度 ・看護の提供システム ・保健医療福祉と看護の連携 ・保健師助産師看護師法での看護業務 ・看護関連法令	合同	講義　　A	中村美智子
9	看護の提供のしくみ ・看護サービスと経済のしくみ ・看護方式 ・看護サービスの管理	合同	講義　　A	中村美智子
10	看護理論とは ・看護理論の定義と種類 ・主な理論家とその理論 ・看護理論をどう活用するか	合同	講義　　A	中村美智子
11	看護理論とは ・看護理論をどう活用するか	合同	講義　　A	中村美智子
12	在宅で療養生活を送る人々とその家族を支える 看護活動の実際を学ぶ ・DVD学習：笑ってさようなら	合同	講義　　A	中村美智子
13	看護覚え書の抄読会　1回目　項目1～７ 看護覚え書の主旨をまとめたレポートをもとにグループで抄読後、発表し現代の看護との共通点を考える。	クラス別	講義　　B	中村美智子
14	看護覚え書の抄読会　2回目　項目8～14 看護覚え書の主旨をまとめたレポートをもとにグループで抄読後、発表し現代の看護との共通点を考える。	クラス別	講義　　B	中村美智子
15	看護学概論のまとめ ・抄読会のまとめ ・現代の医療・看護に求められるもの ・将来の看護の課題とビジョンを考えてみよう	合同	講義　　A	中村美智子

＊授業で取り扱う課題　抄読会の事前学習として、看護覚え書を夏季休暇中に各自が読みレポートにまとめる。

受講上の注意点　：	看護学の入り口に位置し専門領域の土台となる科目であり、「看護とは」何かを考える。
オフィスアワー　：	講義時間以外では、8：30～17：30の間に教務室にて対応します。
使用するテキスト　：	茂野香おる編.系統看護学講座.　専門分野Ⅰ.　看護学概論.　医学書院 フローレンス・ナイチンゲール著.湯槙ます他訳.看護覚え書.現代社
参　考　書　：	志自岐康子他編.ナーシンググラフィカ　基礎看護学①看護学概論
教員の実務　：	看護師の実務経験のある看護師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅰ 時間割表記名　看護過程	講義・演習	1年	通年	1	30	小林和子 髙橋奈津美 小林成美 一色潤子 成塚三恵 井上紀子 金子宏美 山﨑幸栄

講義のねらい:問題解決思考・クリティカルシンキング・リフレクションの意味を知り、看護過程に関連する理論概要とロイの適応理論について学ぶ。ロイの理論を基盤として、人間・健康・環境・看護の主要概念と４つの適応様式を理解し、事例を活用して看護過程の展開を体験する。

到達目標　:
1. ４つの適応様式の特徴が分かり情報分類・整理することができる。
2. 生理的様式の５つの基本的ニードを理解し行動・刺激のアセスメントができる。
3. 生理的様式の４つの生理機能を理解し、行動・刺激のアセスメントができる。
4. 看護問題（看護診断）の意味を理解し表現が分かり、優先順位の判断ができる。
5. 目標設定における視点が分かり看護診断に即した目標が考えられる。
6. 看護目標を達成するための看護計画を立案することができる。
7. 看護計画に即した看護実践を経験し実践を記録できる。
8. 実践をリフレクションすることで改善点を考えることができる。
9. 事前・事後課題を主体的・計画的に実施することができ知識・技術習得に役立てている。
10. グループワークでは協調性と貢献的態度で臨みまた自己の成長の為に努力している。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	ルーブリック評価	終講試験

成績評価基準　:演習課題の内容を踏まえ、評価基準を用いて達成度を評価する。
学則26条に則り合計60点を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	問題解決思考・ｸﾘﾃｨｶﾙｼﾝｷﾝｸﾞ・ﾘﾌﾚｸｼｮﾝの意味が分かり、問題解決過程シートを活用して問題解決思考過程を体験する。看護の目的と看護過程の概要を学ぶ。	合同	講義A	小林和子 髙橋奈津美
2	主な看護モデルを比較し、ロイ看護論の基本概念（人間・健康・環境・看護）を学ぶ。４つの適応様式について「自己のアセスメントシート」を活用し学ぶ。	合同	講義A	小林和子 髙橋奈津美
3	情報源と情報収集の方法についてと生理的様式、自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式の重要概念を学ぶ。	合同	講義A	小林和子 髙橋奈津美
4	事例の病態生理を学び、４つの適応様式の情報分類・整理の方法について、アセスメントガイドを活用して学ぶ。 行動のアセスメントと刺激のアセスメントについて事例 - 睡眠を通して学ぶ。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美
5	各指導教員の個人指導とグループワークにより、生理的機能様式の栄養・排泄・活動と休息・防御のカテゴリーについて考え、 自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名

6	各指導教員の個人指導とグループワークにより、生理的機能様式の栄養・排泄・活動と休息・防御のカテゴリーについて考え、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名
7	各指導教員の個人指導とグループワークにより、生理的機能様式の酸素化・感覚・神経学的機能・内分泌機能のカテゴリーについて考え、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名
8	各指導教員の個人指導とグループワークにより、生理的機能様式の酸素化・感覚・神経学的機能・内分泌機能のカテゴリーについて考え、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名
9	看護診断の表現と優先順位の決定する考え方を学ぶ。目標設定の意味と期待される成果の視点について学び、看護介入の意味と看護計画立案の学習をする。	合同	講義　A	小林和子 髙橋奈津美
10	各指導教員の個人指導とグループワークにより、自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式のカテゴリーについて考え、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他5名
11	各指導教員の個人指導とグループワークにより、看護目標・看護計画の立案を学び、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名
12	各指導教員の個人指導とグループワークにより、看護目標・看護計画の立案を学び、自己の学習内容の効果と改善点が分かる。	クラス別	GW　A	小林和子 髙橋奈津美 他6名
13	経過記録のＳＯＡＰ方式を理解し、事例 - 睡眠をもとに主観データ・客観的データ、解釈・評価・判断、計画を体験する。	合同	講義A	小林和子 髙橋奈津美
14	ロールプレイ技法を用いて看護計画を実践し、ＳＯＡＰの視点で記録する。グループワークにより評価・修正について考える。	クラス別	GW　C	小林和子 髙橋奈津美 他6名
15	看護記録の法的位置づけと個人情報管理および守秘義務について、判例を参考にグループワークにより考えを深める。	合同	講義A	小林和子 髙橋奈津美

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

①この科目は、全ての看護領域の基本です。他領域の授業が困難になる場合があるため、
　真摯に受講して下さい。
②課題の提出は厳守してください。
③ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸは、メンバーと協力し積極的に参加してください。

オフィスアワー　：
授業日の放課後に受け付けます。

使用するテキスト　：

茂野香おる　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院
小田正枝　　ロイ適応看護理論の理解と実践　医学書院
佐藤栄子　　事例を通してやさしく学ぶ　中範囲理論入門（第２版）　日総研
高木永子　　看護過程に沿った対症看護　第5版　学研

参　考　書　：　　高木永子　看護過程に沿った対症看護　第5版　学研

教員の実務　:医療機関において看護師としての経験を踏まえた専任教員。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅱ 時間割表記名　　バイタル	講義	1年	前期	1	15	一色潤子

講義のねらい:生命の徴候であるバイタルサインを測定することの意義を理解する。原理原則に基づいたバイタルサイン測定を習得する。

到達目標　:
1．バイタルサイン測定の意義を理解することができる。
2．体温、脈拍、呼吸を測定することが出来る。
3．原理原則に従って血圧測定ができる。（触診法、聴診法）
4．バイタルサイン測定で得られた情報を記録することができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（100%）	終講試験

成績評価基準　:　演習・課題の提出、講義資料、教科書、参考書の内容を踏まえた筆記試験（100%）を行い到達度を評価する。学則26条に則り合計60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの基礎的知識 ①意識②体温	クラス別	講義B	一色潤子
2	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの基礎的知識 ③呼吸	クラス別	講義・演習A	一色潤子
3	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの基礎的知識 ④脈拍	クラス別	講義・演習A	一色潤子
4	生命の徴候を観察する技術 バイタルサインの基礎的知識 ⑤血圧	クラス別	講義B	一色潤子
5	血圧測定演習	クラス別	演習C	一色潤子
6 7	バイタルサイン測定の実際とアセスメント 事例患者の意識・体温・脈拍・呼吸・血圧測定の実際	クラス別	演習C	一色潤子
8	まとめ	合同	講義A	一色潤子

＊授業で取り扱う課題　　血圧測定練習

受講上の注意点　： 演習室への入室は、学校の規定に則り行動してください。
オフィスアワー　： 授業に関する質問は、授業終了後や放課後に受け付けます。 授業時間外に技術練習を行う場合は対応しますので、事前に申し出てください。
使用するテキスト　： 茂野香おる　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院
参　考　書　：　参考資料や引用文献などについては講義中に開示する。
教員の実務　:看護師として実務経験がある専任教員が担当している。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅳ 時間割表記名　安全／コミュ	講義	1年	前期	1	30	高嶋真紀 井上紀子

講義のねらい:看護実践における医療事故、および法的責任を学ぶ。対象者の安全と看護職の安全を守り、看護環境の重要性と法のしくみを理解する。感染予防の意義を理解し、感染管理に必要な基礎知識を学習する（医療安全対策、感染予防策）。
看護場面における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を学習する（コミュニケーション）。

到達目標　:
１．感染予防の意義を述べる。
２．感染予防のためのスタンダードプリコーションの一部を体験し実施する。
３．患者・家族の安全とは何か、看護師が安全を守ることの意義を理解する。
４．医療安全に関心を持ち、発生しているインシデント事例から看護師が安全を守るための対策を理解する。
５．対人関係におけるコミュニケーションの基本的知識を具体的に述べる。
６．人間関係の成立と発展のために必要なコミュニケーションを解釈する。
７．人間関係の基礎理論を用いて、看護師としてのコミュニケーションスキルを実施する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準:　講義資料、教科書、参考書、演習の内容を踏まえた筆記試験を行い到達度を評価する。学則26条に則り60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	感染予防の基礎知識 ①感染と感染症②感染成立の条件③感染予防対策 感染予防経路別予防策の基礎知識 ①接触予防策②飛沫予防策③空気予防策	合同	講義　A	高嶋真紀
2	標準予防策の基礎知識 ①手指衛生②衛生的手洗い③個人防護具（PPE）	クラス別	講義 演習　C	高嶋真紀
3	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 無菌操作の基礎知識 滅菌物の取り扱い 感染性廃棄物の基礎知識と対策の実際	クラス別	講義 演習　C	高嶋真紀
4 5	病原体から医療者を守る手洗いの技術 ①ガウンテクニック②滅菌手袋の装着方法③無菌操作	クラス別	演習　C	高嶋真紀
6	感染防止演習の振り返り	合同	講義　A	高嶋真紀

7	安全確保の基礎知識① 我が国における医療事故の実際と医療者の法的責任	合同	講義　A	高嶋真紀
8	安全確保の基礎知識② 医療事故の発生要因と医療事故を防止するための対策	合同	講義　A	高嶋真紀
9	コミュニケーションの意義と目的 ①人間のコミュニケーションの特徴 ②臨床のコミュニケーションの特徴	合同	講義　A	井上紀子
10	看護学生としてのコミュニケーション① （看護に重要な傾聴と応答性）	合同	講義　A	井上紀子
11	看護学生としてのコミュニケーション② （接近的行動・非接近的行動）	クラス別	演習　　C	井上紀子
12	患者―看護師関係　臨床におけるコミュニケーション （実習のふりかえり）	合同	講義　A	井上紀子
13	看護学生としてのコミュニケーション③ （説明と同意の重要性）	合同	講義　A	井上紀子
14	看護学生としてのコミュニケーション④ （説明と同意の実践）	クラス別	演習　　C	井上紀子
15	相手の反応を捉えるコミュニケーション （学習のまとめ）	合同	講義　A	井上紀子

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

この科目は、すべての基礎看護技術の基本です。
演習室への入室は、学校の規定（学生便覧；学生の心得）に則り行動してください。

オフィスアワー　：
授業日の休み時間または放課後に受け付けます。

使用するテキスト　：

茂野香おる　　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院
藤崎　都　　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院

参　考　書　：

看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス　インターメディカ
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院
写真で分かる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ
写真で分かる臨床看護技術アドバンス　インターメディカ

教員の実務　：

医療機関において看護師としての経験を踏まえた専任教員が基本的な知識を教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅴ 時間割表記名　環境 /活動/休息	講義	1年	前期	1	30	山崎幸栄 金子宏美

講義のねらい:
人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を学ぶ。
人間の活動・休息の意義とそのメカニズムを理解し、効果的・効率的な援助を学習する。また、ボディメカニクスの基本的原理を理解し、対象者と看護者双方が安全・安楽な体位で効果的に看護実践できる基本的方法を学習する。（環境、体位変換、活動・休息）

到達目標　:
1.物質的環境と、人的な環境について理解し、環境とは何かを考えることができる。
2.環境整備としての「安全」「安楽」「自立」を考え、患者にあった環境を整えるための具体策を考えることができる。
3.ボディメカニクスの基本的原理を理解することができる。
4.ボディメカニクスを使い、安全・安楽な体位で効果的に看護実践することができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:講義資料、教科書、参考書、演習の内容を踏まえた筆記試験を行い到達度を評価する。
学則26条に則り60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	療養生活の環境の構成要素（温度、湿度、光、音、におい、色、人的環境など）と病床環境を調整する目的と適応	合同	講義A	山崎幸栄
2 3	実際のベッドや物品を用いた、病床・ベッド周囲を整えるために必要な援助の実際	クラス別	演習C	山崎幸栄
4 5	確実な手技を獲得するための根拠を踏まえた、ベッドメーキング演習	クラス別	演習C	山崎幸栄
6 7	実際の物品を用いた療養環境調整演習	クラス別	演習C	山崎幸栄
8	基本的活動の基礎知識 ①よい姿勢②構え③体位④良肢位⑤基本体位の種類	合同	講義A	金子宏美
9	ボディメカニクスの基本原理	クラス別	講義 演習C	金子宏美
10	ボディメカニクスを用いた体位変換①	クラス別	講義 演習C	金子宏美
11	ボディメカニクスを用いた体位変換②（移乗・移送）	クラス別	講義 演習C	金子宏美
12 13	体位変換と移乗・移送演習	クラス別	演習C	金子宏美

14	基本姿勢の基礎知識を踏まえたうえで、演習内容について振り返る	合同	講義 演習C	金子宏美
15	睡眠の種類、睡眠制御のメカニズムとその看護	合同	講義A	金子宏美

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

①基礎看護技術の基本となる学習です。積極的に技術練習を行うようにしてください。
②演習室への入室は、学校の規定【学生便覧；学生生活の心得】に則り行動してください。
③講義の中で演習室を使用することもありますので、演習靴を準備しておいてください。

オフィスアワー　：

授業時間外に、技術練習を行う場合は対応しますので事前に申し出てください。
授業に関する質問は、随時受け付けます。

使用するテキスト　：

藤崎　郁　　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院

参　考　書　：

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院
看護過程に沿った対象看護　学研メディカル
写真でわかる基礎看護技術アドバンス　インターメディカ
写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ
フローレンス・ナイチンゲール著　湯槙ます他訳　「看護覚え書」　現代社

教員の実務　：

看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅵ 時間割表記名　清潔	講義・演習	1年	前期	1	30	岩澤浩江

講義のねらい:　人間にとっての「清潔」「衣生活」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な基礎知識・技術を習得する。

到達目標　:
１．人間にとって身体を清潔に保つことの意義を理解することができる。
２．身体各部位の清潔の援助方法を理解することができる。
３．人間にとって「衣生活」の意義を理解することができる。
４．「衣生活」の援助方法について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（100%）	終講試験

成績評価基準：教科書、講義資料、参考書、演習の内容を踏まえた筆記試験を行い
到達度を評価する。
学則26条に則り合計60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	皮膚・粘膜の構造と機能について学ぶ。 人間にとっての清潔援助の効果と全身への影響について学ぶ。	合同	講義　A	岩澤浩江
2	外皮系フィジカルアセスメント 「清潔」に関する観察の視点を学ぶ。	クラス別	講義　B	岩澤浩江
3	「身体を拭く」を体験してみる。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
4	全身清拭・陰部洗浄の実施方法と、留意点について学ぶ。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
5	洗髪・足浴の実施方法と、留意点について学ぶ。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
6	口腔のフィジカルアセスメント 口腔ケア・整容について実施方法と留意点について学ぶ。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
7 8	洗髪・足浴・陰部洗浄 身体各部位への清潔の援助を安全・安楽・プライバシーに配慮して行うことができる。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
9	衣生活の援助の基礎知識を理解する。	合同	講義　A	岩澤浩江
10	病床での衣生活の援助と実際を学ぶ。	クラス別	演習　C	岩澤浩江
11 12 13 14	全身清拭・更衣 清拭・更衣の援助を安全・安楽・プライバシーに配慮して行うことができる。	クラス別	演習　C	岩澤浩江

15	援助技術の実施方法について、安全・安楽・自立の観点から考えることができる。	クラス別	講義　B	岩澤浩江

＊授業で取り扱う課題
清潔援助に必要な基礎知識（皮膚の構造と機能・口の構造と機能）
清潔援助技術：全身清拭・洗髪・足浴・陰部洗浄・口腔ケア・整容・寝衣交換
衣生活に関する基礎知識とと衣類の清潔について

受講上の注意点　：
１．羞恥心を伴う援助もあります。プライバシーの保護、快適な環境に留意して気持ちの良いケアが患者に実施できるように練習を重ねましょう。
２．看護学生として援助にふさわしい態度、言葉づかいや身だしなみを整えることも演習を通して学んでいきましょう。
３．演習室への入室は、学校規定【学生便覧；学生生活の心得】に則り行動してください。

オフィスアワー　：
授業に関する質問は、随時受け付けます。
授業時間外に、技術練習を行う場合は対応しますので事前に申し出てください。

教　科　書　：
藤崎郁　系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院

参　考　書　：
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院
写真でわかる基礎看護技術アドバンス　インターメディカ
写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ

教員の実務　：
看護師の実務経験のある専任教員である。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅶ 時間割表記名　食事 /排泄	講義	1年	通年	1	30	髙田麻衣 井上紀子

講義のねらい:
人間の食に関する生理的メカニズムを理解し、健康的な生活を送るために必要な栄養・食事のニーズをアセスメントし、効果的・効率的な援助方法を理解する。
人間の排泄に関する生理的メカニズムを理解し、健康的な生活を送るために必要な排泄のニーズをアセスメントし、効果的・効率的な援助方法を学習する（食事、排泄）

到達目標　:
1.食事に関する生理的メカニズムを理解することができる。
2.栄養・食事のニーズを理解し、アセスメントをしたうえで、効果的な援助方法を考えることができる。
3.排泄（排尿・排便）に関する生理的メカニズムを理解することができる。
4.患者が抱える排泄のニーズを捉え、アセスメントをすることができる。
5.患者にとって効果的な援助方法を考え、実践することができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:
講義資料、教科書、参考書、演習の内容を踏まえた筆記試験を行い到達度を評価する。学則26条に則り60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	食事の意義（身体的、心理的、社会的）、食事援助の必要性、安全・安楽・自立	合同	講義A	髙田麻衣
2	食欲・栄養状態、摂食、食行動のアセスメント、摂食・嚥下のメカニズム	合同	講義A	髙田麻衣
3	摂食・嚥下機能のアセスメント、食べる姿勢と食事援助の方法、嚥下時の観察	合同	講義A	髙田麻衣
4	医療施設で提供される食事の種類と形態	合同	講義A	髙田麻衣
5	事例を用いて、根拠に基づいた安全・安楽な食事援助の方法を習得する。	クラス別	演習C	髙田麻衣
6				髙田麻衣
7	非経口的栄養摂取方法（経管栄養法・中心静脈栄養）	合同	講義A	髙田麻衣
8	排泄の生理的メカニズムと、排泄に影響を与える心理的、身体的、社会的因子	合同	講義A	井上紀子
9	排泄援助を行うために必要な知識（排尿と排便の正常と異常）と移動動作、心理社会的状態のアセスメントの視点	合同	講義A	井上紀子
10	自然排泄と、実際の尿器や便器を用いた床上排泄・排便困難時の排泄援助	クラス別	講義 演習　C	井上紀子
11	自然排尿が困難な場合の援助①一時的導尿②持続的導尿	合同	講義A	井上紀子

12	援助の留意点や根拠を考えた床上排泄援助の実際	クラス別	講義 演習　　C	井上紀子
13	正しい手技や科学的根拠に基づいた留意点を踏まえ、モデルを用いて導尿・浣腸の演習	クラス別	演習C	井上紀子
14				井上紀子
15	排尿・排便のアセスメントの仕方	合同	講義A	井上紀子

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

①今まで学習した基礎看護技術を用いて、学習を積み重ねていきましょう。
②既習技術については復習しておきましょう。
③演習室への入室は、学校規定【学生便覧；学生生活の心得】に則り行動してください。

オフィスアワー　：
授業時間外に、技術練習を行う場合は対応しますので事前に申し出てください。
授業に関する質問は、随時受け付けます。

使用するテキスト　：

藤崎　郁　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院
フィジカルアセスメントワークブック　医学書院

参　考　書　：

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院
写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ
高木永子　看護過程に沿った対症看護　第４版　学研

教員の実務　：　　看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅷ 時間割表記名　診療補助	講義・演習	1年	後期	1	30	髙田麻衣 青柳理恵 岩澤浩江

講義のねらい:診察・検査に伴う援助の意義・目的を理解し、対象者の心理状態を踏まえた介助方法を習得する。薬物療法の意義・目的を理解し、対象者に安全な援助方法を習得する。

到達目標　:
1．呼吸・循環を整えるための基礎的知識および技術を理解する。
2．皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程を理解し、創傷を管理する技術を実施する。
3．安全に与薬を実施するための基礎的知識および技術を理解する。
4．与薬を実施する時の看護師の役割と法的責任を理解する。
5．演習を通して、侵襲を伴う技術であることを理解し、対象者にへの思いやりのある行動をとることが出来る。
6．症状生体機能管理技術に必要な基礎的知識および技術身につける。
7．診察・検査・処置の介助技術に必要な基礎的知識および技術を身につける。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（100%）	終講試験

成績評価基準：講義資料、教科書、参考書の内容をふまえた筆記試験を行い、到達度を評価する。学則に則り合計60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	呼吸を整える技術として、呼吸の基礎知識や酸素吸入療法、排痰ケア、吸入、人工呼吸療法の方法や留意点などの実際について学習する。	合同	講義A	髙田麻衣
2	診察、検査、処置の援助を行う目的を理解し、心電図、X線、CTそれぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。	合同	講義A	青柳理江
3	静脈血採血に使用する器具の特徴、採血部位、採血の実際について学ぶ。	クラス別	講義A	青柳理江
4 5	翼状針、真空管採血技術や患者体験を通して、安全・安楽な採血技術を習得する。	クラス別	演習C	青柳理江
6	創傷管理の基礎知識と創傷処置や包帯法・褥創予防について学習する。	合同	講義A	髙田麻衣
7	薬物の剤形と吸収経路、正しい与薬方法と薬剤の管理方法を学ぶ。	合同	講義A	岩澤浩江
8	経口与薬、口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的投与、直腸内投与の特徴の理解と援助方法を学ぶ。	合同	講義A	岩澤浩江

9	注射の目的、方法、看護師の役割、注射を受ける患者の援助、実施方法について学習する。	合同	講義A	岩澤浩江
10	注射器具の取り扱い、薬液の吸い上げ、確認方法（6R）、感染予防について学習する。	クラス別	演習C	岩澤浩江
11 12	演習により薬剤と患者確認方法と安全を考えた筋肉注射の技術を習得する。	クラス別	演習C	岩澤浩江
13	点滴静脈内注射の技術の概要と注意点、注射部位、実施方法について学習する。	合同	講義A	岩澤浩江
14	輸液ボトルと輸液セットの無菌的接続、プライミング。	クラス別	演習C	岩澤浩江
15	輸血療法の分類と種類、輸血の副作用、輸血時の援助	合同	講義A	岩澤浩江

＊授業で取り扱う課題
診療の補助技術に必要な基礎知識事前学習
薬理学の知識に基づき、与薬の安全・安楽を考える

受講上の注意点　：

この学科は、今までの学習した基礎看護技術を用いて積み重ねていくものです。
演習室への入室は、学校規定【学生便覧；学生生活の心得】に則り行動してください。
授業で配布する注射器は、演習時に全て回収します。自宅の一般ごみに捨てないように注意してください。

オフィスアワー　:授業終了後に質問を受け付けます。

教　科　書　：

藤崎郁　系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院

フィジカルアセスメントワークブック　医学書院

参　考　書　：
系統看護学講座　専門分野Ⅰ臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院
写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ

教員の実務　：

看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
基礎看護統合演習 時間割表記名　リフレクション	講義	1年	後期	1	30	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美

講義のねらい:事例対象の発達段階・健康レベル・機能障害を理解する。対象に必要な看護援助を考え実践し、評価を受けながら習得する。

到達目標　:
1. 対象者の症状や治療・処置とを関連させ、状況に応じた看護援助を考える。
2. 計画した看護援助を実践する。
3. 実践した看護援助を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。
4. 演習を通して対人関係能力、自己の主体性、問題解決能力や問題発見能力を身につける。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	演習課題（80%）筆記試験（20%）	終講試験

成績評価基準　:　課題に対する達成度を演習課題（80%）筆記試験（20%）で評価する。学則に則り60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	基礎統合演習概要　①演習オリエンテーション②事前課題の提示③	合同	講義　A	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
2	事例課題のGW ①事例の病態生理②情報整理	合同	講義 GW　A	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
3	事例課題のGW　情報整理とアセスメント	合同	GW　A	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
4	事例課題のGW　情報整理とアセスメント	合同	GW　A	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
5	事例課題のGW　情報整理とアセスメント	クラス別	GW　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
6	事例による看護実践の展開 立案した看護計画に沿って援助を実践する	クラス別	GW　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
7	事例による看護実践の展開 立案した看護計画に沿って援助を実践する	クラス別	GW　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
8	事例による看護実践の展開 立案した看護計画に沿って援助を実践する	クラス別	GW　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
9	事例による看護実践の展開 看護援助の実践と修正	クラス別	GW　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美

10	事例による看護実践の展開 看護援助の実践と修正	クラス別	GW　　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
11	事例による看護実践の発表とリフレクション	クラス別	GW　　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
12	事例による看護実践の発表とリフレクション	クラス別	GW　　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
13	事例による看護実践の発表とリフレクション	クラス別	GW　　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
14	事例による看護実践の発表とリフレクション	クラス別	GW　　C	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美
15	学びの発表会 演習を通して自己の課題を明確にする	クラス別	合同A	金子宏美 一色潤子 髙橋奈津美

＊授業で取り扱う課題
事例を理解するための、解剖、病態生理、看護技術の基礎的知識。

受講上の注意点　：

課題を遂行して、積極的に演習に臨みましょう。演習室の入室は、学校の規定に則り行動してください。

オフィスアワー　：

演習期間中いつでも質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

山内豊明　フィジカルアセスメントガイドブック　医学書院

参　考　書　：　　写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ

教員の実務　：

看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

4. 専門分野

授業科目の区分:　専門分野	地域・在宅看護論	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域・在宅看護概論 時間割表記名　在宅概論	講義	1年	後期	1	30	内藤ゆみえ 松村麻希 齋木実 小林成美

講義のねらい:　在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動方法の特徴、及び在宅看護の役割と課題について学ぶ。　また、生活の質を維持し、その人らしい暮らしを続けられるよう社会資源の活用方法や制度、多職種との連携・協働について学習する。

到達目標　：
1. 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解できる。
2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解できる。
3. 在宅看護に関する法令や制度、社会資源について理解できる。
4. 在宅看護における多職種連携や協働、ケアマネジメントについて理解できる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(80%)　レポート(10%) GW(10%)	終講試験

成績評価基準　：　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	地域・在宅看護の概念 1. 地域と在宅の視点 ・地域と生活 ・在宅看護とは	合同	講義　A	小林成美
2	在宅療養者の権利保障と倫理的行動 在宅療養者の自立・自律支援	合同	講義　A	小林成美
3	在宅療養者と家族の支援 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 在宅療養成立要件	合同	講義　A	小林成美
4	在宅療養者と家族の支援 1. 在宅療養の場における家族とは 2. 在宅療養者の家族への看護	合同	講義　A	小林成美
5	地域における暮らしを支える看護 ・看護の提供方法 ・看護実践の場の移行 退院支援,退院調整,地域連携クリニカルパス 多機関・多職種との連携・協働と看護職の役割	合同	講義　A	小林成美

6	地域包括ケアシステムにおける暮らしと看護 ・地域包括ケアシステムの背景と機能 生活の場に応じた看護サービス提供機関 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 地域包括支援センターの役割　地域ケア会議	合同	講義　A	小林成美
7	在宅療養を支える訪問看護 ・訪問看護制度の創設と発展経緯 ・訪問看護の制度（介護保険法・医療保険法） ・訪問看護ステーションに関わる規程 ・訪問看護サービスの提供 ・看護が担うケアマネジメント	合同	講義　A	小林成美
8				小林成美
9	訪問看護の実際	合同	講義　A	内藤ゆみえ
10	社会資源の活用と地域における多職種連携 ・連携の必要性 ・多職種,多機関を知る ・多職種,多機関の連携の実際	合同	講義　A	小林成美
11	社会資源の活用方法 地域における社会資源について	合同	講義 演習　A	小林成美
12				小林成美
13	障害を持ち在宅で生活している方の暮らしの実際	合同	講義　A	松村麻希
14	在宅の場における医療の実際 ・在宅療養支援診療所について 地域包括ケアシステムの中核施設の取り組み ・HAPPINESS館クリニックについて	合同	講義　A	齋木実
15				

＊授業で取り扱う課題
多職種の様々な職種や活動内容、地域での社会資源の種類について調べる

受講上の注意点　：	成績評価GWにおいて、GWに参加しなかった場合は減点対象となります。
オフィスアワー　：	講義時間以外では、8：30～17：00の間に教務室にて対応します。 外部講師は、講義終了後に対応します。
使用するテキスト　：	ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術
参　考　書　：	系統看護学講座　専門分野　　地域・在宅看護論Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　地域・在宅看護論Ⅱ　医学書院
教員の実務　：	在宅療養診療所において実務経験を有する医師 訪問看護ステーションにおいて実務経験を有する看護師 医療機関において看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	成人看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
成人看護概論 時間割表記名　成人概論	講義	1年	後期	1	30	中村麻美

講義のねらい:成人期にある対象の成長・発達を理解し、社会構造から成人期の担う役割について考える。また経過別や健康障害に関連する理論を学びアセスメントする能力と活用する力を養う。

到達目標　:
1.成人期の成長・発達を理論を通して理解する。
2.成人期にある対象を取り巻く環境を学び保健の動向と健康問題を理解する。
3.生活習慣病の概念を理解し、予防行動に必要な指導方略について理解する。
4.職業に関連する健康障害と労働管理における看護師の役割を理解する。
5.ライフイベントや就労におけるストレスを学びストレスマネジメントを理解する。
6.経過別に応じた理論と事例から看護介入について考えられる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（80%）演習・課題（20%）	終講試験

成績評価基準　:

到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	成人看護の対象 成人期の特徴（青年期・壮年期・向老期） 発達課題：ハビイガースト、エリクソン	合同	講義	A	中村麻美
2	各発達段階の特徴と課題 青年期・壮年期・向老期の特徴と健康問題 家族の発達段階と問題	合同	講義	A	中村麻美
3	成人期にある対象の健康の動向 有訴者率、受療率、死亡率、死因順位　他	合同	講義	A	中村麻美
4	生活習慣病と関連する政策 生活習慣と健康障害、健康日本21、健康増進法	合同	講義	A	中村麻美
5	生活習慣病の動向と予防対策 三大疾病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患） COPD、メタボリックシンドローム、歯周病	ｸﾗｽ別	講義 演習	A	中村麻美
6	生活習慣病の予防とセルフケア 行動変容を促す自己効力感と指導方略	ｸﾗｽ別	講義 演習	A	中村麻美

7	成人期のライフイベントとストレス予防と対応 ストレス・コーピングモデル	合同	講義	A	中村麻美
8	職業に関連する健康障害と予防対策 じん肺、振動障害、VDT作業、有機溶剤ほか	合同	講義	A	中村麻美
9	職業に関連する法律と労働衛生管理 労働安全衛生法、労働衛生3管理 労働衛生5管理、労災補償	合同	講義	A	中村麻美
10	職業に関連するストレス 過労死・過労自殺、自殺対策基本法 ストレスマネジメント	合同	講義	A	中村麻美
11	健康レベルに応じた理論：急性期 救急看護・クリティカルケア フィンク危機モデル	合同	講義	A	中村麻美
12	健康レベルに応じた理論：急性期 アギュララ危機モデルの活用方法 理論を活用したアセスメントと看護介入	合同	講義 演習	A	中村麻美
13	健康レベルに応じた理論：回復期 国際生活機能分類・障害受容モデル（コーン） 多職種によるチームアプローチ	合同	講義	A	中村麻美
14	健康レベルに応じた理論：慢性期 セルフマネジメント（アクションプラン他） アドヒアランス・コンコーダンス	合同	講義	A	中村麻美
15	健康レベルに応じた理論：慢性期 病みの軌跡・成人学習アンドラゴジー理論	合同	講義	A	中村麻美

＊授業で取り扱う課題
事前・事後課題に関連する文献検索および自己学習

受講上の注意点　：	協同学習については学習時間の調整など自己の役割を認識し、協力する姿勢を以って学習に臨んで下さい。
オフィスアワー　：	授業に関する質問は、授業終了後や放課後に受け付けます。
使用するテキスト　：	南江堂NICE　成人看護学　成人看護学概論
参　考　書　：	医学書院　専門分野　成人看護学総論 生活習慣病のしおり　社会保険出版社
教員の実務　：	看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	老年看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
老年看護概論 時間割表記名　老年概論	講義	1年	後期	1	15	小林和子 菊池衛

講義のねらい:老年看護の対象と対象を取りまく環境や保健医療福祉を理解し、老年看護の役割を考え理解を深める。

到達目標　:
1.老年看護の対象を理解し、老年看護の役割を述べる。
2.高齢者の特徴と向老期からの加齢に伴う変化を述べる。
3.日本と地域の高齢化の現状と対策を知る。
4.高齢者の自己決定・権利擁護について述べる。
5．高齢者に関わる諸制度の成り立ちと保健医療福祉制度の活用について述べる。
6．老年看護について興味関心が持てる。

DPとの関連		
	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題　(20%)　と筆記試験　(80%)	終講試験

成績評価基準　:　授業課題の提出と内容、毎回の感想、レポート課題、終講試験とあわせて60点以上を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	老年期の対象理解と老年看護の役割 ①老年期をライフサイクルの流れの中で説明する。 ②日本の高齢化の現状について知る。 ③平均寿命と健康寿命について考える。	合同	講義　A	小林和子
2	様々な高齢者を理解する。① 夏季休暇中に、祖父母のライフヒストリーインタビュー調査をまとめて、夏季休暇後提出する。まとめた内容をグループ内で発表し、サブテーマに沿って模造紙にまとめる。	クラス	GW　A	小林和子
3	様々な高齢者を理解する。② 高齢者の健康 ２回目の授業でグループ毎に模造紙にまとめた作品をクラス内で発表する。グループごとに評価しあう。その後、校内に掲示し他学年や教員に成果を見てもらう。発表会で学んだことをレポートに追加し、最終提出とする。様々な高齢者を理解したうえで、高齢者の健康目標とアセスメント方法について学習する。	クラス	GW 講義　A	小林和子 菊池衛
4	老年看護の倫理 ①高齢者を取り巻く倫理的問題について、事例をもとに考える。（自己決定・権利擁護） ②高齢者虐待について、高齢者虐待防止法の調査結果をもとに考える。（身体拘束ほか）	合同	講義　A	小林和子
5	高齢者の保健医療福祉 夏季休暇中に、高齢者保健医療福祉にかかわる資料を地域の役所などで集めておく。 高齢者に関わる諸制度の成り立ちについて知る。 高齢化の現状を踏まえ、高齢者が生活していくための必要な施策について考える。	合同	講義　A	小林和子

6	加齢変化①　老化とは　老化と寿命 冬期休暇中に、身体的・精神的・社会的加齢変化について「ロイの12カテゴリー」に沿ってまとめ提出する。それをもとに、各カテゴリーごとに与えられた課題についてグループワークし、Ａ３用紙１～2枚以内にまとめる。	合同	講義 ＧＷ　　Ａ	小林和子
7 8	加齢変化② 冬期休暇中に、身体的・精神的・社会的加齢変化について「ロイの12カテゴリー」に沿ってまとめ提出する。それをもとに、各カテゴリーごとに与えられた課題についてグループワークし、Ａ３用紙１～3枚以内にまとめたものを発表し、意見交換や共通理解をする。終了後は校内に掲示し、他学年や教員に成果をみてもらう。	合同	講義 ＧＷ　　Ａ	小林和子 菊地衛

＊授業で取り扱う課題
Webclass上に提示する。

受講上の注意点　：　授業日までにテーマに関連する文献や新聞記事などに目を通しておく。

授業後は、講義内容を見直し、授業で紹介した参考文献にあたるなど各自がテーマへの理解を深める。

オフィスアワー　：　授業の前後に教室で相談を受ける。

使用するテキスト　：　ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害

参　考　書　：　学習内容に合わせて適宜紹介する。

教員の実務　：

看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	精神看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
精神看護概論 時間割表記名　　精神概論	講義	1年	通年	1	30	神澤尚利 井上紀子 菊地嘉通

講義のねらい:　こころのはたらきや理論・歴史・法律を学び、精神の健康とこころの機能の回復過程について理解する力を養う。

到達目標　:
1．さまざまな発達段階をふまえたメンタルヘルスを考える。
2．さまざまな状況や環境の中で変化するストレッサーと精神疾患のつながりを理解する。
3．理論を学ぶことで、精神保健・看護の根拠を理解する。
4．精神保健にかかわる法律の成り立ちと歴史的背景を関連付けることで、精神科看護と人権尊重について述べられる。
5．自己と社会の精神保健を理解することで、家族や仲間とのかかわり方について考える。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験(神澤50%、井上50%)	終講試験

成績評価基準　:　　筆記試験で60点以上を合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	精神看護学で学ぶこと 埼玉医科大学における精神科看護の取り組み	合同	講義	A	井上紀子
2	精神保健の考え方 精神保健と精神障害のさまざまな概念	合同	講義	A	神澤尚利
3	心のはたらきとしくみ ストレスと心身相関・環境適応	合同	講義	A	神澤尚利
4	関係のなかでの人間 家族や状況の中でおきるできごと	合同	講義	A	神澤尚利
5	精神看護とエンパワメント グループの効果とピアサポート	合同	講義	A	神澤尚利
6	ソーシャル・サポートと精神看護 地域包括支援の意義	合同	講義	A	神澤尚利
7	精神障害と治療の歴史①	合同	講義	A	神澤尚利
8	精神障害と治療の歴史②	合同	講義	A	神澤尚利
9	精神障害と発達課題論 環境が心の発達に与える影響	合同	講義	A	井上紀子
10	精神疾患をもつ人のセルフケア こころの機能の回復に重要な自己決定の力	合同	講義	A	井上紀子

11	精神疾患をもつ人のニード 精神的安寧とニード理論	合同	講義　　A	井上紀子
12	精神疾患と自我同一性 看護師に重要なレジリエンスの知識	合同	講義　　A	井上紀子
13	精神障害と障害の受容過程 社会適応のための自己受容と社会的受容	合同	講義　　A	井上紀子
14	精神障害と法制度 法律の特徴から精神疾患の理解を深める	合同	講義　　A	井上紀子
15	精神障害と多職種連携 精神障害をもつ方の地域生活の実際と看護	合同	講義　　A	菊地嘉通

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

配布された資料は、精神看護学援助論Ⅲや実習時に活用できるように保存すること。

オフィスアワー　：

授業終了後に適宜行います。

使用するテキスト　：

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院

事例を通してやさしく学ぶ　中範囲理論入門　第2版　日総研

参　考　書　：

教員の実務　：

精神科病棟での実務経験がある教員と非常勤講師が、こころの機能や対象者・家族・社会環境の捉え方について、基盤となる知識を教授する。また、地域において、精神障害をもつ人の訪問看護ステーションの運営を行っている看護師が、多職種連携の役割を教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野			精神看護学			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
精神看護学援助論Ⅰ 時間割表記名　精神援助Ⅰ	講義	1年	後期	1	30	吉益晴夫 安田貴昭 志賀浪貴文 梅村智樹 倉持泉 嶋﨑広海 原島健太
講義のねらい:精神障害の診断と分類、症状や状態像を理解し、それぞれの治療と回復過程を理解することで、精神科看護の根拠となる知識を獲得する。						
到達目標　: １．精神疾患の治療方法・回復過程を、脳と心の機能と関連付けて理解する。 ２．発達過程でおきる生理・心理と、精神機能の関連を理解する。 ３．疾患・症状ごとに考え、治療・回復の促進となる看護師の役割を理解する。 ４．さまざまな発達段階における、症状の特徴を理解する。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（吉益晴夫ほか50%、原島50%）	終講試験
成績評価基準　:	筆記試験で60点以上を合格とする	

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	診断と疾病分類 統合失調症の治療と回復過程	合同	講義	A	倉持　泉
2	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解① 統合失調症への看護	合同	講義	A	原島健太
3	気分[感情]障害（双極性障害および感染障害群、抑うつ障害群）の治療と回復過程	合同	講義	A	梅村智樹
4	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解② 双極性障害、気分障害への看護	合同	講義	A	原島健太
5	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の治療と回復過程	合同	講義	A	志賀浪貴文
6	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解③ 神経症性障害、摂食障害への看護	合同	講義	A	原島健太
7	精神作用物質使用による精神・行動の障害 治療と回復過程	合同	講義	A	吉益晴夫
8	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解④ アルコール依存症への看護	合同	講義	A	原島健太

9	各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調の治療と回復過程① 知的能力障害・てんかん・発達障害	合同	講義	A	梅村智樹
10	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解⑤ 知的能力障害への看護	合同	講義	A	原島健太
11	各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調の治療と回復過程② 摂食障害・パーソナリティ障害・周産期にあらわれやすい心的不調	合同	講義	A	安田貴昭
12	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解⑥ 摂食障害への看護	合同	講義	A	原島健太
13	各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調の治療と回復過程③ ミッドライフ－クライシス・高次脳機能障害・老年期うつ・認知症	合同	講義	A	嶋﨑広海
14	精神科看護において重要な症状と回復過程の理解⑦ 老年期うつ病への看護	合同	講義	A	原島健太
15	性別違和、性別不合 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒障害の対応のしかたと成長発達の促進支援	合同	講義	A	志賀浪貴文

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

わからない内容があれば、講義時間内に質問してください。

オフィスアワー　：

講義終了後に行います。

使用するテキスト　：

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院

参　考　書　：

教員の実務　：

医療機関において臨床医の経験を踏まえて、精神疾患の概念・病状・分類・治療について概説する。その内容に沿うように、精神科病棟での実務経験がある精神看護認定看護師が、治療と看護の連携や治療環境や生活背景を踏まえて、症状に対する看護について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	小児看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
小児看護概論 時間割表記名　小児概論	講義	1年	後期	1	15	柳沢美智子 山野歩

講義のねらい:
子どもの特徴を理解し、健全な成長発達が遂げられるための社会体制や保健医療制度、小児看護の役割を学ぶ。

到達目標　:
１．小児看護の目的と役割が分かる。
２．小児医療・小児看護の変遷を知る。
３．子どもと家族の統計と保健制度がわかる。
４．子どもと家族を取り巻く社会がわかる。
５．小児看護における倫理を知る。
６．小児看護が行われる場と役割を知る。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の感想　(試験配分%)　と筆記試験　(試験配分%)	終講試験

成績評価基準　:　試験内容
筆記試験（90%）レポート提出（5%）グループ課題への取り組み（5%）

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	小児看護を実践するための基礎的知識	合同	講義　A	山野歩
2	小児看護とは、子どもの特徴 小児看護の歴史と意義	合同	講義　A	山野歩
3	子どもと家族を取り巻く社会保険制度	合同	講義　A	山野歩
4	子どもの権利	合同	講義　A	山野歩
5	さまざまな状況にある子ども 子どもと虐待　子どもと災害　家族への看護	合同	講義　A	山野歩
6	さまざまな状況にある子ども 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	合同	講義　A	柳沢美智子
7	さまざまな状況にある子ども 在宅における子どもと家族への看護	合同	講義　A	柳沢美智子
8	子どもと家族を取り巻く社会	クラス別	GW 講義　A	山野歩

＊授業で取り扱う課題
　子どもの健やかな成長・発達を保証することは、医療をはじめとする社会全体の責務である。我が国において、子どもを取り巻く衛生環境や医療水準は世界トップレベルである。一方、少子高齢社会や核家族のなか、待機児童、いじめや不登校児童、さらには子どもの貧困、児童虐待が社会問題となって久しい。また、未曽有の自然災害は人智を超えて世界全体を揺るがし子どもの健康や生命さえも脅かす事態となった。
　新たな政策が打ち出されるなか、子どもを守り、健やかな成長・発達を支える社会を目指すための看護師の役割について学ぶ。

受講上の注意点　：　　小児看護学まとめドリルを復習に役立ててください。 子どもがイメージできるように、身近な子どもや家族に関心をもって観察をしてみましょう。子どもに関する時事問題に関心を持ちましょう。	
オフィスアワー　：　　授業日に関わらず、休憩時間、放課後等受け付ける	
使用するテキスト　： 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院	
参　考　書　：　　小児看護学まとめドリル　SENKOSHA	
教員の実務　：　　医療機関において看護師としての経験を踏まえて、小児看護学 小児の特徴と小児各期の発達段階、小児保健、小児を取り巻く医療・福祉の問題について教授する。	

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	母性看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
母性看護概論 時間割表記名　　母性概論	講義	1年	後期	1	15	髙橋幸子 岩澤浩江

講義のねらい:母性看護の対象を理解するために、対象を取り巻く環境を含めて生涯を通じた母性の健康と発達を学習する。また、母性看護の基盤となる概念を学習する。

到達目標：１．母性看護の対象と概念が理解できる
　　１）女性と家族の生涯における特性と健康問題がわかる
　　・リプロダクティブヘルス/ライツの概念と脅かす問題が理解できる
　　・各ライフサイクルにおける健康問題についてまとめることができる
　　２）母性看護を取り巻く環境と社会支援が理解できる
　　２．人間の性であるセクシュアリティについて理解できる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題提出(20%)と筆記試験(80%)	終講試験

成績評価基準：

課題の提出と内容、演習への参加態度を数値化、筆記試験による評価、これらを合わせて60点以上を及第点とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	授業の進め方 １．母性・母性看護とはなにか ２．母性看護の対象と特徴 　１）母性とは　　２）対象とその特徴 　３）ケアの基本となる概念	合同	講義　A	岩澤浩江
2	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 １．リプロダクティブヘルス/ライツとは ２．プレコンセプションケア	合同	講義　A	岩澤浩江
3	母性のライフサイクルと健康 各ライフサイクルの健康課題 　①思春期 　②成熟期 　③更年期 　④老年期 健康課題をグループワークでまとめ、発表をする	クラス別	ＧＷ　A	岩澤浩江
4		クラス別	ＧＷ　A	岩澤浩江
5	リプロダクティブ・ヘルスに関する健康問題と支援 １．人工妊娠中絶 ２．性暴力と社会	合同	講義　A	髙橋幸子
6	１．母性看護と関連する保健統計 ２．母性看護に関連する法律と支援 ３．母性を取り巻く環境の変化 　１）妊娠・出産・育児の環境 　２）地域による支援体制	合同	講義　A	岩澤浩江
7		合同	講義　A	岩澤浩江

8	セクシュアリティ １．セクシュアリティとは ２．性の多様性 ３．関連法律・制度	合同	講義　A ＧＷ	岩澤浩江

＊授業で取り扱う課題
リプロダクティブヘルス/ライツ
女性のライフサイクルの健康課題とその看護について
母子を取り巻く環境（保健統計，法律）

受講上の注意点　：
講義やグループワークに必要な事前学習（予習と課題）を課します。
課題と学習内容を持参のうえ、出席すること。

オフィスアワー：
授業終了後に質問を受け付けます。
学内にいる場合はいつでも可能（事前に時間の調整をしたうえで対応します）

使用するテキスト：
系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学〔1〕母性看護学概論　医学書院

参　考　書：
自分を生きるための〈性〉のこと　性と生殖に関する健康と権利編　少年写真新聞社
はたらく細胞　ＬＡＤＹ　10代女性が知っておきたい「性」の新知識　講談社

教員の実務　：
医師の実務経験のある非常勤講師
看護師・助産師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
基礎看護学実習Ⅰ	実習	1年	45	1

目的：医療施設における療養環境及び看護の実際を見学し、看護職者としての自覚を養う。	担当教員
到達目標： １）病院の様々な部署や従事する保健医療福祉の職種と役割についてわかる。 ２）入院している対象の生活環境がわかる。 ３）看護師が行う看護援助の見学を通して看護活動の実際を知る。 ４）対象者とのかかわり（対話）を通して、良好な人間関係について考える。 ５）看護師としての基本的態度を身につける。	専任教員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　60点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価表をもって基準を示す。

内　　容

1日間の見学実習、2日間の病棟実習、2日間の学内実習（講話、学びの会）
１．病院の役割と機能
(1)埼玉医科大学総合医療センター病院長の講話
　病院の役割と機能、地域の特徴と病院の特徴、病院の理念、医療安全体制、災害対策
(2)病院に従事する職種と役割（見学）
　外来16部門、薬剤部、中央検査部門、リハビリテーション部、高度救命救急センター、
　周産期母子医療センター、内視鏡センター、化学療法室、血液浄化センター
２．看護の対象者が療養している病棟と環境
(1)病棟オリエンテーション
(2)病室の環境
　病室の構造、病床環境、プライバシー
３．看護師のコミュニケーション場面の見学（シャドーウィング）
(1)コミュニケーションの基本①挨拶②自己紹介③身だしなみ④表情や視線、言葉使い、姿勢・
　動作
４．対象者との対話
５．見学・体験したことを学びの会で発表する。

オフィスアワー：実習終了後いつでも質問の対応はできる。

教科書：　なし

参考書：　看護覚え書き　湯槙ます訳　現代社
　　系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学技術Ⅱ　医学書院
　　系統看護学講座　専門Ⅰ　看護概論　医学書院

教員の実務　：　看護師の経験のある専任教員

Ⅶ　2年次科目

1. 基礎分野

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解　　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
医療情報学 時間割表記名　医療情報学	講義	2年	前期	1	30	鈴木康文
講義のねらい: 医療の情報化、医療情報のシステムの役割、コンピューターとネットワーク、データーベースの概要を学ぶ。						
到達目標　: １．医療情報システムと情報処理について説明する。 ２．コンピューターの概要と仕組みについて説明する。 ３．コンピューター・ネットワークとインターネットについて説明する。 ４．コンピューター・ネットワークのセキュリティーについて説明する。 ５．データーベースの作成と文献情報の検索ができる。 ６．医療情報システムの実際を知る。 ７．個人情報保護やプライバシーと情報公開（カルテ開示）について知る。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　課題内容	終講試験
成績評価基準　:　　試験内容 学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。		

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	医療情報学の概要	クラス別	講義　G	鈴木康文
2	医療情報システムの概要	クラス別	講義　G	鈴木康文
3	情報と情報処理	クラス別	講義　G	鈴木康文
4	コンピュータの概要1	クラス別	講義　G	鈴木康文
5	コンピュータの概要2	クラス別	講義　G	鈴木康文
6	情報セキュリティ	クラス別	演習　G	鈴木康文
7	コンピュータの仕組み1	クラス別	演習　G	鈴木康文
8	コンピュータの仕組み2	クラス別	演習　G	鈴木康文
9	コンピュータ・ネットワーク	クラス別	演習　G	鈴木康文
10	インターネット	クラス別	演習　G	鈴木康文
11	コンピュータ・ネットワークのセキュリティ	クラス別	演習　G	鈴木康文
12	データベースと文献情報	クラス別	演習　G	鈴木康文
13	レコードリンケージ	クラス別	演習　G	鈴木康文
14	POS、POMR	クラス別	演習　G	鈴木康文

15	患者個人情報保護	クラス別	講義　　G	鈴木康文
＊授業で取り扱う課題				
受講上の注意点　：　授業は情報処理室で行います。 情報処理室へは筆記用具の持ち込みを禁止します。				
オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。				
使用するテキスト　：　新訂版　看護・医療系のための情報科学入門　第２版				
参　考　書　：				

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　基礎分野　　科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
医療 倫理 時間割表記名　医療／看護倫理	講義	2年	前期	1	30	島﨑美空 ＊大賀公子
講義のねらい: 現代の医療・看護についての多様な見方（価値観や世界観）を学び、生命倫理の事例や医療・看護実践の場における倫理的問題に気づき、適切な倫理的判断を行うための理論や方法論を学び、倫理的問題を考察すること。						
到達目標　: １．現代医療の場における生命倫理の諸問題について理解することができる。 ２．諸問題を倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力が育まれる。 ３．医療現場の倫理的問題に気づくことができる感性（倫理的感性）が高まる。 ４．看護の現場の身近な事例を分析し、倫理的問題への対応について考察し表現できる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験・出席・レポート	終講試験

成績評価基準　:

この科目の到達目標の到達とし、筆記試験や出席状況や提出物を加味し、総合的に判断する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	イントロダクションー生命倫理・医療倫理とは	合同	A　合同教室	島﨑美空
2	生命倫理の四原則、インフォームド・コンセントと意思決定	合同	A　合同教室	島﨑美空
3	生殖補助医療	合同	A　合同教室	島﨑美空
4	出生前・着床前検査、人工妊娠中絶	合同	A　合同教室	島﨑美空
5	遺伝・ゲノム、遺伝情報の取り扱いと保護	合同	A　合同教室	島﨑美空
6	臓器移植、脳死	合同	A　合同教室	島﨑美空
7	尊厳死・安楽死	合同	A　合同教室	島﨑美空
8	終末期医療	合同	A　合同教室	島﨑美空
9	再生医療（ES細胞、iPS細胞）	合同	A　合同教室	島﨑美空
10	医療資源の配分、感染症・公衆衛生と倫理	合同	A　合同教室	島﨑美空
11	看護倫理とは、基盤となる理論・概念 看護者の倫理綱領	合同	A　合同教室	大賀公子
12	看護における倫理的問題解決の実際	合同	A　合同教室	大賀公子
13 14	看護における倫理的問題・課題解決の方法論 事例を用いた倫理的問題・課題解決のGW	合同	A　合同教室	大賀公子
15	まとめ	合同	A　合同教室	大賀公子

＊授業で取り扱う課題	
受講上の注意点　：	各講義前には指定の教科書を読んでから、講義に参加すること
オフィスアワー　：	授業終了後に質問を受け付けます。
使用するテキスト　：	テーマで読み解く　生命倫理　教育出版 系統看護学講座　別巻　看護倫理
参　考　書　：	
教員の実務　：	精神看護専門看護師（リエゾン精神看護）として勤務　10年
※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室 E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他	

授業科目の区分: 基礎分野　科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
コミュニケーション論 時間割表記名　コミニケーション論	講義	2年	前期	1	15	田中順子
講義のねらい: 患者の看護や他職種との連携・協働するために必要な基本的なコミュニケーション・スキルを、グループワークやロールプレイなどの演習を通して習得する。						
到達目標： 基本的なコミュニケーション・スキルを習得し、それを活用しながら他者とコミュニケーションをはかることができる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	毎回の課題(30%)とレポート(70%)	終講試験

成績評価基準　：　レポート評価

授業課題の提出と内容、グループワークの参加態度を数値化し、レポート課題を合せて総合的に評価する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	医療コミュニケーション概論	クラス別	講義　G	田中順子
2	患者と医療者におけるコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
3	相互理解のためのコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
4	情報提供のためのコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
5	行動変容を促すコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
6	多職種連携のコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
7	集団意思決定におけるコミュニケーション	クラス別	GW　G	田中順子
8	総括・まとめ：医療コミュニケーションの実践	クラス別	講義　G	田中順子

＊授業で取り扱う課題
各回の学習内容に関連した臨床実践の中で生じうるコミュニケーションの問題を提示し、授業内で扱う。

受講上の注意点　：

1. グループワークやロールプレイは他の学生と協調して学ぶ態度を維持し、積極的に参加してください
2. 自分自身のコミュニケーションスタイルに関心を持ちながら参加してください

オフィスアワー　：　授業終了後や休み時間に質問を受け付ける。

使用するテキスト　：　特に指定しない。適宜資料を配布する。

参　考　書　：　学習内容に合わせて適宜紹介する

教員の実務　：　医療機関における公認心理師の実務経験を有する非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

2. 専門基礎分野

授業科目の区分:　専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
病態治療学総論 時間割表記名　病治総論	講義	2年	前期	1	30	竹下享典 髙橋健夫 早川豊和 内海暢子 平松玄太郎 牧　章 儀賀理暁

講義のねらい:本講義は、人体を系統的に分け、健康障害の検査・治療の基礎的知識について学び、医学的、病態学的に基づいた看護を実践する能力を養う。

到達目標　:
１．臨床検査の意義や種類、方法、生体への影響や、検査結果の解釈について理解する。
２．放射線療法の概要を理解する。
３．臓器移植の概要を知る。
４．化学療法の概要を知る。
５．緊急を要する症状、徴候、検査・診断・治療について理解する。
６．緩和ケアの概要について理解する。

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
		2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	臨床検査(30%)　放射線療法(20%) 救急医療(20%)　臓器移植(20%) 緩和ケア(10%)	終講試験

成績評価基準:　到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	臨床検査総論：臨床検査全般、検査の目的と進め方、検査の基準値、診断感度、特異度	合同	講義　A	竹下享典
2	臨床検査各論：検体検査、免疫検査	合同	講義　A	竹下享典
3	臨床検査各論：細菌検査、輸血検査	合同	講義　A	竹下享典
4	臨床検査各論：生理学的検査、超音波検査	合同	講義　A	竹下享典
5	放射線療法の基礎・被爆	合同	講義　A	髙橋健夫
6	放射線画像診断	合同	講義　A	内海暢子
7	放射線治療	合同	講義　A	早川豊和
8	救急医療概論：救急医療とは　救急診断	合同	講義　A	平松玄太郎
9	救急医療の実際：心肺蘇生、ショック	合同	講義　A	平松玄太郎
10	救急医療の実際：重症外傷と出血、止血	合同	講義　A	平松玄太郎
11	臓器移植の概要：臓器移植の歴史　拒絶反応と免疫抑制療法	合同	講義　A	牧　章
12	臓器移植の実際：臓器移植の手術	合同	講義　A	牧　章
13	緩和ケアの概要：緩和ケアとは	合同	講義　A	儀賀理暁

14	緩和ケアの実際：症状コントロール　進行がん患者への配慮	合同	講義　　A	儀賀理暁
15	特別講演	合同	講義　　A	儀賀理暁

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：　各講義の前には、事前に教科書を読んで受講すること

オフィスアワー　：　授業の後に質問を受ける。

使用するテキスト　：　系統看護学講座　別巻　臨床検査
系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学
系統看護学講座　別巻　臨床外科総論
系統看護学講座　別巻　緩和ケア

参　考　書　：

教員の実務　：　医師の実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野　科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解　令和6年度						
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
リハビリテーション概論 時間割表記名　リハビリテーション	講義	２年	前期	1	15	大林　茂 藤本幹雄 新名　啓 笹川麻由 國友淳子 森本貴之 伊藤智彰
講義のねらい:　リハビリテーションの定義や理論にとどまらず、機能障害のメカニズム、運動機能評価・予後回復・治療、訓練の概要を学習する。またリハビリテーションの実際を見学し、様々なリハビリテーションの種類と医療システム、地域のシステムを学習する。						
到達目標　:１．リハビリテーションの定義や基本的な考え方がを理解する。 ２．障害のメカニズムを理解し、運動機能評価・余語回復・治療・訓練の概要が説明できる。 ３．障害の定義と機能障害におけるリハビリテーションの実際がわかる。 ４．リハビリテーションにおけるチーム医療について理解できる						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	リハビリテーション概論 リハビリテーションの定義と理念 リハビリテーションの対象 リハビリテーション看護 疾病・障害・生活機能分類・福祉・多職種連携	合同	講義　A	大林　茂
2	運動器系の障害とリハビリテーション 感覚器系の障害とリハビリテーション	合同	講義　A	藤本幹雄
3	中枢神経系の障害とリハビリテーション（1）	合同	講義　A	新名　啓
4	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション 高齢者の障害とリハビリテーション	合同	講義　A	笹川麻由
5	理学療法	合同	演習 講義　C	森本貴之
6	作業療法	合同	演習 講義　C	國友淳子
7	言語聴覚療法	合同	演習 講義　C	伊藤智彰

8	中枢神経系の障害とリハビリテーション（2）	合同	講義　　A	大林　茂

受講上の注意点　：

講義前に該当するテキストの箇所を必ず読むこと。
授業中の私語は慎み、携帯電話の持ち込みは禁止します。

オフィスアワー　：　授業の前後に教室で相談を受ける。

使用するテキスト　：　配布資料に基づいての講義

参　考　書　：　　リハビリテーション看護〔医学書院〕

教員の実務　：

医療機関において臨床医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の経験を踏まえて、リハビリテーションの理論、機能障害のメカニズム、運動機能評価・予防回復、治療、訓練を概説する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床薬理学演習 時間割表記名　薬理演習	講義	2年	前期	1	15	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子

講義のねらい:　本講義では1年次に学んだ薬理学の知識をもとに、臨床での薬物治療における薬理作用や有害事象、留意事項について学ぶ。また、その薬剤について、患者の観察や患者指導に繋げられるように演習を通して学び臨床判断能力の基礎を養う。

到達目標　:
1. 各種疾患で用いられる代表的な医薬品の薬理学的特性、薬物動態学的特性を理解する。
2. 有効性と安全性を考慮した代表的薬剤の使用上の注意事項を把握できる。
3. 薬物治療の効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をする上での留意点を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	評価は成果物とし再試験は行わない	終講試験

成績評価基準　:　　試験内容 態度：授業やGWの参加　30%
成果物　（70%）

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	臨床での薬物治療の特徴	合同	講義	A	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
2	演習方法についての概要説明	合同	講義	A	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
3	演習：グループに分かれてそれぞれの課題に取り組む	合同	GW	A,B,G	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
4	演習：グループに分かれてそれぞれの課題に取り組む	合同	GW	A,B,G	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
5	演習：グループに分かれてそれぞれの課題に取り組む	合同	GW	A,B,G	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
6	演習：発表と講評（1）	合同	演習	B	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
7	演習：発表と講評（2）	合同	演習	B	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子
8	まとめ	合同	講義	A	矢野俊介 小﨑妙子 井上紀子

＊授業で取り扱う課題
・臨床で使用される頻度の高い薬品について薬物記録シートに沿って事前学習をする。次に実習で受け持った患者の治療薬についても同様に学習する。

受講上の注意点　：	解剖生理学で学習した、「正常の人間の構造と機能」の知識と、「疾病の成り立ち」が基本となるので、よく復習しておくこと。さらに、薬理学の復習をして臨むこと。 この科目は、提出物と発表の内容で評価し、再試験はない。
オフィスアワー　：	講義中、または指示した指導期間に受け付ける
使用するテキスト　：	今日の治療薬　解説と便覧　南江堂 系統看護学講座　専門分野　薬理学
参　考　書　：	系統看護学講座　別巻　臨床薬理
教員の実務　：	薬剤師の実務経験のある非常勤講師 看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	社会保障制度と生活者の健康	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
公衆衛生学 時間割表記名　　公衆衛生	講義	2年	後期	1	30	与五沢真吾 山賀　貴

目　　的　：
　公衆衛生の概念と方法を理解し、現状の問題点を把握する。さらに看護師として公衆衛生の向上と増進、予防医学活動を実践するために必要な能力と国家試験に対応する十分な知識を身につける。

到達目標　：
1）衛生学、公衆衛生学に関する用語の定義を正確に述べることができる。
2）生涯の各段階における公衆衛生活動を理解し、関連する法規について説明できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　：　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	公衆衛生学序論 公衆衛生の考え方と目的	合同	講義　A	与五沢真吾
2	人口統計（1） 人口静態統計の主な指標について	合同	講義　A	与五沢真吾
3	人口統計（2） 人口動態統計の主な指標について	合同	講義　A	与五沢真吾
4	人口統計（3） 人口動態統計の主な指標について	合同	講義　A	与五沢真吾
5	感染症対策（1） 感染症の現状と対策について	合同	講義　A	与五沢真吾
6	感染症対策（2） 感染症の現状と対策について	合同	講義　A	与五沢真吾
7	国民医療費と医療保険制度・医療法 国民医療費の現状と医療保険制度の仕組みについて 医療法における医療計画について	合同	講義　A	山賀　貴
8	疾病統計 国民生活基礎調査、患者調査について	合同	講義　A	山賀　貴
9	産業保健 産業災害の現状と対策について	合同	講義　A	山賀　貴
10	環境保健 生活環境と健康との関連、問題点と対策	合同	講義　A	山賀　貴
11	食品保健 食品や栄養に起因する疾病と現状、問題点と対策	合同	講義　A	山賀　貴

12	母子保健・学校保健 母子保健の現状と動向、主な保健指標の定義と意味 学校保健管理、学童期児童の健康状態について	合同	講義　　A	山賀　貴
13	精神保健・介護保険 精神保健の現状と問題点について 介護保険制度の仕組みについて	合同	講義　　A	山賀　貴
14	まとめ	合同	講義　　A	山賀　貴
15	まとめ	合同	講義　　A	与五沢真吾

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：　１．講義前に該当するテキストの箇所を必ず読むこと
２．授業中の私語、居眠りは慎み、携帯電話の持ち込みは禁止します

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：　・公衆衛生がみえる2022-2023　メディックメディア
・医学書院　系統看護学講座　専門基礎　公衆衛生　　健康支援と社会保障制度2
・厚生労働統計協会　厚生の指標増刊「国民衛生の動向2023－2024」

参　考　書　：

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門基礎分野	社会保障制度と生活者の健康	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
看護関係法令 時間割表記名　　看護法令	講義	2年	前期	1	30	手嶋　顕久
講義のねらい: 医療従事者として必要となる法律の基礎的知識や関係制度の仕組み、内容等を学ぶ。特に看護師としての業務、義務等については、保健師助産師看護師法を中心に、より掘り下げて学習する。						
到達目標　：　保健医療制度をはじめ看護を取り巻く関係法規の基本的知識を理解する。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　：

終講試験により評価する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	法令、法律用語の基本と保健医療福祉法の体系を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
2	保健医療の現況と今後の医療の方向性を考える。	合同	講義　A	手嶋　顕久
3	医療提供体制整備の仕組みと医療施設の概要を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
4	患者中心の医療を実現するための仕組みを学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
5	看護職の資格、業務、義務等の詳細を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
6	医療過誤による看護職の法的責任を考える。	合同	講義　A	手嶋　顕久
7	その他医療福祉専門職の資格、業務等を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
8	精神障害者の医療・保健・福祉と司法処分について学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
9	健康づくり等保健衛生関係の概要を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
10	薬務法等医療関連法、その他関係法について学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
11	重症心身障害児の医療・福祉支援を実務的に学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
12	医療保障制度と診療報酬の仕組みを学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
13	高齢者の介護と地域包括ケアシステムの概要を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
14	労働法制と産業保健の概要を学ぶ。	合同	講義　A	手嶋　顕久
15	食の安全・安心について考える。	合同	講義　A	手嶋　顕久

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　： 1　講義前に配信する講義資料を必ず読み予習すること。 2　授業中の私語、居眠りは厳に慎むとともに、携帯電話の持ち込みは禁止する。
オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付ける。
使用するテキスト　：　「看護をめぐる法と制度（健康支援と社会保障制度④」（メディカ出版）
参　考　書　：
教員の実務　： 埼玉県庁で医療福祉行政の実務経験あり。また現在、医療型障害児入所施設「カルガモの家」の運営管理全般に携わっている。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分: 専門基礎分野	社会保障制度と生活者の健康	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
健康教育方法論 時間割表記名　健康教育	講義・演習	２年	前期	1	15	鎌田　博司
講義のねらい: 看護師としての健康教育の目的と技法を学ぶ。行動変容プログラムを活用し、個別的・集団的指導が実施できるためのコミュニケーション技術、意思決定支援のアプローチなど教育方法の実践を学習する。						
到達目標　: １．健康教育の目的が理解でき、それぞれの対象に向けた教育方法がわかる ２．健康教育に必要なスキルを理解し、支援者としての役割が理解できる。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験	終講試験

成績評価基準　:　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	健康の捉え方と健康教育の目的	合同	講義　A	鎌田　博司
2	健康教育プロセスと変化理論	合同	講義　A	鎌田　博司
3	健康教育のプロセス及び教育的働きかけの場と方法	合同	講義　A	鎌田　博司
4	コミュニケーションを用いた問題の明確化と教育媒体の活用	合同	講義　A	鎌田　博司
5	相談援助のプロセスと患者-医療者間でのコミュニケーション	合同	講義　A	鎌田　博司
6	面談・対面指導のポイントと意思決定支援	合同	講義　A	鎌田　博司
7	患者教育におけるリフレーミングの活用	合同	講義　A	鎌田　博司
8	授業のまとめ	合同	講義　A	鎌田　博司

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:　授業中の私語、居眠りは慎み、携帯電話の持ち込みは禁止します。

オフィスアワー　:　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　:　資料配布

参　考　書　:　ナースのための患者教育と健康教育（医学書院）
健康教育（保健同人社）

教員の実務　:
医療機関において臨床経験がある保健師が、健康教育の目的の理解と事例を通しての教育の個別プログラムの作成の指導を通し、健康教育方法について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

3. 専門分野

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅲ 時間割表記名　フィジカル	講義	2年	前期	1	30	一色潤子
講義のねらい: 全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基本原理、基本技術を習得する。						
到達目標　: 1. ヘルスアセスメントの意義・目的を理解することが出来る。 2. 対象の健康状態をアセスメントするために必要なフィジカルイグザミネーションの方法（問診・視診・触診・聴診・打診）を理解することが出来る。 3.フィジカルイグザミネーションで得られた情報を記録して、アセスメントすることが出来る。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（100%）	終講試験
成績評価基準　:	講義資料、教科書、参考書、演習の内容を踏まえた筆記試験を行い到達度を評価する。学則26条に則り60点以上を合格とする。	

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	フィジカルアセスメントに必要な基礎知識 ①人体の部位の名称と表現　②フィジカルアセスメントに共通する基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）	合同	講義A	一色潤子
2	系統別フィジカルアセスメント ①肺呼吸器系とは②肺と呼吸のしくみ③胸郭・肺の解剖④呼吸器系の観察	クラス別	講義C	一色潤子
3	系統別フィジカルアセスメント ①循環器系とは②心臓と周囲の解剖③循環器系のしくみ④循環器系の観察	クラス別	講義C	一色潤子
4 5	肺呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 胸郭の形態と外観、聴診部位の正常呼吸音、呼吸音の異常	クラス別	演習C	一色潤子
6 7	循環器系のフィジカルアセスメントの実際 末梢循環不全の観察、頚静脈の視診、触診（浮腫の観察）、心臓の大きさを推定する、心音の聴診	クラス別	演習C	一色潤子
8	系統別フィジカルアセスメント ①消化器系とは②腹部の解剖③消化器系のしくみ（消化・吸収、消化管と痛みと出血） ④消化器系の観察　⑤腹部の聴診、打診、触診	クラス別	演習C	一色潤子
9	系統別フィジカルアセスメント ①乳房・腋窩②生殖器（女性／男性）	クラス別	演習C	一色潤子
10 11	神経系のフィジカルアセスメント 神経系の構造と機能の知識、神経系の区分と外観 生命維持機能の観察、伝音性・感音性難聴の鑑別	クラス別	演習C	中村麻美

12 13	筋・骨格系のフィジカルアセスメント 筋骨格系の構造と機能の知識、関節可動域の測定 筋力のスクリーニング、徒手筋力測定、関節可動域と徒手筋力、小脳機能の評価と平衡機能の評価	クラス別	演習　C	中村麻美
14 15	症状・兆候からのフィジカルアセスメント 報告の仕方、記録の書き方 例）①息苦しい・・・②ドキドキする	クラス別	演習　C	一色潤子

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

演習室の入室は、学校の規定に則り行動してください。演習課題の提出期限は厳守しましょう。演習・GWは積極的に参加してください。フィジカルアセスメントの講義は、解剖生理学を予習してください。

オフィスアワー　：

技術練習を行う場合は対応しますので事前に申し出てください。授業日の放課後に受け付けます。

使用するテキスト　：

茂野香おる　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術1基礎看護学②
山内　豊明　フィジカルアセスメンガイドブック　医学書院

参　考　書　：

教員の実務　：　　大学病院で看護師として実務経験がある教員が担当している。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床看護論 時間割表記名　臨床看護技術	講義	2年	前期	1	30	佐々木裕介 髙橋奈津美 小林和子

講義のねらい:看護の対象の状況（健康状態、症状、治療・検査）に応じた基礎的知識を理解する。健康上のニーズや健康状態に応じた看護援助を、既習学習を活用しながら統合し、対象者の看護に応用できる思考過程を習得する。

到達目標：
１．対象者の健康状態の経過に基づく特徴やニーズを知り、看護援助を考える。
２．主要な症状の発症のメカニズムを理解し、発症予防や症状の緩和に向けての看護援助　を考える。
３．治療・処置を受ける対象者の安全安楽や回復に向けての看護援助を考える。
４．事例を用いて、対象の全体像を捉え、看護過程を展開し、臨床判断の一部を体験する。
５．医療機器の原理と実際を理解する。

○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験50%　演習・課題50%	終講試験

成績評価基準　：　筆記試験（50%）演習課題（50%）の内容を踏まえ到達度を評価する。学則26条に則り合計60点を合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	健康状態の経過に基づく看護（1）	合同	講義A	髙橋奈津美
2	健康状態の経過に基づく看護（2）	合同	講義A	髙橋奈津美
3	治療・処置を受ける対象への看護（１）	合同	講義A	髙橋奈津美
4	治療・処置を受ける対象への看護（２）	合同	講義A	髙橋奈津美
5	主要な症状を示す対象者への看護（１）	合同	講義A	髙橋奈津美
6	主要な症状を示す対象者への看護（２）	合同	講義A	髙橋奈津美
7	主要な症状を示す対象者への看護（３）	合同	講義A	髙橋奈津美
8	主要な症状を示す対象者への看護（４）	合同	講義A	髙橋奈津美
9	主要な症状を示す対象者への看護（５）	合同	講義A	髙橋奈津美

10	事例の作成（１）	合同	講義A	髙橋奈津美 小林和子
11	事例の作成（２）	合同	講義A	髙橋奈津美 小林和子
12	作成した事例の発表(１)	合同	講義A	髙橋奈津美 小林和子
13	作成した事例の発表(２)	合同	講義A	髙橋奈津美 小林和子
14	医療機器を安全に取り扱うための基礎的知識	合同	合同A	佐々木裕介
15	測定用医療機器・治療用医療機器の原理と実際	合同	合同A	佐々木裕介

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　:この授業は、思考過程の基礎です。課題を遂行して、積極的に演習に臨みましょう。
演習室の入室は、学校規定【学生便覧；学生生活の心得】に則り行動して
ください。

オフィスアワー　:授業日の放課後に受け付ける。

使用するテキスト:香春知永　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論基礎看護学④医学書院
藤崎　郁　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③医学書院
山内豊明フィジカルアセスメンガイド　医学書院
看護過程に沿った対象看護　第5版

参　考　書　:写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス　インターメディカ

教員の実務　:臨床工学士の実務経験を持つ非常勤講師
看護師の実務経験を持つ専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	基礎看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
看護研究の基礎 時間割表記名　看護研究基礎	講義・演習	2年	前期	1	15	土屋守克

講義のねらい:　研究の意義・目的、文献検索、研究デザイン、データ収集、分析から発表まで、研究の一連のプロセスを学習する。後半部では看護分野で多く用いられる質問紙調査を設計、実施し、その結果を発表することで、研究のプロセスを習得する。

到達目標　:
1.研究の意義と目的について説明できる。
2.文献検索し必要な文献情報を入手できる。
3.研究デザインやその方法ついて説明できる。
4.研究計画書の機能・内容や研究倫理について説明できる。
5.論文の構成について説明できる。
6.研究発表におけるプレゼンテーション資料の活用方法が説明できる。

DPとの関連		
	○	1.　看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2.　生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3.　多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4.　地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5.　グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6.　自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題の提出および実施	前期課題提出

成績評価基準　:
到達目標に対する達成度を点数化し、学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	・研究とは ・研究の意義・目的 ・看護研究の歴史 ・リサーチクエスチョンの立て方	合同	講義A	土屋守克
2	・研究計画書の機能と内容 ・研究倫理	合同	講義A	土屋守克
3	・研究デザイン ・データの分析方法	クラス別	演習G (情報処理室)	土屋守克
4	・文献検索の方法 ・データの収集方法 ・質問紙の作成	クラス別	演習G (情報処理室)	土屋守克
5	・論文の構成 ・質問紙調査の計画と実施	クラス別	演習G (情報処理室)	土屋守克
6	・研究成果の伝え方 ・データの集計と分析 ・プレゼンテーション資料の作成	クラス別	演習G (情報処理室)	土屋守克
7		クラス別	演習G (情報処理室)	土屋守克
8	・調査結果の発表	クラス別	講義A	土屋守克

＊授業で取り扱う課題
文献要約、文献検索、統計解析、質問紙作成、発表資料作成、知識期確認課題

受講上の注意点　：	課題は計画的に進めてください。
オフィスアワー　：	授業に関する質問は授業時間内及び授業終了後、WebClassで受け付けます。
使用するテキスト　：	看護研究 Step by Step 医学書院
参　考　書　：	
教員の実務　：	医療機関において看護師として取り組んだ臨床研究の経験を踏まえて、研究をするための基本的知識について教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

（２年 次）

授業科目の区分:　専門分野	地域・在宅看護論	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域・在宅看護援助論Ⅰ 時間割表記名　　在宅援助Ⅰ	講義	2年	前期	1	15	青柳理江 小林成美

講義のねらい: 病院から暮らしの場へ生活を重視した、地域完結型医療へと在宅ケアが推進されている。在宅療養者とその家族の生活を支援するために、”個のケア”について考え、社会資源を活用しながら多職種との連携をおこない生活の場での看護の方法を学習する。

到達目標　:
1．在宅療養に必要な日常生活援助技術の特徴が理解できる
2．在宅療養者の希望と介護者の状況に合わせた援助技術が理解できる
3．日常生活援助のなかでの社会資源の活用方法が理解できる

	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	在宅におけるコミュニケーション ・在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 ・コミュニケーション障害と支援 ・信頼関係を築くためのコミュニケーション ・訪問時のマナー	合同	講義　A	青柳理江
2	在宅療養の場における食生活の特徴 ・食生活・嚥下に関するアセスメント ・食生活・嚥下の援助のポイント　介護者支援 ・低栄養の予防と改善のための多職種連携と方法 ・食に関する社会資源の活用と方法	合同	講義　A	青柳理江
3	在宅療養の場における排泄の特徴 ・排泄(排尿・排便) に関するアセスメント ・便秘の予防と工夫 ・排泄に関する社会資源の活用と方法	合同	講義　A	青柳理江
4	在宅における肢位の保持と移動 ・移動と肢位保持のの重要性 ・移動能力に関わる身体機能のアセスメント ・社会資源の種類と活用方法 生活リハビリテーション ①自立度を改善するための支援 ②介護者支援のポイント 家族への支援と多職種連携	合同	講義　A	青柳理江

5	在宅療養のための生活環境 ・在宅の場と療養者の生活の場の特徴 ・療養生活を送る上での環境整備 ①住宅環境 ②療養者の居室環境 ・療養環境整備に活用できる社会資源	合同	講義　A	青柳理江
6	在宅療養の場における清潔と更衣の特徴 ・清潔に関するアセスメント ①療養者・介護者双方のアセスメント ・在宅における清潔援助のポイント ①療養者の状態・希望に合わせた清潔援助 ②環境に応じた清潔援助の工夫 ③介護支援の方法 ・清潔に関する社会資源の活用と多職種連携	合同	講義　A	青柳理江
7	在宅の場における清潔と更衣の特徴 社会資源活用の実際：訪問入浴介護 事例を用いて考える	クラス別	演習　A	小林成美
8	在宅療養での介護用具の工夫 ・家にある物品を活用して温罨法の実施 地域における多職種連携	クラス別	演習　C	青柳理江

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：　事前に教科書を読んでから講義に参加する

オフィスアワー　：　講義時間以外では、8：30～17：00の間に教務室にて対応します。

使用するテキスト　：　ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術

参　考　書　：　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅱ　医学書院

教員の実務　：　医療機関において看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	地域・在宅看護論	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域・在宅看護援助論Ⅱ 時間割表記名　在宅援助Ⅱ	講義	2年	前期	1	30	小泉清子 長尾典子 青柳理江 小林成美

講義のねらい:　医療依存度の高い療養者の在宅でのケアは、健康状態を的確に判断・評価し、臨床判断・実践能力をもっての対応が求められる。在宅療養生活を継続するためには、療養者・介護者への教育・指導が重要となるため、その方法と看護の役割を学習する。

到達目標　：
1. 施設看護との相違や生活の場での医療処置の方法が理解できる
2. 療養者とその家族に向けた医療処置・管理についての指導方法が理解できる
3. 医療依存度の高い療養者を支援するための多職種連携について学ぶ

DPとの関連		
		1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　：　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	医療処置の背景と支援 ・在宅療養において医療処置が求められる理由 ・医療処置を行う療養者・家族への支援 ・セルフマネジメントの力の維持・向上のための支援	合同	講義　A	小林成美
2	在宅における安全性の確保 ・在宅療養者の安全性を確保するためのリスクマネジメント ・療養上のリスクマネジメント ・在宅における事故の背景要因 医療事故と事故発生時の対応方法 在宅の場での感染防止対策/医療廃棄物の処理の方法	合同	講義　A	小林成美
3	在宅における服薬管理の特徴と支援 ・在宅における薬物療法の意義と目的 ・服薬管理の目的と療養者の特徴 ・服薬で起こりやすい問題と自己管理支援 ・多職種連携と社会資源の活用	合同	講義　A	小林成美
4	在宅経管栄養法の管理・指導 ・経管栄養の目的と種類 ・カテーテルと経腸栄養剤の種類と特徴 ・経管栄養を行っている療養者のアセスメント ・日常生活の管理と療養者・介護者への教育と支援 ・多職種との連携 ・安全管理	合同	講義　A	小林成美

5	在宅中心静脈栄養法の管理・指導 ・在宅中心静脈栄養法の目的と適応 ・在宅中心静脈栄養法を行っている療養者のアセスメント ・用いられる機材と管理方法 ・導入期・維持期の看護 ・合併症の予防と対処方法 ・日常生活の管理と療養者・介護者への教育と支援	合同	講義　　A	小林成美
6	膀胱留置カテーテルの管理・指導 ・膀胱留置カテーテルの目的と療養者の特徴 ・膀胱留置カテーテル挿入の適応 人工肛門、人工膀胱の管理・指導 ・人工肛門,人工膀胱 ・社会資源の活用・調整　多職種連携	合同	講義　　A	小泉清子
7	在宅における呼吸管理 ・呼吸に関するアセスメントと排痰ケアの意義 ・包括的呼吸リハビリテーション ・気管カニューレの管理 ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整・多職種との連携	合同	講義　　A	小林成美
8	在宅酸素療法 ・在宅酸素療法とは ・在宅酸素療法の目的と療養者の特徴 ・健康保険による在宅酸素療法の適応基準 ・在宅酸素実施における管理と注意点 ・合併症の予防と対処方法 ・在宅酸素療法の支援のための多職種連携	合同	講義　　A	小林成美
9 10	非侵襲的陽圧換気療法 ・非侵襲的陽圧換気療法とは（原理・構造） ・非侵襲的陽圧換気療法の適応基準 ・非侵襲的陽圧換気療法の管理と指導 ・非侵襲的陽圧換気療法を用いる療養者への看護（導入期・維持期の看護・緊急時の対応） ・非侵襲的陽圧換気療法の実際 ・在宅酸素療法の実際	合同	講義　　A	小林成美
11	在宅でのCAPD療法 ・腹膜透析の原理・目的と療養者の特徴 ・腹膜透析の種類と適応 ・腹膜透析を受ける療養者の看護 ・腹膜透析における管理と指導　生活支援 ・腹膜透析維持のための多職種連携 ・法的制度と社会資源の活用	合同	講義　　A	長尾典子
12	在宅でのインスリン自己注射管理 ・インスリン自己注射の特徴 ・インスリン自己注射に生じやすいトラブル・対処 ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 ・足病変のケア	合同	講義　　A	青柳理江
13	在宅における足病変のケア ・足病変の目的と対象者 ・足病変のアセスメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用と調整・多職種と連携	合同	講義　　A	青柳理江

14	外来化学療法の目的と対象の特徴 ・副作用発生時のケア、管理のポイント ・多職種連携と療養者・家族への支援	合同	講義　　A	青柳理江
15	在宅における疼痛管理 ・疼痛管理の意義・目的と対象者 ・疼痛管理のアセスメントとリスクマネジメント ・療養者・家族への支援 ・社会資源の活用・調整 ・補完代替療法の活用	合同	講義　　A	青柳理江

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：	事前に教科書を読んでから講義に参加する
オフィスアワー　：	講義時間以外では、8：30～17：00の間に教務室にて対応します。
使用するテキスト　：	ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術 写真でわかる訪問看護　アドバンス　インターメディカ
参　考　書　：	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅱ　医学書院
教員の実務　：	訪問看護ステーションにおいて看護師の実務経験のある非常勤講師 医療機関・企業において看護師の実務経験のある非常勤講師 医療機関において看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	地域・在宅看護論	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域・在宅看護援助論Ⅲ 時間割表記名　在宅援助Ⅲ	講義	2年	後期	1	15	植田千絵 青柳理江 髙橋奈津美 小林成美

講義のねらい:　疾病を持ちながら住み慣れた地域で生活する療養者と家族の実際を知り、対象を取り巻く環境やシステムを学ぶ。
　在宅看護特有のアセスメントや判断力、さらに多職種チームにおける看護師の役割を紙上事例を通して学習する。

到達目標　:　1. 在宅療養者の状況に応じた看護活動の実際を理解できる
2. 事例に必要な情報や知識を調べることができる
3. 支援に必要な制度を検討し、活用方法を説明できる
4. 起こりうるリスクを予測し、予防方法を検討できる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(40%)　　演習　(60%)	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	神経難病の療養者への在宅看護の実際 ・在宅で療養する神経難病の療養者の特徴 ・在宅で療養する神経難病の療養者への看護の提供 身体状況・精神的苦痛の理解と看護 家族介護者の理解と看護支援 神経難病に関する法的制度と社会資源 安全管理と倫理的課題について	合同	講義　A	植田千絵
2	小児の療養者に対する在宅看護の実際 ・在宅で療養する小児と家族の特徴 ・在宅で療養する小児と家族への看護の提供の実際 呼吸管理・栄養管理・排泄管理・安全管理	合同	講義　A	青柳理江
3	在宅で療養する心不全の療養者の特徴(統計含) 在宅で療養する心不全の療養者への看護の提供 ・継続看護の必要性 ・症状の変化への対応 ・療養者・介護者への教育と支援 ・心不全緩和ケア・ACPについて ・社会資源の活用 ・訪問看護師の役割 ・安全管理と倫理的課題	合同	講義　A	小林成美

4	在宅看護過程展開のポイント ・療養者の多様な生活と価値観 ・生活環境や家族への視点 ・時間的な広がりへの着目 ・生活を支える制度・支援体制の理解 在宅看護過程の展開方法 ・情報収集とアセスメント ・目標の設定と計画立案 ・実施と評価	合同	講義　　A	小林成美
5	＜演習＞ 事例を通し在宅看護を考える ・法的制度と社会保障 ・訪問看護制度について ・療養者・家族を支える制度と連携	合同	演習　　A	小林成美 髙橋奈津美 青柳理江
6	＜演習＞ 事例を通し在宅看護を考える 情報整理 療養者の1週間の生活スケジュール 療養者・家族の支援システム	合同	演習　　A	小林成美 髙橋奈津美 青柳理江
7	＜演習＞ 紙上事例の情報整理 療養者の1週間の生活スケジュール 紙上事例の支援システム 多職種連携	合同	演習　　A	小林成美 髙橋奈津美 青柳理江
8	＜演習＞ 紙上事例の情報整理 療養者の1週間の生活スケジュール 紙上事例の支援システム 多職種連携	合同	演習　　A	小林成美 髙橋奈津美 青柳理江

＊授業で取り扱う課題
在宅療養に関連する制度や社会資源
事例と事前学習内容を第5回目の講義で提示

受講上の注意点　：	社会福祉や看護関係法令の講義での知識を活用するので それぞれの教科を復習しておく
オフィスアワー　：	講義時間以外では、8：30～17：00の間に教務室にて対応します。
使用するテキスト　：	ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術 写真でわかる訪問看護　アドバンス　インターメディカ
参　考　書　：	国民衛生の動向　　厚生労働統計協会 わたしたちの介護保険　川越市 系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令　医学書院
教員の実務　：	訪問看護ステーションにおいて看護師の実務経験のある非常勤講師 医療機関において看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	地域・在宅看護論	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
地域・在宅看護援助論Ⅳ 時間割表記名　　在宅援助Ⅳ	講義	2年	後期	1	15	小泉恵子 青柳理江

講義のねらい:　災害対策は、地域で生活する在宅療養者の命を守るだけでなく、家族そして、地域を守るために重要課題である。暮らしの中の(地域住民としての)防災と災害時における自助・共助を理解し、地域における看護活動と看護の役割を学習する

到達目標　:1. 地域における防災・災害対策が必要であることを理解できる
2. 災害サイクルに応じて変化する、在宅療養者に必要な看護が理解できる
3. 災害対策・災害時の対応の中でも、他機関・多職種との連携の必要性が理解できる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	安全な暮らしを守ろう ・過去の災害を振り返る ・災害対策に関わる施策・制度 ・防災、減災を考える（自助）	合同	講義　A	小泉恵子
2	安全な暮らしを守ろう ・災害情報を「正しく」知る ・避難所の違いを知る（どこに避難したらよいか） ・マイタイムラインから災害対策を考える	合同	講義　A	小泉恵子
3	安全な暮らしを守ろう ・地域包括ケアシステムおける災害対策と連携 ・共助および公助における地域の防災	合同	講義　A	小泉恵子
4	在宅療養における災害対策 ・災害要支援者・要配慮者・避難行動要支援者とは ・医療依存度の高い療養者の災害対策 （災害時個別支援計画を含む）	合同	講義　A	小泉恵子
5	訪問看護ステーションにおける災害対策 ・地域との連携 ・福祉機関との連携 ・医療機関との連携	合同	講義　A	青柳理江
6	災害時の対応 ・訪問看護師による災害時の対応 ・災害サイクルと在宅療養者支援 ・災害時に支援が必要となる療養者	合同	講義　A	青柳理江

7	災害時の対応 ・訪問看護師による災害時の対応 ・他機関・多職種との連携 ・チームケア体制　　・介護者への支援	合同	講義　　A	青柳理江
8	災害時の対応 ・生活再建への取り組みと支援制度	合同	講義　　A	小泉恵子

＊授業で取り扱う課題
地域で行われている災害対策について、自分の出身地域について調べる

受講上の注意点　：	事前に教科書を読んでから講義に参加する
オフィスアワー　：	講義時間内,講義終了後に質問を受け付けます。 講義時間以外では、8：30～17：00の間に教務室にて対応します。
使用するテキスト　：	ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術
参　考　書　：	系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅱ　医学書院
教員の実務　：	医療機関において看護師の実務経験のある非常勤講師 医療機関において看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

3. 専門分野

授業科目の区分:専門分野	成人看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅰ 時間割表記名　循環と看護	講義	２年	後期	1	30	中村麻美 小林成美 成塚三恵 菊地衛

講義のねらい:循環機能障害があり、急性期・回復期・慢性期にある対象を理解し、症状別治療処置別看護について学ぶ。また急性期・慢性期にある対象の特徴と主要な理論について理解する。

到達目標　:
1.標準12誘導心電図を測定し、正常波形や主要な異常波形について分かる。
2.成人期で虚血性心疾患にある対象への経過別、症状別、治療処置別看護について理解する。
3.成人期で弁膜症・心不全のある対象への経過別、症状別、治療処置別看護について理解する。
4.成人期で動脈瘤・動脈解離のある対象への急性期、症状別、治療処置別看護について理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：	筆記試験（80%）演習・課題（20%）	終講試験

成績評価基準：

各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り、60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1 2	演習課題：心臓の構造と機能、心筋組織、刺激伝導系体循環・肺循環、心周期・心時相　他 標準12誘導心電図測定と四肢誘導・胸部誘導の理解（単極肢誘導、双極肢誘導、前胸部誘導）	クラス別	演習	C	中村麻美 成塚三恵 小林成美 菊地衛
3	正常心電図：正常値と洞調律 心電図モニター、ホルター心電図、負荷心電図 不整脈の概要	合同	演習	A	中村麻美 成塚三恵 小林成美 菊地衛
4	異常心電図：波形の種類と症状および治療 洞性頻脈・洞性徐脈、心房粗動・細動、心室頻拍・細動 ※期外収縮（講義）	合同	演習	A	中村麻美 成塚三恵 小林成美 菊地衛
5	ケース①：壮年期、急性心筋梗塞 病態・症状アセスメントと看護：意識障害 失神、ショック、胸痛、動悸、チアノーゼ AMI心電図所見、Killip分類	合同	講義	A	小林成美
6	ケース①：治療・処置別看護：経皮的冠状動脈インターベンション（PCI）時の看護、回復期の看護（心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）薬物療法の看護、生活指導	合同	講義	A	小林成美
7	ケース①：治療・処置別看護：冠状動脈バイパス術 手術直後のｱｾｽﾒﾝﾄ（全身状態観察・検査所見） 合併症（低心拍出量症候群、術後出血、心タンポナーデ、末梢循環障害他）、回復期の看護	合同	講義	A	小林成美
8	ケース②：動脈瘤・急性動脈解離 病態・症状アセスメントと看護：疼痛、拍動性腫瘤、血圧・脈拍左右差など。 大動脈解離分類、解離の破裂予防と看護	合同	講義	A	小林成美
9	ケース②：治療・処置別看護：大血管再建術 降圧療法と看護、手術後・合併症のｱｾｽﾒﾝﾄ（体外循環に伴う症状、心タンポナーデ、麻痺、下肢血流障害他）	合同	講義	A	小林成美

10	ケース②：治療・処置別看護：薬物療法、心臓再同期療法、ペースメーカ植え込み時の看護、ペーシングモードと植え込み後の心電図、植え込み後の生活指導	合同	講義	A	小林成美
11	ケース③：壮年期、弁膜症・心不全 病態・症状アセスメントと看護：僧帽弁狭窄症・閉鎖不全、大動脈弁狭窄症・閉鎖不全 プロセスレコード（自己概念）：患者の心理支援	合同	講義	A	小林成美
12	ケース③：酸素化・活動アセスメント 病態・症状アセスメントと看護（左心不全と右心不全、収縮不全と拡張不全、肺水腫、胸水、呼吸困難、肺水腫浮腫、NYHA分類、クリニカルシナリオ分類など	クラス別	演習	A	小林成美
13	ケース③：治療・処置別看護：弁置換術 手術後・合併症のｱｾｽﾒﾝﾄ（ｽﾜﾝｶﾞﾝﾂｶﾃｰﾃﾙの管理、空気塞栓症、循環動態変動、感染性心内膜炎） 回復期の看護、薬物療法の看護、生活指導	合同	講義	A	小林成美
14	ケース③：教材（リーフレット作成） ①心不全と塩分　②心不全と入浴 ③心不全と努責　④心不全と感染	クラス別	演習	A	小林成美
15	ケース③：教材を活用した指導の実践 ①心不全と塩分　②心不全と入浴 ③心不全と努責　④心不全と感染	クラス別	演習	A	小林成美

＊授業で取り扱う課題
生活指導に関連する文献検索および自己学習

受講上の注意点　：	協同学習については学習時間の調整など自己の役割を認識し、協力する姿勢を以って学習に臨んで下さい。
オフィスアワー　：	授業後の休憩時間に質問を受け付けます。 専任教員は放課後も受け付けます。
使用するテキスト　：	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学　循環器　医学書院
参　考　書　：	
教員の実務　：	看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	成人看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅱ 時間割表記名　内栄代と看護	講義	２年	前期	1	30	金子宏美 椛島美雪 成塚三恵

講義のねらい:内分泌・栄養代謝機能障害があり慢性期の経過にある対象を理解し、症状別、治療
処置別看護について学ぶ。また慢性期にある対象の特徴と主な理論について学ぶ。

到達目標
１．成人期で肝炎・肝硬変・肝癌慢性期にある対象への経過別、症状別、治療別看護を理解する。
２．成人期で慢性期の2型糖尿病のある対象への経過別、症状別、治療別看護について理解する。
３．成人期で甲状腺腫瘍の急性期・回復期にある対象への経過別、症状別、治療別看護を理解する。
４．成人期にある対象への身体的、心理的配慮や苦痛を伴う検査・治療時に必要な看護を理解する。
５．内分泌・栄養代謝機能障害のある対象への生活指導を考えた必要な看護がわかる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えて
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：	筆記試験（80%）演習・課題（20%）	終講試験

成績評価基準：
各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り、60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1　方法と場所		担当教員
1	病態の理解ケース①：壮年期、肝炎、肝硬変、肝癌 病態・症状アセスメントと看護：慢性肝炎：全身倦怠感・食欲不振他、肝硬変および肝癌：浮腫・腹水黄疸・クモ状血管腫・手掌紅斑・脾腫・黄疸・全身掻痒・食道静脈瘤他	合同	講義	A	金子宏美
2	治療・処置別看護：慢性肝炎患者の看護 - 肝生検と看護、インターフェロン療法と生活指導、薬物療法と食事療法に関連する看護	合同	講義	A	金子宏美
3	治療・処置別看護：肝硬変・肝癌患者の看護 - 肝動脈塞栓術(TAE)、経皮的エタノール注入療法（PEIT）、食道静脈瘤内視鏡治療(EIS)と看護	合同	講義	A	金子宏美
4	肝癌・慢性期にある対象への看護（セルフマネジメント促進・心理的支援・社会的支援）化学療法の副作用への予防と対処、治療継続するための生活支援	合同	講義	A	金子宏美
5	病態の理解ケース②：壮年期・慢性期の2型糖尿病、病態・症状アセスメントと看護：高血糖：口渇、多飲、多尿他、糖尿病合併症（網膜症、腎症、足病変、大血管障害）	合同	講義	A	金子宏美
6	治療・処置別看護：75g経口ブドウ糖負荷試験、薬物療法とインスリン療法と副作用時の対処 （セルフモニタリング・セルフマネジメント）	合同	講義	A	金子宏美
7	慢性期の看護：心理的支援、患者・家族への教育的アプローチ 食事療法と運動療法への援助	合同	講義	A	金子宏美

8	糖尿病看護の実際：インスリン補充療法・フットケア	合同	講義	A	椛島美雪
9	病態の理解ケース③：青年期：甲状腺腫・甲状腺機能亢進症 病態・症状アセスメントと看護：前頸部腫脹、嚥下時違和感、嗄声 外観の変化	合同	講義	A	成塚三恵
10	治療・処置別看護：抗甲状腺薬、放射性ヨウ素内用療法 甲状腺切除術受ける対象への看護：術前看護（術前OTほか）	合同	講義	A	成塚三恵
11	治療・処置別看護：甲状腺切除術受ける対象への看護 術後合併症の発見と対処(術後出血、反回・喉頭神経麻痺、低Ca血症、乳び漏）甲状腺クリーゼ	合同	講義	A	成塚三恵
12	甲状腺腫摘出後、甲状腺機能低下をきたした患者への看護 甲状腺機能低下症の症状と看護、薬物療法と生活への援助	合同	講義	A	成塚三恵
13	ケース②ロールプレイ：技術教育の実際① 血糖自己測定・インスリン療法・低血糖症状のチェックリスト作成	ｸﾗｽ別	演習	A	金子宏美 中村麻美 成塚三恵
14	ケース②ロールプレイ：技術教育の実際② 血糖自己測定・インスリン療法・低血糖症状の実践	ｸﾗｽ別	演習	C	金子宏美 中村麻美 成塚三恵
15	ケース②ロールプレイ：技術教育の実際③ 血糖自己測定・インスリン療法・低血糖症状の実践	ｸﾗｽ別	演習	C	金子宏美 中村麻美 成塚三恵

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点：　必ず予習をして授業に参加してください。

オフィスアワー　：授業後の休憩時間に質問を受け付けます。専任教員は放課後も受け付けます。

使用するテキスト　：

ＮＩＣＥ　成人看護学　成人看護学技術　南江堂

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器　成人看護学⑤　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　内分泌代謝　成人看護学⑥　医学書院

参考書：高齢者と成人の周手術期看護2－術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版

教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員

大学病院に勤務する認定看護師の非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	成人看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅲ 時間割表記名　消化・吸収と看護	講義	２年	前期	1	30	成塚三恵 小野喜久子 中村悦子

講義のねらい:消化・吸収機能障害があり急性期・回復期・慢性期の経過にある対象を理解し、症状別・治療処置別看護について学ぶ。また回復期・慢性期にある対象の特徴と主な理論について理解する。

到達目標
１．成人期で食道癌の急性期にある対象への経過別、症状別、治療別看護を理解する。
２．成人期で大腸がん・直長癌の急性期にある対象への経過別、症状別、治療別看護を理解する。
３．成人期で胆石症の急性期にある対象への経過別、症状別、治療別看護を理解する。
４．消化・吸収機能障害のある対象へ、生活指導を考えた必要な看護がわかる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：	筆記試験（80%）演習・課題（20%）	終講試験

成績評価基準:

各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り、60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1　方法と場所		担当教員
1	病態の理解ケース①：壮年期、中部食道がん 病態・症状アセスメントと看護：つかえ感・狭窄感、嚥下障害、嗄声など 手術前看護（術前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ他）	合同	講義	A	成塚三恵
2	治療・処置別看護：検査時の看護、大腸内視鏡時の看護（CF）、上部消化管内視鏡時の看護（GIF）、内視鏡的粘膜切除術（EMR）時の看護、内視鏡的粘膜下層切除術（ESD）時の看護	合同	講義	A	※１ 小野喜久子
3	治療・処置別看護：食道切除術、中部食道亜全摘術 手術直後のアセスメント、ドレーン挿入中の看護（胸腔他）、術後合併症の看護と予防（呼吸器合併症、反回神経麻痺、吻合部縫合不全等） 経腸栄養法（腸瘻）	合同	講義	A	成塚三恵
4	回復期の看護：生活再構築への指導と援助、合併症予防と対処(ダンピング症候群・誤嚥性肺炎・吻合部縫合不全)	合同	講義	A	成塚三恵
5	疾患の理解ケース②：壮年期：結腸癌・直腸がん 病態・症状アセスメントと看護：腹部膨満、おくび・むねやけ、貧血下痢、便秘	合同	講義	A	成塚三恵
6	治療・処置別看護：腹腔鏡下結腸切除術を受ける対象への看護 造影検査時の看護、手術前看護（術前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝと術前処置）	合同	講義	A	成塚三恵
7	治療・処置別看護：腹腔鏡下結腸切除術を受ける対象への看護 手術直後のアセスメント、合併症(腸閉塞、吻合部縫合不全、排泄障害) 予防と対処、生活再構築への指導と援助	合同	講義	A	成塚三恵
8	治療・処置別看護：ストーマ造設する対象への看護－腹会陰式直腸切断術他 ボディイメージ変容への心理的支援、ストーママーキング、ストーマ合併症予防と対処及びストーマ管理、生活支援	合同	講義	A	※２ 中村悦子

9	病態の理解ケース③：壮年期：胆石症 病態・症状アセスメントと看護：疼痛発作時の看護、発熱、閉塞性黄疸 吐気・嘔吐時の看護	合同	講義	A	成塚三恵
10	治療・処置別看護：急性胆嚢炎・胆管炎発症における緊急時の看護 ショックの異常発見、内科的治療（ENBD、PTCD）時の看護	合同	講義	A	成塚三恵
11	治療・処置別看護：腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける対象への看護 手術前・手術後看護、生活再構築への指導（食事療法）	合同	講義	A	成塚三恵
12	ケース①：協同でGoogleスライドを活用して下記の教材を作成する。 ①再建法に伴う術前・術後の臓器の構造と機能の変化 ②ダンピング症候群が生じるメカニズム（早期・後期ダンピング症候群） ③症状の出現と対処方法および予防 ④栄養状態の指標と評価	クラス別	演習	A	成塚三恵 中村麻美
13		クラス別	演習	A	成塚三恵 中村麻美
14	グループ発表とリフレクション 教材作成における留意点	クラス別	演習	A	成塚三恵 中村麻美
15	まとめ：消化器機能障害における対象の特徴とセルフマネジメントを促進する看護のあり方について	クラス別	演習	A	成塚三恵 中村麻美

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点：グループワークには、各個人で調べ学習をして参加すること。

オフィスアワー　：授業後の休憩時間に質問を受け付けます。専任教員は放課後も受け付けます。

使用するテキスト　：

ＮＩＣＥ　成人看護学　成人看護学技術　南江堂

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　消化器　成人看護学⑤　医学書院

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　　医学書院

参考書：高齢者と成人の周手術期看護2－術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版

快適！ストーマ生活　日常のお手入れから旅行まで　　医学書院

教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員

※１大学病院で看護師として勤務する非常勤講師

※２大学病院でWOC認定看護師として勤務する非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	成人看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
援助論Ⅳ 時間割表記名　脳神経と看護	講義	２年	通年	1	30	中村麻美 成塚三恵 熊倉美知子

講義のねらい:
脳神経機能障害で急激に生命を脅かす重度の侵襲にさいなまれた患者に対しての治療処置別看護について学ぶ。またクリティカルな状態から回復・慢性期の経過をたどる対象について発達課題・機能障害・症状・治療処置別に理解し、看護展開(臨床判断含む)する思考を養う。

到達目標
１．成人期で脳腫瘍（聴神経腫瘍）の対象への急性・回復期、症状別、治療処置別看護について理解する。
２．成人期で脳梗塞の対象への急性期、症状別、治療処置別看護について理解する。
３．成人期で脳出血の対象への経過別、症状別、治療処置別看護について看護過程を展開し理解する。
４．クリティカルケア看護の実際を認定看護師による講義から理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：	筆記試験（50%）演習・課題（50%）	終講試験

成績評価基準:
各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り、60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1　方法と場所		担当教員
1	ケース①　青年期　脳腫瘍（聴神経腫瘍）女性 病態・症状アセスメントと看護：聴力障害（突発性難聴・耳鳴り）、前庭神経症状（めまい・ふらつき）顔面神経麻痺・三叉神経症状（顔面の感覚障害)歩行障害	合同	講義	A	中村麻美
2	治療処置別看護：開頭腫瘍摘出術 手術直後のアセスメント（術後出血・脳浮腫・けいれん・感染）合併症（顔面神経麻痺 閉眼障害）	合同	講義	A	中村麻美
3	ケース②　壮年期　脳梗塞（急性期・回復期）男性 病態・症状アセスメントと看護：高次脳機能障害、言語障害・運動機能障害の看護	合同	講義	A	中村麻美
4	治療処置別看護： 外科的治療：血管バイパス術・頸動脈内膜剥離術・ステント留置術　減圧開頭術	合同	講義	A	中村麻美
5	リハビリテーション看護： 聴神経・脳梗塞事例に関するリハビリテーション看護 嚥下リハビリテーション看護	合同	講義	A	中村麻美
6	ケース③　壮年期　脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血　男性 治療処置別看護： 開頭クリッピング術、脳室ドレナージ術、脳室-腹腔シャント術看護	合同	講義	A	中村麻美
7	クリティカルケア ①脳神経機能障害の程度とアセスメント：生命維持活動調節機能障害、運動・感覚機能障害、言語機能障害、高次機能障害 ②検査を受ける対象への看護：脳波検査、髄液検査、脳血管造影 ③治療・処置を受ける対象への看護：意識レベル、神経学的所見ショック症状	合同	講義	A	熊倉美知子

8	事例についての情報収集 行動のアセスメント（酸素化・神経・防御・活動） ①酸素化（血圧コントロール・脳血管攣縮・呼吸異常） ②神経　（神経学的所見・意識レベル・頭蓋内圧亢進症状、髄液検査・脳血管造影所見） ③防御　（脳室ドレナージの管理・髄膜炎） ④活動　（運動麻痺）	合同	講義 演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
9	8回と同様	合同	講義 演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
10	8回と同様	合同	講義 演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
11	行動のアセスメント 自己概念・役割機能・相互依存 発達課題（青年期） 機能障害(障害受容過程)	合同	講義 演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
12	11回と同様	合同	講義 演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
13	くも膜下出血術後の観察： 術後異常の早期発見と観察項目内容の検討	ｸﾗｽ別	演習	A	中村麻美 成塚三恵 他
14	くも膜下出血術後の観察：基本技術① 瞳孔観察・意識レベルの観察（JCS/GCS） 脳室ドレーンの管理	ｸﾗｽ別	演習	C	中村麻美 成塚三恵 他
15	くも膜下出血術後の観察：臨床判断 基本技術を用いて、観察した内容から生じている状況を判断する	合同	講義 演習	C	中村麻美 成塚三恵 他

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点：　必ず予習をして授業に参加してください。

オフィスアワー　：授業後の休憩時間に質問を受け付けます。専任教員は放課後も受け付けます。

使用するテキスト　クリティカルケア看護学　医学書院
脳・神経　医学書院

参　考　書　：　写真でわかる　臨床看護技術②アドバンス　　インターメディカ
高齢者と成人の周手術期看護2－術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版
看護学テキスト　成人看護学概論　南江堂
ＮＩＣＥ　成人看護学　成人看護学技術　南江堂

教員の実務　：　大学病院でクリティカルケアの実務経験がある認定看護師の非常勤講師
看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	老年看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
老年看護援助論Ⅰ 時間割表記名　老年援助Ⅰ	講義	２年	前期	1	30	外部講師 (中村悦子 那須大介 中里里沙) 岩澤浩江 菊池　衛

講義のねらい:
加齢による身体的・精神的・社会的変化に伴う日常生活を支える援助の必要性を理解し、適切な援助方法について学習する。

到達目標:
１．高齢者体験を通して得られた学びについて発表会を通して共有し、高齢者の日常生活上の問題や加齢変化について述べる。
２．高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションのとり方について述べる。
３．食事の意義や影響を与える要因、食事摂取における評価、異常時の対応について捉え、摂食・嚥下機能に合わせた援助ができる。
４．加齢に伴う排泄機能の変化や排泄障害、援助方法を捉え、事例や演習を通してアセスメントや排泄援助ができる。
５．加齢に伴う睡眠の特徴や影響を及ぼす要因を捉え、アセスメントの実際について事例を通して理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	レポート(5%)　演習課題(15%)　筆記試験(80%)	終講試験

成績評価基準　：
授業課題の提出と内容、毎回の感想、レポート課題、終講試験とあわせて総合的に評価する

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1 2	高齢者体験① 高齢者体験スーツを着用し、日常生活の一部を疑似体験することで得られた学びや気づき、高齢者が抱く日常生活における課題や問題点についてグループ毎に共有する	クラス別	演習　A, C, E, F, G (構内食堂、コンビニな	岩澤浩江 菊池 衛
3	高齢者体験② 高齢者体験で得られた学びや気づきを考察したことを発表し、学びの共有と評価を行う	クラス別	演習　A	岩澤浩江 菊池 衛
4	高齢者とのコミュニケーションに影響を与える要因や 留意点	合同	講義　A	菊池 衛
5	高齢者の心身のアセスメントの留意点と高齢者総合機能 評価(CGA)を使用したアセスメント	合同	講義　A	菊池 衛
6	高齢者の食べる事の意義と必要な栄養や食事に影響を 及ぼす要因	合同	講義　A	菊池 衛
7	高齢者の口腔機能低下症（オーラルフレイル）、口腔ケアの実際、義歯の取り扱い	合同	講義　A	那須大介

8	加齢に伴う排尿・排便機能の変化と排泄障害のアセス メントと援助方法	合同	講義　A	菊池 衛
9	紙おむつの機能や種類、選択方法と安全で安楽な装着 方法を体験する	クラス別	演習　C	外部講師
10	加齢に伴う睡眠の特徴と日常生活に及ぼす影響と要因	合同	講義　A	菊池 衛
11	加齢に伴う活動と余暇の特徴と日常生活や社会参加に 及ぼす影響と要因	合同	講義　A	菊池 衛
12	ロコモティブシンドロームの概念や加齢に伴う転倒・ 転落の要因と予防方法や評価	合同	講義　A	菊池 衛
13	老年期における皮膚の特徴、皮膚に影響を及ぼす要因。 スキンケアの概要とスキンケアの実際。	合同	講義　A	中村悦子
14	転倒・転落リスクのある高齢者の事例① －シミュレーターを用いた情報収集とアセスメント－	クラス別	演習　C	中里里沙 菊池 衛 岩澤浩江
15	転倒・転落リスクのある高齢者の事例② －ロールプレイによる援助の実施と評価・修正－	クラス別	演習　C	中里里沙 菊池 衛 岩澤浩江

＊授業で取り扱う課題
Webclass上に提示する。

受講上の注意点　：　①概論で学んだ加齢変化をふまえた上で、日常生活援助の実際について学習
　するため、既習内容を確認できるように必要に応じて、ノートや関連資料
　を持参し、受講してください。
②演習後のレポート課題や事前課題の提出は厳守してください。
③グループワークの際にはメンバーと協力し積極的に参加してください。
④下記の教科書を持参し、受講してください。

オフィスアワー　：　授業の前後に教室で相談を受ける。

使用するテキスト　：
ナーシング・グラフィカ　老年看護学①高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践　メディカ出版

参　考　書　：　学習内容に合わせて適宜紹介する。

教員の実務　：
看護師の実務経験のある専任教員
医師の実務経験がある非常勤講師
看護師の実務経験を持つ非常勤講師
介護士の実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	老年看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
老年看護援助論Ⅱ 時間割表記名　老年援助Ⅱ	講義	２年	通年	1	30	飯渕　顕 菅井奏良 田中　是 阿部ふみ 山根　望 岩澤浩江 菊池　衛

講義のねらい:様々な健康レベルにある高齢者を理解し、健康レベルに応じた生活の支援や症状に伴う看護、診断・治療過程における援助方法について学習する。

到達目標　:1.老年症候群とその看護について述べる。
2.薬物療法を必要とする高齢者のストレングスと問題がわかり、服薬指導を考える。
3.褥瘡の概要や具体的なケア方法、アセスメントの実際について事例を通して理解する。
4.加齢に伴い生じやすい疾患を理解し看護について考える。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	演習課題(30%)　筆記試験(70%)	終講試験

成績評価基準　:
授業課題の提出と内容、後期試験とあわせて60点以上を合格とする。
ただし、私的な理由で演習に出席しない者には、単位を認めないこととする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	老年症候群① 急性疾患について（意識障害、せん妄）	合同	講義	A	菊池 衛
2	老年症候群② 急性・慢性・ADL低下に付随する症候 （個人ワークをもとにしたグループワーク）	合同	GW	A	菊池 衛
3	老年症候群③ 急性・慢性・ADL低下に付随する症候 （合併グループでのワーク・発表準備）	合同	GW	A	菊池 衛
4	老年症候群④ 急性・慢性・ADL低下に付随する症候 （グループワークの発表会）	合同	GW	A	菊池 衛
5	加齢による視覚障害（病態と要因、治療）	合同	講義	A	飯渕 顕
6	加齢による聴覚障害（病態と要因、治療）	合同	講義	A	田中 是
7	加齢による皮膚障害（病態と要因、治療）	合同	講義	A	菅井奏良
8	褥瘡とは 褥瘡発生予測のアセスメント 褥瘡の発生予防	合同	講義	A	阿部ふみ

9	褥瘡のアセスメント 創傷管理の基本 褥瘡ケアの実際 症例から学ぶ創傷管理	合同	講義　A	阿部ふみ
10	高齢者と薬 （加齢に伴う薬物動態の変化、ポリファーマシーの問題、服薬管理能力のアセスメント、服薬支援）	合同	講義　A	菊池 衛
11	高齢者のリハビリテーション （高齢者におけるリハビリテーションとは、内部障害・廃用性疾患のリハビリテーション）	合同	講義　A	菊池 衛
12	高齢者の感染症 （高齢者の感染症の特徴、感染症の予防策）	合同	講義　A	菊池 衛
13	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 （実習初日の情報収集）	クラス別	演習室　C	山根 望 岩澤浩江 菊池 衛
14	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 （アセスメント、看護計画の立案）	クラス別	演習室　C	山根 望 岩澤浩江 菊池 衛
15	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 （援助の実践・評価）	クラス別	演習室　C	山根 望 岩澤浩江 菊池 衛

＊授業で取り扱う課題
Webclass上に提示する。

受講上の注意点　：　自己学習を進め授業は積極的に参加しましょう。

オフィスアワー　：　授業の前後に教室で相談を受ける。

使用するテキスト　：
ナーシング・グラフィカ　老年看護学①高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践　メディカ出版

参　考　書　：　学習内容に合わせて適宜紹介する。

教員の実務　：
看護師の実務経験のある専任教員
医師の実務経験がある非常勤講師
看護師の実務経験がある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	老年看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
老年看護援助論Ⅲ 時間割表記名　老年援助Ⅲ	講義	２年	通年	1	30	中嶋正子 徳重民子 入江さゆり 佐々木政子 大友　晋 菅原　舞 小林和子 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池　衛

講義のねらい:多様な生活の場で暮らし、治療や療養する高齢者の生活を支える看護について学ぶ

到達目標　:1.高齢者の住まいについて、介護保険施設を中心に理解する。
2.認知症の基礎知識やアセスメント方法・ケアの視点、認知症高齢者への援助について考える。
3.疾病をもって入院しているあるいは外来通院へと移行する高齢者の全体像を理解し、看護介入を立案し、ロールプレイで実践し、評価・修正・追加という一連の看護過程が展開できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	レポート(10%)　看護過程演習(40%)　筆記試験(50%)	終講試験

成績評価基準　:
授業課題の提出と内容、後期試験とあわせて60点以上を合格とする。
ただし、私的な理由で演習に参加せず成果物が未提出の者には、単位を認めないこととする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	入院に伴う生活変化、ＯＴ、リスク、環境 退院を取り巻く社会状況、自宅退院が困難な場合 高齢者が使用できる各種サービス	合同	講義　A	中嶋正子
2	認知症サポーター講習	合同	講義　A	徳重民子 入江さゆり 佐々木政子
3	フィールドワーク(学びの発表 近隣にあるオレンジカフェに出向き利用者との関わりを通した学びの発表会	クラス別	GW　A	小林和子 菊池 衛
4	認知症の基礎知識 ・認知症を生じる疾患と症状（中核症状・ＢＰＳＤ） ・認知症に関連するヘルスケアの課題	合同	講義　A	大友 晋
5	認知症のアセスメント ・パーソンセンタードケア、ストレングスモデル、エンパワーメント、ライフレビュー、コンフォート理論ほか) ・認知症のアセスメントのポイント ・認知症高齢者の日常生活援助。非薬物療法	合同	講義　A	大友 晋
6	認知症高齢者のケア、家族支援、社会資源 ・認知症ケアの実際 ・国の政策 ・家族支援の実際 ・認知症予防 ・身体拘束、認知症と倫理的問題	合同	講義　A	大友 晋

7	認知症ケアのポイント① ・認知症高齢者の事例を基にした看護過程の展開	合同	講義　　A	大友 晋 小林和子 菊池 衛
8	認知症ケアのポイント② ・認知症高齢者の事例を基にしたロールプレイの実践 （コミュニケーション時の自分の傾向を知る）	合同	講義　　A	大友 晋 小林和子 菊池 衛
9	施設で生活する高齢者 その人らしい生活を過ごすために	合同	講義　　A	外部講師
10	施設で生活する高齢者の看護 看護師の役割を中心に	合同	講義　　A	外部講師
11	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 慢性腎不全で透析を受ける高齢者の事例① ⇒シミュレーターを用いた情報収集 ※援助論Ⅱで学習した疾患の中から毎年事例を変える	クラス別	演習　　C	菅原 舞 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池 衛
12	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 慢性腎不全で透析を受ける高齢者の事例② ⇒アセスメント（行動・刺激のアセスメント）の 統合刺激の抽出	クラス別	演習　　C	菅原 舞 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池 衛
13	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 慢性腎不全で透析を受ける高齢者の事例③ ⇒関連図の統合	クラス別	演習　　C	菅原 舞 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池 衛
14	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 慢性腎不全で透析を受ける高齢者の事例④ ⇒介入計画の統合	クラス別	演習　　C	菅原 舞 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池 衛
15	高齢者に特徴的な疾患・症状を支える看護 慢性腎不全で透析を受ける高齢者の事例⑤ ⇒介入計画の実施、ＳＯＡＰの記録	クラス別	演習　　C	菅原 舞 高嶋真紀 髙橋奈津美 菊池 衛

＊授業で取り扱う課題
Webclass上に提示する。

受講上の注意点　：　看護過程演習は毎回実習着で参加のこと。
毎回指定期日までに課題を提出後、講義に出席しましょう。

オフィスアワー　：　授業の前後に教室で相談を受ける。

使用するテキスト　：
ナーシング・グラフィカ　老年看護学①高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践　メディカ出版

参　考　書　：　学習内容に合わせて適宜紹介する。

教員の実務　：　認知症キャラバンメイトの実務経験のある非常勤講師
看護師の実務経験のある専任教員
社会福祉士の実務経験がある非常勤講師
看護師の実務経験がある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野			精神看護学			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
精神看護学援助論Ⅱ 時間割表記名　　精神援助Ⅱ	講義	２年	前期	1	30	神澤尚利 大賀公子 菊地嘉通 島﨑　賢 原島健太 井上紀子
講義のねらい:　精神看護の対象を共感的・客観的に捉え、レジリエンス・ストレングスに着目した援助のための知識や方法を学習する。						
到達目標　: １．精神疾患について客観的に考える思考を養う。 ２．精神疾患の回復過程に必要な環境や医療者のかかわり方を理解する。 ３．精神科における特徴的な治療・看護を学び、根拠を持ったケアを考える。 ４．対象のレジリエンス・ストレングスが見いだせる思考力を身につける。 ５．精神疾患とともに生きることを支援する社会資源の活用方法を理解す						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験(井上50%、神澤30%、原島20%)	終講試験
成績評価基準　: 筆記試験で60点以上を合格とする		

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	精神看護におけるケアとなる人間関係 関係性を理解することの重要性とプロセスレコード	合同	講義	A	井上紀子
2	看護師の感情労働とメンタルヘルス 自己理解と看護師のレジリエンスの重要性	合同	講義	A	井上紀子
3	精神疾患の回復を助ける① 精神疾患の回復過程とエンパワメント	合同	講義	A	神澤尚利
4	精神疾患の回復を助ける② 入院治療の目的と治療的環境	合同	講義	A	神澤尚利
5	精神科病棟における安全を守る看護 リスクマネジメントと緊急事態への対処	合同	講義	A	神澤尚利
6	精神科看護における特徴的な看護 受け入れがたい患者の行動と回復を促進する看護	合同	講義	A	神澤尚利
7	精神科訪問看護の実際 ―精神科訪問看護ステーションにおける取り組み―	合同	講義	A	菊地嘉通
8	入院している患者の観察とアセスメント	合同	講義	A	原島健太
9	退院に向けたケアの方向性と多職種連携	合同	講義	A	原島健太
10	集団精神療法・作業療法の目的と効果	合同	講義	A	原島健太
11	患者―看護師関係のアセスメント① 精神看護のアセスメントに用いられる看護理論	合同	講義・演習	A	井上紀子
12	患者―看護師関係のアセスメント② 精神看護のアセスメントに用いられる看護理論	合同	講義・演習	A	井上紀子
13	地域における精神看護の実際 精神疾患とともに生きる方の思い	合同	演習	A	菊地嘉通

14	地域における精神保健と精神看護 退院時の支援と多職種連携の実際	合同	講義　　A	島﨑　賢
15	精神科リエゾンチームの実際 埼玉医科大学におけるリエゾンチーム活動の実際	合同	講義　　A	大賀公子

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

配布された資料は、精神看護学援助論Ⅲや実習時に活用できるように保存しましょう。

アセスメントの2コマは精神看護学援助論Ⅲの授業のための内容です。欠席しないでください。

オフィスアワー　：
授業終了後適宜行います。

使用するテキスト　：
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院

参　考　書　：

教員の実務　：
精神科病棟での実務経験がある教員と非常勤講師が担当し、精神に障がいがある対象の回復に必要な考え方と支援方法について教授する。現任のリエゾン専門看護師である非常勤講師の経験を踏まえて、退院支援やリエゾン活動の実際を教授する。精神科訪問看護ステーションを運営する非常勤講師の経験を踏まえて、地域における精神科看護活動の実際を教授する。これらによって、精神に障がいをもつ対象の支援における多職種連携の重要性が理解できるように教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野			精神看護学			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
精神看護学援助論Ⅲ 時間割表記名　精神援助Ⅲ	講義	２年	後期	1	15	井上紀子 金子宏美
講義のねらい:さまざまな精神疾患の事例を用いてアセスメントを学ぶことで、精神疾患における対症看護を学ぶ。精神疾患をもつ対象を理解するために必要な知識と技術を学び、精神科看護師の思考過程を理解する力を養う。						
到達目標　: １．精神疾患の治療・看護の知識を統合し、患者の心理・背景について記述できる。 ２．生活背景やレジリエンス・ストレングスについて具体的・客観的に考えた内容 　を表現できる。 ３．日常生活におけるストレスと対処について考え、自己と対象の違いや共通性に 　ついて表現する。 ４．精神科看護師のコミュニケーションとケアとなる対人関係スキルを意識した技						

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験(20%) 、記録用紙の記述(70%) グループワーク (10%)	終講試験

成績評価基準　:　記録用紙の記述、事前学習、筆記試験、グループワークで60点以上を合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所		担当教員
1	精神疾患をもつ対象のアセスメント① 統合失調症のアセスメントとケア	合同	講義 GW	A	井上 金子
2	精神疾患をもつ対象のアセスメント② 双極性障害のアセスメントとケア	合同	講義 GW	A	井上 金子
3	精神疾患をもつ対象のアセスメント③ 摂食障害のアセスメントとケア	合同	講義 GW	A	井上 金子
4	精神疾患をもつ対象のアセスメント④ アルコール依存症のアセスメントとケア	合同	講義 GW	A	井上 金子
5	ロールプレイにむけたケアの方向性	合同	講義 GW	A	井上 金子
6	精神疾患をもつ対象とのかかわり方 ＜ロールプレイ演習①＞ コミュニケーションスキルの課題を明確にする	クラス別	演習	B	井上 金子
7	精神疾患をもつ対象とのかかわり方 ＜ロールプレイ演習②＞ 退院支援につながる援助的コミュニケーション	クラス別	演習	B	井上 金子
8	演習のまとめ 援助的コミュニケーションと思考過程のつながり	合同	講義 GW	A	井上 金子

＊授業で取り扱う課題 授業開始時に、各種記録用紙の提出日を表記した資料を配布します。
受講上の注意点　： 授業中は積極的に教員に質問し、自らの疑問や不安の解消行動がとれるように努力してください。
オフィスアワー　： 授業終了後適宜行います。
使用するテキスト　： 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院
参　考　書　： 領域別　看護過程展開ガイド　実習記録の書き方がわかる　照林社　2015
教員の実務　： 精神科病棟での看護師の経験を踏まえて、精神科看護における対症看護のための看護師の考え方や役割を教授する。紙上事例の内容は、臨床経験だけでなく国家試験対策となる内容で作成し、根拠に基づいた精神科看護を教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	小児看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
小児看護学援助論Ⅰ 時間割表記名　小児援助1	講義	2年	前期	1	30	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄

講義のねらい:
小児各期における身体的・精神的・社会的側面を理解する。子どもの健康増進の看護として小児の成長・発達過程を理解し、健全な成長発達を促すための援助方法を理解する。小児各期のライフステージの知識を基本とし、日常生活の理解と援助方法を学習し小児期の成長・発達の理解を深める。

到達目標　:
１．小児期にある各期の成長・発達のがわかる。
２．小児各期の子どもと家族への援助について理解する
３．小児の日常生活を理解する
４．小児各期の日常生活援助と家族への看護を理解する
５．子どもの意義、遊びの発達について理解し、対象年齢に応じたおもちゃの作成から学びを深める

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題・演習・フィールドワーク（20%）筆記試験（80%）	終講試験

成績評価基準　:　試験内容 各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し学則第26条に則り60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	成長発達の原則	合同	講義　A	山野　歩
2	援助関係を形成する技術	合同	講義　A	山野　歩
3	子どもの成長発達と看護：乳児期①	合同	講義　A	山野　歩
4	子どもの成長発達と看護：乳児期②	合同	講義　A	山野　歩
5	子どもの成長発達と看護：幼児期①	合同	講義　A	山野　歩
6	子どもの成長発達と看護：幼児期②	合同	講義　A	山野　歩
7	遊びと安全	合同	講義　A	山野　歩
8	おもちゃ作成	クラス別	GW　A	山野　歩
9	おもちゃ発表	クラス別	演習　A	山野　歩
10	日常生活援助の実際	グループ	体験　フィールドワーク	山野　歩
11	日常生活援助の実際	グループ	体験　フィールドワーク	山野　歩
12	発達課題に応じたプレパレーション①	クラス別	GW　A	青柳 理江 山﨑 幸栄
13	発達課題に応じたプレパレーション②	クラス別	演習　A	青柳 理江 山﨑 幸栄

14	子どもの成長発達と看護：学童期	合同	講義　　A	山野　歩
15	子どもの成長発達と看護：思春期	合同	講義　　A	山野　歩

＊授業で取り扱う課題
小児援助論Ⅰでは、子どもの成長・発達段階を理解し、子どもの健康増進を図るためにはどのような視点で子どもを観察すれば良いのかを学ぶ。また、発達段階による子どもと家族への支援では子どもの発達課題における特徴とその家族への援助について学ぶ。学生一人ひとりが子どものに興味関心を持ち。グループメンバーと協力し合い、その対象に合ったおもちゃの作成発表を目指す。これらの学びが、小児看護学実習だけでなく、小児看護の趣旨である「子どもの最善の利益をまもること」「家族を含めた看護」family centered care FCC へと学びを深め小児看護を育んでいく。

受講上の注意点　：　小児看護概論で学んだ小児を取り巻く社会と影響を踏まえ、子どもが成育していく過程と発達課題について学ぶ。

オフィスアワー　：　授業日に関わらず。休憩時間、放課後等,随時受け付ける。

使用するテキスト　：

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院

小児看護技術　　第3版　　メジカルフレンド社

参　考　書　：　小児看護学まとめドリル　SENKOUSHA

教員の実務　：　看護師として小児領域での実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	小児看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
小児看護学援助論Ⅱ 時間割表記名　小児援助2	講義	2年	前期	1	15	側島久典 谷川祥陽 内田悠太 小林信吾 長田浩平 森脇浩一 水田桂子 小髙明雄

講義のねらい:
小児に多い疾患及び小児各期特有の疾患の病態、診断、検査、治療、を学習し看護を実践するために必要な知識を学習する。

到達目標　:
1.先天性、遺伝性疾患をはじめ成長途上にある小児の疾患について、基礎的臨床医学知識を習得する。
2.内科疾患のみならず、外科あるいは関連各科も含め小児特有の疾患を理解する。
3.小児科は臓器別診療科ではなく、小児をトータルで診る総合診療科であることを理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
		3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（100%）	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	新生児の疾患をはじめ、遺伝性疾患・染色体異常について学び、子どもの成長・発達やその家族に応じた看護を考えることが出来る	合同	講義　A	側島久典
2	小児期に起こる代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー・膠原病について学び、成長・過程にある子どもの特徴と生涯にわたる家族の影響を学ぶ	合同	講義　A	谷川祥陽
3	小児期の免疫獲得の特徴と感染症の性差、各病態変化について理解する	合同	講義　A	内田悠太
4	小児期の呼吸器疾患、循環器疾患について学び、生命を脅かされる治療や、長期入院が子どもやその家族に及ぼす影響を踏まえ、将来を見据えた看護を考えることができる	合同	講義　A	小林信吾
5	腎・泌尿器疾患の急性期と慢性期の病態生理を理解し、成長発達段階に応じた看護を考えることが出来る。消化器疾患では栄養障害に留まらず、摂食行動や排泄行動といった子どもの日常生活行動に直結し、機能障害が及ぼす影響について学ぶ	合同	講義　A	長田浩平
6	血液・腫瘍疾患について学び、それぞれの疾患の病態生理、生じるうる症状の特徴に関する知識を備えることができる	合同	講義　A	森脇浩一
7	神経・筋・精神疾患では、脳神経学的な症状・経過・身体症状を学ぶ。子どもの運動器疾患では先天性だけでなく、成長・発達過程に及ぼす影響を理解し、最小限化に努めるための看護を考えることが出	合同	講義　A	水田桂子
8	小児期における外科疾患を学び、患児とその家族へ看護を展開するための事項を学ぶ	合同	講義　A	小髙明雄

受講上の注意点　:　事前に教科書を読んでから講義に参加する

オフィスアワー　:　講義終了後、質問を受け付けます

使用するテキスト　：	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院
参　考　書　：	目でみる小児救急　文光堂 鴨下重彦監修：子どもの病気の地図帳、講談社
教員の実務　：	医師として実務経験のある新生児・小児領域専門医の非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	小児看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
小児看護学援助論Ⅲ 時間割表記名　小児援助3	講義	2年	後期	1	30	齋藤 友美 是松 聖悟 小﨑 妙子 山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄

講義のねらい:
子育て期の子どもと家族、また、健康障害や健康問題をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階やあらゆる健康レベル、子どもと家族が置かれているさまざまな状況に合わせた援助を実践するために、親子の療養行動やセルフケア能力を促進する援助、子どものストレス緩和の援助、患児の検査・処置に伴う援助、患児のきょうだいへの援助について学習する。

到達目標　:
1.子どもと家族をとりまく問題の現状・背景・対策・支援・看護の役割について説明できる。
2.病気や入院が子どものとその家族に与える影響とその看護について説明できる。
3.小児期に特有の健康障害を病気別にとらえ、各病気にある子どもとその家族への看護の特徴を説明ができる。
4.事例展開、演習を通して子どもとその家族に必要な看護過程の展開ができる。
5.シミュレーション演習とおして、患児の情報を得るためのフィジカルイグザミネーションや、子どもと親へのコミュニケーション技術を実践することが出来る。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験（60%）看護過程・演習・課題（40%）	終講試験

成績評価基準　:　授業課題の提出と内容、後期試験とあわせて60点以上を合格とする。
ただし、私的な理由で演習に参加せず成果物が未提出の者には、
単位を認めないこととする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	急性期にある子どもと家族への看護①発熱・脱水・痙攣・呼吸困難・痛み	合同	講義　A	山﨑 幸栄
2	病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護	合同	講義　A	是松 聖悟
3	急性期にある子どもと家族への看護②検査や処置、フィジカルアセスメントに必要な技術	合同	講義　A	山﨑 幸栄
4	急性期にある子どもと家族への看護③出生直後から集中治療が必要な子どもと家族	合同	講義　A	山﨑 幸栄
5	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護①アトピー性皮膚炎・気管支喘息②川崎病	合同	講義　A	山﨑 幸栄
6	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護③ネフローゼ症候群・腎疾患④先天性（心）疾患⑤医療的ケアを必要とする子ども⑥成人移行	合同	講義　A	山﨑 幸栄
7	救急時と集中治療を受ける子ども・家族の看護	合同	講義　A	齋藤 友美
8	事例情報の整理と分類、行動とアセスメント視点 症例別に情報の整理と行動別アセスメントを共有し、学習を深める	クラス別	GW 演習　A	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄
9	グループ内での情報分類・整理・行動のアセスメント	クラス別	GW 演習　A・B	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄

10	グループ内での情報分類・整理・行動のアセスメント	クラス別	GW 演習　A・B	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄
11	グループ内での情報分類・整理・行動のアセスメント	クラス別	GW 演習　A・B	山野　歩 青柳理江 山﨑幸栄
12 13	各グループで、看護計画に基づいた看護実践の発表	クラス別	GW 演習　A	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄
		クラス別	GW 演習　A	
14 15	シミュレーション演習①	クラス別	演習　C	山野　歩 青柳 理江 山﨑 幸栄 小﨑 妙子
	シミュレーション演習②	クラス別	演習　C	

＊授業で取り扱う課題
一人の人として子どものを理解し、子どもの権利尊重しながら援助関係を形成できることを目的としている。根拠に基づく看護を子どもの発達段階や健康問題に応じて、倫理的配慮をおこないながら安全・安楽に実践する実践能力を獲得する。

受講上の注意点　：　小児看護学,小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱの復習

オフィスアワー　：　授業日に関わらず。休憩時間、放課後等,随時受け付ける。

使用するテキスト　：

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　医学書院

小児看護技術　　第3版　　メジカルフレンド社

参　考　書　：

小児看護技術　　第3版　　メジカルフレンド社

目でみる小児救急　文光堂

鴨下重彦監修：子どもの病気の地図帳、講談社、2002

教員の実務　：　看護師として小児領域での実務経験のある非常勤講師
看護師として小児領域での実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	母性看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
母性看護援助論Ⅰ 時間割表記名　母性援助Ⅰ	講義	2年	後期	1	30	曽根田麻衣子 青山京子 成田美紀 髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江

講義のねらい：ライフサイクル（マタニティサイクルを除く）における母性の健康を
脅かす問題とその治療と看護を学習する。
母性看護を実践する上で必要となる「ウェルネス志向」を理解し、セルフ
ケア能力を活かした健康を維持増進していくための看護を導くための

到達目標　：1．女性生殖器患者の特徴と看護が理解できる
2．乳がんの特徴と看護が理解できる
3．ウェルネス志向の考え方と産褥期のアセスメントの視点がわかる。
1）ウェルネス志向とセルフケア能力の向上を導くための思考過程がわかる
2）産褥期のアセスメントに必要な視点とその根拠がわかる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	母性看護過程(20 %)と筆記試験(80%)	終講試験

成績評価基準　：
課題の提出と内容、演習への参加態度を数値化、筆記試験による評価、これらを合わせて６０点以上を及第点とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	1．女性生殖器疾患における医療の動向 2．患者の特徴及び発達過程における疾患の理解 1）思春期　2）性成熟期　3）更年期・老年期	合同	講義　A	曽根田麻衣子
2	3．診療場面における看護の役割 1）外来　2）病棟　3）診療介助	合同	講義　A	曽根田麻衣子
3	4．女性生殖器患者にみられる症状への看護 1）出血　2）帯下　3）疼痛　4）外陰部掻痒感	合同	講義　A	曽根田麻衣子
4	5）自律神経症状，不定愁訴　6）リンパ浮腫 5．悪性腫瘍患者の看護 1）手術療法時の看護　2）化学療法時の看護	合同	講義　A	曽根田麻衣子
5	3）放射線治療時の看護	合同	講義　A	曽根田麻衣子
6		合同	講義　A	曽根田麻衣子
7	生殖補助医療と看護 1．生殖補助医療を受ける対象と支援制度 2．不妊治療（生殖補助医療）を受ける人の特徴とケアの基本 1）不妊治療中の看護 2）不妊治療後の妊娠における特徴	合同	講義　A	青山京子
8		合同	講義　A	青山京子

9	１．疾患の理解 １）乳がんの特徴（診断・治療） ２）検査・処置を受ける患者への看護 ・乳房超音波検査　・マンモグラフィー ２．事例を通した乳がん看護のプロセス １）手術療法時の看護　２）ホルモン療法時の看護	合同	講義　A	成田美紀
10		合同	講義　A	成田美紀
11	ウエルネス志向による看護過程 ①ウエルネス志向の考え方 ②情報の分類	合同	講義　A	髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江
12	③アセスメントと看護診断	クラス別	ＧＷ　A	髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江
13	③アセスメントと看護診断	クラス別	ＧＷ　A	髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江
14	事例と看護過程の統合	クラス別	ＧＷ　A	髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江
15	看護過程のまとめ	クラス別	ＧＷ　A	髙田麻衣 高嶋真紀 岩澤浩江

＊授業で取り扱う課題
・看護過程は経腟分娩と帝王切開での分娩を終えた褥婦の看護の展開を行う。

受講上の注意点　：

・1～10：母性看護概論や疾病の内容を参考に復習して臨むこと。
・11～15：看護過程に必要な学習（母性看護学援助論Ⅱ・Ⅲ、事前課題）を行い持参したうえで出席する
・課題は期限を厳守すること

オフィスアワー　：
・1～10：授業終了後に質問を受け付けます
・11～15：学内にいる場合はいつでも可能（事前に時間の調整をしたうえで対応します）

使用するテキスト　：

1～10:系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学〔9〕　女性生殖器　医学書院
11～15：系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論　医学書院

11～14：母性看護学Ⅱマタニティサイクル　南江堂

参考書：

11～15：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　医歯薬出版

教員の実務　：

看護師の実務経験を持つ非常勤講師

看護師・助産師の実務経験を持つ専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	母性看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
母性看護援助論Ⅱ 時間割表記名　　母性援助Ⅱ	講義	2年	前期	1	30	※高嶋真紀 髙田麻衣

講義のねらい:マタニティサイクルの中の妊娠期・分娩期における看護を学習する。妊娠および分娩経過とそれに伴う生理的特徴および発達について学習する。妊娠が母体に及ぼす影響を身体的・心理的・社会的側面から学習するともに、妊娠および分娩が、母親とその家族、生まれてくる子どもにとって安全で幸福に満ちたものとなるためのかかわりを学習する。

到達目標　：1．妊娠期の経過と特徴、看護が分かる
　　1）妊娠の成立と身体的・心理的・社会的特徴が分かる
　　2）妊娠期の観察技術が習得できる
　　3）妊婦健康診査の特徴とセルフケア能力を促す支援が分かる
　　2．分娩経過と各時期の特徴が分かる
　　1）分娩各期におこる身体的・心理的・社会的特徴が分かる
　　2）分娩を順調に進行するための看護が分かる
　　3．家族形成を促す支援方法を知ることができる
　　4．周産期医療システムと連携の必要性が分かる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題提出(10%)と筆記試験(90%)	終講試験

成績評価基準　：
　課題の提出と内容、演習への参加態度を数値化、筆記試験による評価、これら
　を合わせて６０点以上を及第点とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	妊娠の成立と生理的特徴および妊娠経過	合同	講義Ａ	高嶋真紀
2	妊娠経過に伴う生理的変化及び胎児の発育課程	合同	講義Ａ	高嶋真紀
3	妊娠期のマイナートラブルと看護 妊娠期のアセスメントの視点（ウェルネス志向）	合同	講義Ａ	高嶋真紀
4	妊娠末期の生活と観察技術 計測診・レオポルド触診法・児心音の聴取、 妊婦体験	クラス別	演習Ｃ	※高嶋真紀 髙田麻衣
5	妊婦と家族の心理・社会的特徴の変化と発達を促す看護	合同	講義Ａ	高嶋真紀
6	妊婦健康診査と保健指導	合同	講義Ａ	高嶋真紀
7	妊娠期の異常　切迫早産、妊娠高血圧症候群、糖代謝異常、前置胎盤など	合同	講義Ａ	高嶋真紀
8	分娩期に関係する定義 分娩の経過	合同	講義Ａ	高嶋真紀

9	分娩の3要素 分娩期における母体の身体的変化	合同	講義Ａ	高嶋真紀
10	分娩期における胎児の健康 産婦および家族の心理社会的変化	合同	講義Ａ	高嶋真紀
11	産む力を最大限に引き出すための援助① 産痛緩和の方法（分娩第1期・第2期）	クラス別	演習Ｃ	※高嶋真紀 髙田麻衣
12	産む力を最大限に引き出すための援助②　（身体的・社会的な支援方法）	合同	講義Ａ	高嶋真紀
13	分娩期の異常① 分娩の3要素における異常、分娩時異常出血	合同	講義Ａ	高嶋真紀
14	分娩期の異常②　帝王切開分娩、無痛分娩	合同	講義Ａ	高嶋真紀
15	周産期医療システムと必要性、 特別な配慮・支援を必要とする妊産婦への支援	合同	講義Ａ	高嶋真紀

＊授業で取り扱う課題
・妊娠末期の生活と観察技術について
・産む力を最大限に引き出すための援助、産痛緩和の方法について

受講上の注意点　：

事前課題は期限を厳守すること

オフィスアワー　：
学内にいる場合はいつでも可能（事前に時間の調整をしたうえで対応します）

使用するテキスト　：

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学(2)

母性看護学Ⅱマタニティサイクル　南江堂

参考書：

写真でわかる母性看護技術アドバンス（ＤＶＤ付）　インターメディカ
新生児ベーシックケア　家族中心のケア理念をもとに　医学書院

教員の実務　：

看護師・助産師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	母性看護学	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
母性看護援助論Ⅲ 時間割表記名　　母性援助Ⅲ	講義	2年	後期	1	30	岡田美香 髙田麻衣 高嶋真紀 山野 歩

講義のねらい:マタニティサイクルの中の産褥期・新生児期における看護を学習する。産褥・新生児期の経過とそれぞれの特徴を学習する。また、正常からの逸脱を予防するための看護と褥婦のセルフケア能力の獲得に向けた看護について学習する。さらに、母子相互作用や愛着形成など、母子一体・家族を一組として捉え育児支援や家族の発達について学習する。

到達目標　：1．産褥期にある母親の特徴と支援方法が理解できる
　　1）産褥期の身体的・心理的・社会的特徴が分かる
　　2）退行性変化・進行性変化の観察方法を習得できる
　　3）育児期にある母親の生活を知り、支援の必要性を考えることができる
　　2．新生児の特徴と看護が分かる
　　1）新生児の定義と分類、特徴が分かる
　　2）特徴を踏まえた観察技術と子宮外適応を促す援助が分かる
　　3）新生児の養育環境と安全への視点を考えることができる

DPとの関連		
	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	課題提出(10%)と筆記試験(90%)	終講試験

成績評価基準　：
課題の提出と内容、演習への参加態度を数値化、筆記試験による評価、これらを合わせて６０点以上を及第点とする。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	産褥期とは 1．産褥期の定義と身体的特徴 2．母子を取り巻く環境と社会背景	合同	講義Ａ	髙田麻衣
2	産褥期の身体機能回復と退行性変化を促す看護 1．退行性変化の経過 1）子宮復古　　2）全身の回復 2．退行性変化を促す看護	合同	講義Ａ	髙田麻衣
3	進行性変化を促す看護と母乳育児確立に向けた看護 1．母乳分泌のメカニズムと経日的変化の特徴 2．進行性変化を促す看護	クラス別	講義C	髙田麻衣
4	母親になることを支える援助 1．産褥期の心理的特徴と愛着形成 2．育児技術獲得への看護 1）授乳技術　　2）排気 3）母子分離にある母親への支援	合同	講義Ａ	髙田麻衣
5	産褥期の異常と看護 1．産褥期の主な異常と看護 1）子宮復古不全　　2）感染（産褥熱） 3）乳房・乳頭トラブル　　4）産後うつ	合同	講義Ａ	髙田麻衣
6	退院に向けての育児支援 1．退院後の生活と人的・物的支援 1）退院後の母親の1日と健診時期 2）人的・物的支援の内容と活用方法	合同	講義Ａ	髙田麻衣

7	産褥期の観察技術 1.退行性変化・進行性変化の観察と評価 ２.退行性変化・進行性変化を促進するための援助技術	クラス別	演習C	※髙田麻衣 高嶋真紀
8	産後ケア　母子保健と育児支援体制 (産前・産後母子支援事業)	合同	講義Ａ	岡田美香
9	新生児期とは １．新生児の特徴と観察意義 ２．子宮外適応現象とは	合同	講義Ａ	髙田麻衣
10	新生児の生理と看護 １．出生直後の観察と看護 ２．新生児の経日的変化	合同	講義Ａ	髙田麻衣
11	新生児の全身の観察技術 １．バイタルサイン測定と全身の観察 （フィジカルアセスメント）	クラス別	演習C	※髙田麻衣 高嶋真紀
12	新生児期に起こりやすい異常と看護 １．新生児期の主な異常 １）体温異常　２）呼吸障害	合同	講義Ａ	髙田麻衣
13	新生児の安全を守る看護 １．新生児の養育環境と安全の視点 ２．新生児期に行う検査や投薬 １）新生児マス・スクリーニング ２）聴力検査　３）Ｋ２シロップ	合同	講義Ａ	髙田麻衣
14	新生児の日常生活援助技術 １．新生児期の清潔ケア １）更衣　２）おむつ交換　３）沐浴	クラス別	演習C	※髙田麻衣 高嶋真紀
15	ハイリスク新生児 １．ハイリスク新生児とNICU・GCU ２．早産児、低出生体重児	合同	講義Ａ	山野歩

＊授業で取り扱う課題
・退行性変化・進行性変化の観察と評価、それらを促進する援助技術について
・新生児のバイタルサイン測定と全身の観察（フィジカルアセスメント）について

受講上の注意点　：
事前課題は期限を厳守すること。

オフィスアワー　：
学内にいる場合はいつでも可能（事前に時間の調整をしたうえで対応します）

使用するテキスト　：
系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕　母性看護学各論　医学書院
母性看護学Ⅱマタニティサイクル　南江堂

参　考　書　：
写真でわかる母性看護技術アドバンス（ＤＶＤ付）　インターメディカ
新生児ベーシックケア　家族中心のケア理念をもとに　医学書院

教員の実務：

看護師・助産師の実務経験のある非常勤講師

看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

（２年 次）

授業科目の区分:　専門分野	看護の統合と実践	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床看護統合科目Ⅲ 災害看護・国際交流 時間割表記名　災害看護／国際交流	講義・演習	２年	前期	1	30	武川礼子 稲葉俊喜 山崎達枝

講義のねらい:

災害看護は災害が人々の健康や生活に与える影響を考えることで、災害に関心を持ち、災害時に看護が果たす役割や災害各期の看護活動について学習する。災害と災害看護の概念、災害に関する法的根拠と救援組織、災害サイクルと看護活動、防災活動、心のケアを学んだ上でトリアージを体験する。

国際協力と看護は、保健･医療・看護における国際交流と協力の現状の仕組みについて学び、必要性や意義について認識し、これからの展望について学習する。具体的には、国際協力の仕組みと役割、国際社会・国際協力、国際貢献の意味、医療と国際社会のつながり、国際的な健康問題を学び、医療関係者の実体験を聞くことで

到達目標　:

【災害看護】

１．災害医療・災害看護の概念を理解できる。
２．災害医療・災害看護の実際を知り災害看護をイメージできる。
３．災害時の医療対応の基本要素が理解できる。
４．災害サイクルを理解しそれに応じた看護がわかる。
５．トリアージの目的・方法・種類が理解できる。
６．災害時の応急処置の必要性と処置方法を理解できる。
７．災害時の被災者および救護者の心のケアが理解できる。

【国際交流】

１．国際看護活動の基本的理論を理解することができる。
２．世界で起こっている健康問題について知ることができる。
３．人々の健康と、それに影響する要因を考えることができる。
４．社会経済的背景・宗教・文化などの違いをふまえて対象を理解する必要性を認識できる。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　災害看護（60%）　国際交流（40%）	終講時試験

成績評価基準　:　この科目の到達目標に対する到達度を評価の基準とする。

【国際交流】 授業内容、授業資料より出題

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	災害医療・災害看護の概念	合同	講義　A	稲葉俊喜
2	災害医療・災害看護の実際	合同	講義　A	武川礼子
3	災害時の医療対応の基本要素	合同	講義　A	稲葉俊喜
4	災害サイクルに応じた看護	合同	講義　A	稲葉俊喜
5	災害サイクルに応じた看護・心のケア	合同	講義　A	稲葉俊喜
6	トリアージ・災害の応急処置	合同	講義　A	稲葉俊喜
7	トリアージ演習	合同	演習　C	稲葉俊喜
8	災害発生シミュレーション	合同	GW　A	武川礼子

9	災害発生シミュレーション・まとめ	合同	GW　　A	武川礼子
10	国際看護とは	合同	講義　　A	山崎達枝
11	国際看護と異文化理解	合同	講義　　A	山崎達枝
12	国連機関　GO・NGOとは	合同	講義　　A	山崎達枝
13	ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標	合同	講義・GW　　A	山崎達枝
14	持続可能な開発目標	合同	講義・GW　　A	山崎達枝
15	まとめ	合同	講義　　A	山崎達枝

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

授業中の私語、居眠りは授業を妨害するので、退室していただくことがあります。

オフィスアワー　：　授業終了後に質問を受け付けます。

使用するテキスト　：

参　　考　　書　：　系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　医学書院

教員の実務　：　救急病棟での看護師経験と災害支援看護師としての経験を踏まえ、災害時に看護が果たす役割や災害サイクルについて教授する。海外での看護活動の経験のある看護師が、国際交流と協力の仕組みについて実体験をもとに教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野			領域横断			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
周手術期看護 時間割表記名　周手術期	講義	２年	通年	1	30	丸尾俊彦 中村麻美 成塚三恵 金子宏美 山野　歩 菊池　衛 高嶋真紀
講義のねらい:　在院日数の短縮化と手術療法の高度・多様化に伴い看護師には、様々な対象に合わせた高度な知識・技術が求められている。術後の早期回復と社会復帰につなげるための対象に応じた知識と技術を学ぶ。						
到達目標 １．生体への侵襲を及ぼす原因と生体反応が理解で切る。 ２．膵臓癌の事例を通して術前・術中・術後の看護が理解できる。 ３．老年・小児・母性領域の特徴的な周手術期の看護が理解できる。						

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
		4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける
成績評価方法：		グループワークの参加状況と発表・小テスト・課題による成果物から評価

成績評価基準　：

各到達目標に対する達成度を点数化し、学則26条に則り、60点以上をもって合格とする。

回	学習内容	クラス	※1　方法と場所	担当教員
1	周手術期とは 　手術・麻酔による生体侵襲と生体反応	合同	講義　A	丸尾俊彦
2	麻酔の種類と全身管理 １）全身麻酔（吸入麻酔・静脈麻酔・麻薬性鎮痛薬・筋弛緩薬）と 呼吸管理 ２）局所麻酔（硬膜外麻酔・脊髄くも膜麻酔・抹消神経ブロッ	合同	講義　A	丸尾俊彦
3	おもな術中・術後合併症 ①呼吸器合併症　②循環器合併症　③消化器合併症　④腎・泌尿器合併症　⑤内分泌・代謝障害　⑥術後精神・神経障害　⑦術後感染症および創部感染	合同	講義　A	丸尾俊彦
4	手術前看護　膵臓癌の事例を用いて術前のリスクアセスメント １）身体の準備　術前検査とリスクアセスメント・合併症予防 （術前呼吸訓練）	合同	講義 演習　A	中村麻美
5	２）心理面を整える援助 手術前日と手術当日の看護	合同	講義 演習　A	中村麻美
6	手術後看護 １）疼痛管理 ２）創傷治癒過程とドレーン管理	合同	講義　A	中村麻美
7	術後合併症の看護と技術 ①呼吸器合併症　②循環器合併症　③消化器合併症　④腎・泌尿器合併症　⑤内分泌・代謝障害　⑥術後精神・神経障害　⑦術後感染症および創部感染	合同	講義　A	中村麻美
8		クラス	講義演習　C	中村麻美 成塚三恵 金子宏美 他
9	膵頭十二指腸切除術の事例を用いて看護技術を学ぶ ①術後観察 （バイタルサイン測定・尿量・尿比重・輸液・硬膜外カテーテル・尿試験紙・ドレーン観察）	クラス	演習　C	中村麻美 成塚三恵 金子宏美 他
10				
11	膵頭十二指腸切除術の事例を用いて看護技術を学ぶ ②術後1日目の清拭と離床援助 （ドレーン管理・深部静脈血栓症予防・起立性低血圧予防）	合同	演習　C	中村麻美 成塚三恵 金子宏美 他
12				

13	１）手術を受ける子どもの特徴 ① 手術を受ける子どもとその家族 ②成長発達途上な身体機能：呼吸・循環・免疫・認知機能成長発達 　の過程、生活習慣の獲得途中にある対象の看護 ③原因となる疾患　先天性奇形・腫瘍・事故 ２）周手術期にある子どもと家族看護 　プレパレーション、苦痛の緩和：創部痛、体動制限、家族から	合同	講義 ＧＷ　　Ａ	山野　歩
14	術後管理－２ せん妄の看護 １）高齢者の手術適応 　　せん妄の種類（認知症との鑑別） ２）事例を用いてせん妄のリスク因子とケアの方向性を考える 　　抑制の適応について（倫理） ３）手術を受ける高齢者の事例を用いて、アセスメント、ケアの 　　方向性を話しあい、発表。	合同	講義 ＧＷ　　Ａ	菊池　衛
15	帝王切開術を受ける妊産褥婦への看護 帝王切開術後の看護 １）帝王切開による影響 ２）術後の全身状態のアセスメント ３）子宮復古に関するアセスメント ４）手術による影響に関するアセスメント ５）日常生活行動への看護 （１）授乳　（２）食事　(3) 清潔の維持 ６）帝王切開後の褥婦の心理と看護	合同	講義 ＧＷ　　Ａ	高嶋真紀

＊授業で取り扱う課題等

受講上の注意点： 必ず予習をして授業に参加してください。

オフィスアワー　：授業後の休憩時間に質問を受け付けます。専任教員は放課後も受け付けます。

使用するテキスト 高齢者と成人の周手術期看護2－術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版
系看　別冊　臨床外科看護総論　医学書院
周手術期看護学習ワークブック　　メジカルフレンド社

参　考　書　：　写真でわかる　臨床看護技術②アドバンス　　インターメディカ

教員の実務　：　医師の実務経験のある非常勤講師
看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:専門分野	領域横断	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
エンドオブライフケア看護学 時間割表記名　EOL看護	講義	2年	後期	1	30	穴澤友美 小峰和美 大西秀樹 渡邉圭司 池上厚子 大井真澄 小林成美 岩澤浩江 山野歩 菊池衛

講義のねらい:エンドオブライフケアについて理解し、看護の役割と方法について学ぶ
エンドオブライフ期にある対象とその家族のニーズを理解し、看護のありかたについて考える

到達目標　:
1. 終生期にある人とその家族の心の有り様を知ることができる。
2. 終生期を支える医療施設、福祉施設、地域でのケアについて理解する。
3. 終生期にある人と家族を支える多職種について理解する。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
		5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	筆記試験　(100%)	終講試験

成績評価基準　:　各到達目標に対する達成度を上記試験により点数化し
学則第26条に則り60点以上をもって合格とする

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	エンドオブライフケアとは １）エンドオブライフケアの必要性 ２）「エンドオブライフ」の多様な意味 ３）地域包括ケアシステムとエンドオブライフケア	合同	講義　A	穴澤友美
2	アドバンスケアプランニングとは ・「人生会議」してみませんか ・「もしものとき」について話し合おう もしばなゲーム	クラス	ＧＷ　A	小林成美
3	グリーフケアとは 家族・親族が抱える問題とケア グリーフケアの実際	合同	講義　A	穴澤友美
4	グリーフケア 遺族外来の実際	合同	講義　A	大西秀樹
5	緩和ケア－対象者と家族の看護－ １）がん患者の身体的・心理的・社会的特徴 ２）エンド・オブ・ライフ・ケア ①症状アセスメントとマネジメント ②苦痛緩和と意思決定支援	合同	講義　A	小峰和美
6	緩和ケア－対象者と家族の看護－ ２）エンド・オブ・ライフ・ケア ③予期的悲嘆に対するアセスメントとケア ④アドバンスケアプランニング 臨死期の看護 １）身体的・精神的ケア ２）家族の悲嘆ケア・代理意思決定支援	合同	講義　A	小峰和美

7	先天異常、障害をもつ新生児の家族へのケア 流産・死産後の女性と家族への看護□ □1）流産・死産を経験した女性 □（1）日本における流産・死産の現状 □（2）ペリネイタルロスとは □2）ペリネイタルロスを体験した母親や家族への看護	合同	講義　A	岩澤浩江
8	子どもと家族へのエンドオブライフケア （1）子どもののエンドオブライフケアの特徴 （2）小児医療において子どもの権利と尊厳を考える （3）子どものエンドオブライフケアの構成要素 （4）子どもを看取る家族の反応と看護 （5）子どもが亡くなった後の家族の反応とグリーフケア	合同	講義　A	山野歩
9	1．老年期の死 1）高齢者の終末期にみられる主な身体徴候 2）疾患別予後予期モデル 3）精神・心理的、スピリチュアル的、社会的死 2．終生期における生き方や死の迎え方の意向 その人らしさ、学生としてできること 3．高齢者の終末期の定義 4．終末期を迎える高齢者について 症状アセスメント、ケアの方向性 経管栄養の考え方など	合同	講義GW　A	菊池衛
10	特養で終末期を迎える高齢者について 施設における取り組み、施設での見取り、 家族への対応、グリーフケア	合同	講義　A	渡邉圭司
11	在宅における看取り ・在宅におけるエンドオブライフケアの特徴 （地域で最期まで生きるために必要なこと） ・在宅における看取りの推進（統計・政策等）	合同	講義　A	池上厚子
12	在宅における看取り ・家で看取るということ ・在宅ケアチームの連携と制度 ・病院や施設から在宅への移行における支援	合同	講義　A	池上厚子
13	在宅における看取り エンドオブライフケア期に発生する緊急ニーズ 訪問看護師の役割と多職種連携	合同	講義　A	池上厚子
14	在宅での終生期の看護 ・在宅で療養するがんの療養者の特徴と理解 ・在宅で療養するがんの療養者と家族への看護 ・在宅ケアチームの連携 ・安全管理と倫理的課題	合同	講義　A	池上厚子
15	在宅型ホスピスについて	合同	講義　A	大井真澄

＊授業で取り扱う課題

受講上の注意点　：

①各講義の前には、教科書を読んで参加すること

②受講内容によっては、参考書に記載されているテキストを使用するので持参すること

③「遺族外来」著者：大西秀樹　河出書房新社　事前に読んで講義に臨むこと

オフィスアワー　：	講義終了後に質問を受け付けます
使用するテキスト　：	看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア　日本看護協会出版会
参　考　書　：	１．成人看護学-成人看護学概論　南江堂 ２．系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学(1)　医学書院 ３．系統看護学講座　小児概論・小児臨床総論　医学書院 ４．ナーシンググラフィカ　老年看護②高齢者看護の実践　MCメディカ ５．系統看護学講座　在宅看護論　　医学書院 ６．在宅におけるエンドオブライフケア　　ミルヴァ書房 ７．エンドオブライフケア看護学　　ヌーベルヒロカワ ８．遺族外来　－大切な人を失っても　河出書房新社
教員の実務　：	医師・看護師の実務経験のある非常勤講師 看護師の実務経験のある専任教員

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
基礎看護学実習Ⅱ	実習	2年	135	3

目的：対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を学ぶ。	担当教員
到達目標：１）対象との人間関係を形成し、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ２）入院生活および健康障害、治療が患者に及ぼす影響について理解する。 ３）患者の状態に応じた看護計画を立案し、評価する。 ４）患者の健康状態をアセスメントし、状態に応じた生活援助を実践する。 ５）看護学生として責任感を持って行動する。 ６）看護チームの一員として責任感を持って行動する。 ７）実習を通して学んだことを振り返り、自己の課題を明確にする。	専任教員全員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　60点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

1週間のプリセプタード実習、2週間のプライマリー実習を行う。
１．対象者とのかかわりや、看護援助、看護記録から情報収集をし、疾病や入院が対象の身体面、精神面、社会面に及ぼす影響を理解する。
(1)入院前後の日常生活行動①面接や看護援助からの収集②記録物③フィジカルアセスメント④観察や測定⑤多職種からの収集
(2)コミュニケーション技術①受容・共感・傾聴②ホスピタリティの基本③自己理解、他者理解④防衛機制、コーピング⑤言語的・非言語的コミュニケーション
(3)アセスメント①生理的様式・自己概念・役割様式・相互依存様式の行動データの意味②健康上のニーズを持つ対象と家族への看護③経過別・症状別・治療処置を受ける患者への看護④発達課題⑤中範囲理論の理解
２．看護援助の計画立案し、実践する。
(1)日常生活援助計画(2)基本原則の理解(3)計画に沿った看護援助(4)看護援助の評価・修正
３．看護師について日常生活援助と治療処置技術の見学、一部実施（プリセプタード実習）
４．実践した看護を振り返り、自分の考える看護について記述する。
５．建設的な態度でカンファレンスに参加する。
(1)情報共有型、問題解決型カンファレンス(2)リーダーシップ・メンバーシップの役割(3)グループダイナミクス

オフィスアワー：実習中、適宜質問の対応はできる。

教科書：　なし

参考書：	看護覚え書き　湯槙ます訳　現代社 系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　専門Ⅰ　看護概論　医学書院 系統看護学講座　専門Ⅰ　臨床看護学　医学書院 看護過程に沿った対症看護　学研 ロイ適応看護理論の理解と実践　医学書院
教員の実務　：　看護師の経験のある専任教員	

（３年次）

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
臨床看護統合実習	実習	３年	90	2

目的：　既習の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員として看護実践能力を養う。

担当教員

小﨑妙子

全専任教員

到達目標：
１．チーム医療に、多職種との協働におけるマネージメントやリーダーシップの実際を学ぶ。
２．複数患者を受持ち、必要な援助の優先順位を踏まえて実践できる。
３．診療の補助技術の安全性を考えながら見学・一部実践できる。
４．夜勤帯における患者管理、看護業務など看護の役割を学ぶ。
５．病院における看護業務の実際を体験し、看護師を目指す学生としての責任や自覚を養う。

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

１．埼玉医科大学総合医療センターの22の病棟およびユニットで実習する。
２．１グループを１～2つに分けて、複数患者受持ち、看護管理、夜間実習などをローテ―トする。
３．看護師長、リーダー看護師、夜勤看護師の業務を見学し役割を学ぶ。
４．患者を2名同時に受け持つ。患者の看護計画に則って、援助の優先順位の決定や多重課題に対応できるようにする
５．受持ち患者に必要な複数のケアの実施は、一人で実践可能なケアの拡大、病棟スタッフメンバーの協力を得て実践可能となるケア、そして、今まで経験したケアの深化につながり、学生の経験するケア項目を増やすなど看護技術のスキル向上を図る。
６．実習で学んだ内容を通し、自己の看護観、職業人としての意識を養い、自己の目標を明確にする。

オフィスアワー：　実習終了後いつでも質問等の対応はできる。

教科書：　なし

参考書：　看護覚え書　湯槙ます訳　現代社

教員の実務　：　医療機関での経験を踏まえた看護師、助産師が既習の知識、技術、態度を統合させ、看護チームの一員としての基礎的実践能力を指導する。

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
地域・在宅看護論	実習	3年	90	2

目的： 地域で生活する人々の健康や生活について知り、住み慣れた地域でその人らしい生活を送るために必要な看護が実践できる能力を養う。	担当教員
到達目標： １．訪問看護ステーションの特徴と機能を理解し、地域包括ケアシステムの中での訪問看護の役割を理解する。 ２．看護を提供する場や生活する人々とその家族の多様性、望む生活を捉え必要な看護の実際を理解する。 ３．地域で生活を送る人々の健康障害と生活、および家族の生活への影響を理解する。 ４．保健・医療・福祉における多職種連携の実際を知り、地域で生活を送る人々と家族をサポートするケアシステムの中での看護の活動を理解する。 ５．地域における看護のあり方と継続看護について考える。 ６．地域・在宅で看護を提供する上で責任ある態度で主体的に臨む。	専任教員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：実習時間の2/3以上の出席をすることで評価の対象となる。
実習記録・実習態度・実習評価表に基づく
成績評価基準：実習記録、実習態度、事前学習を総合的に評価する

内　　容

【　訪問看護ステーション・地域包括支援センター・保健センター・福祉用具展示場　】
1. 地域包括支援システムの全体像の把握
2. 医療・介護・予防・住まい・生活支援における関連機関との連携,協働
3. 対象者の生活背景と生活状況、生きがいや生活の楽しみの尊重とコミュニケーション
4. 地域で生活する人々と家族の健康状態の把握（身体的・精神的・社会的視点）
5. 地域での生活を継続することへの意欲や希望に添う看護
6. 地域・在宅における日常生活援助と医療処置の実際と看護
7. 対象者・家族の価値観を尊重した上での看護と介護者の介護力の把握
8. 住み慣れた地域で暮らすために必要な生活支援ニーズの把握
9. 住み慣れた地域で暮らすために必要となる諸制度と関係職種との協働
介護保険制度,医療保険制度,医療介護総合確保推進法,障害者総合支援法,難病法
10. 訪問看護制度と法的枠組み
訪問看護ステーションの機能と役割
11. 地域で生活する人々とその家族を支える社会資源の種類と活用方法

オフィスアワー：　実習内容に関する質問は、教員の実習施設巡回時に行う。時間外に質問がある場合は月曜から金曜の17時30分までに担当教員に質問してください。

教科書：ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術
厚生労働統計協会　国民衛生の動向

参考書：各分野の教科書　　川越市　わたしたちの介護保険

教員の実務 ： 看護師の実務経験のある専任教員

授業科目の区分;統合分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成人・老年看護学実習Ⅰ	実習	3年	135	3

実習のねらい：周手術期にある対象を理解し、急性期から回復期を経て社会復帰へ向けての看護を実践しクリティカル看護の体験を通して、臨床判断能力を養う。また多様な価値観・生活信条をもつ成人・老年期の対象と関わり、医療チームに参加することで看護に必要な知識・技術・態度を習得する。	担当教員 専任教員
到達目標： 1.手術室の構造と機能を知り感染予防・事故防止の対策について分かる。 2.手術が円滑に進行し、対象への安全・安楽を守るための手術室看護師の役割が分かる。 3.集中治療室の構造と機能を知り、高度先進医療・全身管理の知識について分かる。 4.生命の危機状態にある対象へ生命と生活の質の向上を目指す看護師の役割が分かる。 5.周手術期もしくは生命の危機的状態にある対象へ、実践されている看護技術について学ぶ。 6.知識・技術・態度を統合するための主体的な学習活動ができる。 7.手術療法の目的と生体への侵襲を理解する。 8.手術に向けて最善の状態にするための手術前看護を理解する。 9.帰室後の環境調整と観察を実践し臨床判断能力を養う。 10.手術後の合併症及び感染症について臨床判断能力を養う。 11.術後回復促進ケアの経験を通して、リフレクションができる。 12.術後の症状緩和を図り日常生活援助ができる。 13.対象の生活習慣を考慮した社会復帰への退院指導が考えられる。 14.自己概念・役割機能の情報から対象の心理的支援について学ぶ。 15.相互依存にある自助・互助・共助・公助の視点から対象に必要な支援について学ぶ。	

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　60点以上を合格とする。
成績評価基準：
1．①実習記録②事前・事後課題学習③看護実践④実習ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝから実習終了日までの実習態度を評価する。
2．プリセプタード実習、共通項目、プライマリー実習、実習態度に分類し、100点を満点とし60点を及第点とする。

内　　容
1）手術前にある対象の行動特性の理解と心理的支援 2）手術前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝと手術前処置の理解 3）術後合併症のリスクを推察するアセスメント 4）生体侵襲と術後の状態観察と生体モニタリング 5）術後合併症・二次障害への予防と発症時の援助 6）急性期にある患者・家族への精神的援助 7）症状の緩和と日常生活援助 8）手術前後に関連する援助技術 9）対象の病態生理および手術侵襲における生体反応 10）対象の生理的機能様式の理解 11）対象の自己概念・役割機能・相互依存様式の理解 12）周手術期にある対象への手術前看護 13）手術後の合併症・感染症を考慮した異常の早期発見と予防の看護 14）手術後の症状緩和と日常生活援助 15）社会復帰に向けた退院指導 16）対象と家族との相互作用を深め人間関係の構築 17）専門職業人になるための倫理観と社会人基礎力 18）退院後療養生活を営む上で必要な多職種連携と看護師の役割
オフィスアワー：実習期間は16：15～17：30まで対応致します。
教科書：　なし
参考書：参考書： 高齢者と成人の周手術期看護２　術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版株式会社 NICE　成人看護学　成人看護技術　南江堂 ロイ適応看護理論の理解と実践　第２版　医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック　第２版　医学書院
教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員。

授業科目の区分;統合分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成人・老年看護学実習Ⅱ	実習	3年	45	1

実習のねらい：外来診療部門における検査や治療処置を受ける対象者への看護を理解し療養生活における疾病との共存について考え学ぶ。また手術療法・GICUなどで治療を受ける対象者への術中看護・クリティカルケアの実際を学ぶ。	担当教員
到達目標： 1)放射線・内視鏡検査の目的・方法と、生体への影響を理解し、放射線・内視鏡検査部における看護師の役割について学ぶ。 2)外来化学療法センター・血液浄化センターの構造と機能について知り、治療に伴う看護と看護師の役割について学ぶ。 3)手術室の構造と機能を理解し、安全、安楽かつ円滑に手術療法を遂行するために、手術室の看護師が担う看護の役割と実際について学ぶ。 4)GICUなどの部署で働く看護師が、健康危機状況にある対象者へクリティカルケアを実践している看護師の役割と実際を学ぶ。 5)対象者の療養生活における多職種連携の必要性と看護師の担う役割について考えることができる。	専任教員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：
１．①実習記録②事前・事後課題学習③看護見学④実習ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝから実習終了日までの実習態度を評価する。
２．放射線部または内視鏡ｾﾝﾀｰ、血液浄化ｾﾝﾀｰまたは化学療法ｾﾝﾀｰ、手術部、GICU他、実習態度に分類し、100点を満点とし60点を及第点とする。

内　　容

1) 放射線部・内視鏡センター内の構造と設備および医療安全・感染防止対策
2) 放射線・内視鏡の検査・治療処置を実施するための準備
3) 病棟と放射線・内視鏡検査部の連携
4) 薬剤による副作用の観察と援助
5) 検査・治療処置中の合併症に対する観察と援助
6) 精神的不安の緩和
7) 他職種との連携と看護師の役割
8) 外来化学療法センター・血液浄化センター内の構造と設備および医療安全・感染防止対策
9) 対象者の疾患や診療内容及び治療実績
10) 治療に伴う合併症と危機的対応
11) 治療継続と生活支援
12) 他職種との連携と看護師の役割
13) 生命徴候の危機的状態に対する看護者の役割
14) 手術部内の構造と設備および医療安全・感染防止対策
15) 病棟と手術部の連携

16）麻酔・手術の準備と麻酔導入時の看護
17）手術中の看護(合併症予防、生命徴候のモニタリング、異常時の対処)
18）麻酔覚醒期の看護
19）健康危機状況にある対象者の病態生理
20）健康危機状況を把握するための観察とモニタリング
21）体内に挿入・装着されているルートの必要性と管理
22）合併症・二次障害への予防と援助
23）危機的状態にある対象者・家族への精神的援助
24）症状の緩和と日常生活援助
25）専門職業人になるための倫理観と社会人基礎力
26）療養生活と多職種連携および看護師の担う役割

オフィスアワー：実習期間は16：15～17：30まで対応致します。

教科書：　なし

参考書：参考書：
高齢者と成人の周手術期看護２　術中/術後の生体反応と急性期看護　医歯薬出版株式会社
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院
系統看護学講座　別巻　がん看護学

教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員。

授業科目の区分：専門分野Ⅱ		老年看護学		令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成人・老年看護学実習Ⅲ	実習	3年	90	2

実習のねらい：
慢性疾患をかかえる壮年期から老年期の対象を理解し、看護過程の展開と看護援助の経験を通して、機能障害や疾患による症状、円滑な治療・看護による健康回復や退院後の生活復帰に向けた看護の方法を学ぶ。

担当教員

小林和子
小林成美
岩澤浩江
髙橋奈津美
菊池　衛

到達目標：
1.慢性疾患をかかえる対象の身体的・精神的・社会的変化を述べる。
2.看護過程の展開を通して、健康障害が、対象の日常生活へ与える影響を理解し、健康上の問題と解決方法を考える。
3.対象の健康障害やセルフケアレベルに応じた援助について、安全・安楽・自立の視点を持ち実践する。
4.慢性疾患をかかえる対象を尊重して関われる。
5.入院による環境の変化が、対象や家族、対象を取り巻く人々へ与える影響を理解する。
6.継続看護の必要性や多職種との連携について理解する。
7.対象との関わりを通して、自己の課題を明確にするとともに看護観を養う。

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：成績評価表の細項目に沿って評価する。

成績評価基準：成績評価表の60点以上を合格とする。

内　　容

1. 対象の身体的側面
   予備力、防衛力、適応力、回復力などの諸機能の低下、慢性疾患との関連、個別性の理解、既往歴・生活歴や生活習慣との関連性
2. 対象の精神的変化
   老いの受容、精神力の衰え、認知機能の程度、死への不安、慢性期にある対象と家族、対象を取り巻く人々への精神的援助
3. 社会的変化
   仕事の中断、職業からの引退、役割の変化、経済的問題、発達課題（ｴﾘｸｿﾝ､ﾊｳﾞｨｰｶﾞｰｽﾄ、ﾍﾟｯｸ）
4. 入院までの生活習慣、人生観、価値観、病気の受け止め方、長年の習慣
5. 受け持ち患者の病態生理、および機能障害による症状のメカニズム
6. 現在行われている治療・検査・処置・看護の内容と目的
7. 治療・検査・処置の合併症に対する観察と援助、対象に与える影響
8. 対象の症状の現れ方（多様性と非定型性）
9. 健康障害、現在の症状、現在のセルフケアレベル（栄養、排泄、清潔、活動と休息）
10. 行動のアセスメント、刺激のアセスメント、看護診断
11. 関連図の作成、優先順位の決定、介入計画の立案
12. 二次障害や合併症を予測し、予防するための援助
13. 環境の調整と事故防止；転倒・転落、窒息・誤嚥・誤飲
14. 予備能力を活用した自立へ向けた援助（疾病の回復、現状の維持と予防）
15. 対象や場の状況に応じた援助の工夫と、症状緩和の援助
16. 言語障害、聴覚障害、視覚障害、認知機能障害の程度に合わせたコミュニケーション
17. 対象のペースを尊重した関わり（対象の背景、人生経験の重視、価値観の尊重）
18. 対象者と家族の関係、家族の病気に対する考え方、キーパーソン、介護者の健康
19. 現在の状態と退院後の生活における問題点の把握、社会復帰に向けた生活指導
20. 現在の治療の継続、保健医療福祉の連携、利用可能な社会資源
21. 対象者と家族を尊重し、その人らしさや生活機能を考慮した人間関係の形成

受講上の注意点：
事前学習を十分に行い実習に臨み、実習開始後の追加学習については、その都度提出してください。
実習記録の取り扱いと患者情報には十分に注意し、守秘義務・情報漏洩の防止を遵守してください。
自己の健康管理に留意すると共に、グループメンバーとして協調性・主体性を大切にしましょう。

オフィスアワー：実習期間の病棟実習終了から16時15分まで。
教科書：系統看護学講座-専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 系統看護学講座-専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論　医学書院 小田正枝　ロイ適応看護理論の理解と実践　医学書院
参考書：写真でわかる高齢者ケア　インターメディカ 根拠がわかる老年看護技術　メヂカルフレンド社
教員の実務　：看護師の実務経験のある専任教員。

授業科目の区分：専門分野Ⅱ		老年看護学		令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成人・老年看護学実習Ⅳ	実習	3年	90	2

実習のねらい：
施設で生活している老年期にある対象を理解し、その人らしさを大切にした生活が送れるような援助を学ぶ。

到達目標：
1.施設で生活する対象の特徴を述べる。
2.高齢者とのかかわりを通して、高齢者の日常生活と看護、介護の実際を体験する。
3.高齢者の生活の場としての介護老人福祉施設の役割について述べる。
4.対象との関わりを通して、自己の課題を明確にするとともに、看護倫理をふまえた老年観を養う。

担当教員
中村美智子
小﨑妙子
小林和子
岩澤浩江
菊池　衛

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：
実習評価表をもとに実習担当教員と各施設の実習指導者により総合的に評価する。
評価の詳細については、実習要綱の評価表（細項目表）を参照のこと。
※評価項目４）～８)は、指導者が評価し、その他は、実習担当教員が評価する。

成績評価基準：
A…よい　B…だいたいよい　C…努力が必要

内　　容

1. 生活状況の把握（身体状況、精神状況、社会状況）
2. 対象の生活背景と施設での生活状況
3. 対象の生きがいや生活の楽しみ、大切にしていることの把握、自己決定権の尊重
4. 高齢者を尊重した接し方と話し方
5. 感覚器障害、言語障害、認知障害の程度に合わせたコミュニケーション
6. 認知症の高齢者のへの対応
7. 日常生活援助（食事・水分補給、移乗・移動、口腔ケア・義歯の取り扱い、清拭、入浴、陰部洗浄排泄、衣生活への援助）
8. 安全な生活環境の整え方や、適応力の低下に合わせた援助
9. 対象の日常生活のペースに合わせた援助
10. 生活歴、生活習慣、価値観の把握
11. レクリエーションの意義（高齢者に合った内容の計画と実施の必要性）
12. 高齢者に関する法律（老人福祉法、介護保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、成年後見制度、日常生活自立支援事業）
13. 介護老人福祉施設の設置目的・機能
14. 高齢者虐待と身体拘束
15. 職種の種類と役割、連携
16. デイサービス、ショートステイ、グループホーム

受講上の注意点：
1.実習開始前に施設の場所の確認を各自で行いましょう。（自転車は可能ですが車やバイクは禁止）
2.当日、体調不良や公共交通機関のトラブルがあった際には、実習先の施設と学校に遅刻することや休むこととその理由について、電話連絡してください。
3.実習内容は、施設によって異なりますが、特別養護老人ホームと、デイサービスまたはデイケア実習の際には、積極的に利用者さんへ関わりましょう。
4.実習時間は、8:30～16:00を基本とするが、デイサービスなど朝と夕方の送迎がある場合は、終了時間が遅くなる場合があります。
5.援助を行う際には、指導者やスタッフ指導のもとに実施しましょう。
6.カンファレンスについては、施設の指導者さんの予定を確認し、時間が決まり次第、前日までに担当教員へ電話連絡しましょう。

オフィスアワー： 　施設に訪問した際や放課後など帰校した際に受け付けます。
教科書：系統看護学講座−専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 　　系統看護学講座−専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論　医学書院
参考書　：　特に指定しない。指導内容に応じて適時指示する。
教員の実務　：　看護師の実務経験のある専任教員。

授業科目の区分：専門分野Ⅱ		精神看護学		令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
精神看護学実習Ⅰ	実習	3年	45	1

目的：精神症状や障害による対象の日常生活の困難さの実際を捉え、病棟における治療と回復を促進する精神科看護師の役割が理解できる。また、患者中心の看護実践のために必要な、人間関係構築の重要性について学ぶ。	担当教員
到達目標： １．精神障害がある対象の、治療・看護について説明できる。 ２．治療的環境を理解して、対象に寄り添った看護援助ができる。 ３．対象とのかかわりから看護師に求められる役割を解釈し、精神科看護の特性や重要性を理解する。 ４．精神看護における援助関係構築能力の重要性を理解し、社会的・対人相互的・技術的関係をふまえた技術を実践する。 ５．精神科医療福祉の実際と課題について考える。	専任教員

DPとの関連	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

１．精神科病棟における安全管理や看護の特殊性を理解する
　1)病棟オリエンテーション・病棟カンファレンス見学により、安全管理や人権擁護の方法がわかる
　2)精神科看護師の役割と特性を見学する
　3)受け持ち患者とのコミュニケーション方法を考える
２．治療環境やセルフケアの状態を理解する
　1)受け持ち患者のカルテの情報から、発達課題とセルフケアの状態をアセスメントする
　2)受け持ち患者との関係構築方法を考察しながら実践する
　3)受け持ち患者のセルフケア状態に合った援助の方向性を考える
３．セルフケア援助を通して、患者－看護師関係の構築を理解する
　1)ストレングスを見出すための、アセスメントを行う
　2)アセスメントに沿った看護援助を実践する
　3)自己洞察を行い、より良い看護計画を考える
４．患者や看護師とのかかわりを通して、アサーティブネスの実践ができる
　1)関係構築のアセスメントを活用した、看護計画の実践をする
　2)実践した結果に対して、具体的な改善策が述べられる
５．精神科看護師に求められる能力を理解する
　1)受け持ち患者のエンパワメントがわかる
　2)精神科看護師の社会的役割について考える
　3)精神看護における感情労働に対する知識の重要性がわかる

オフィスアワー：　実習時間中適宜

教科書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院
　　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院□

参考書：精神看護学Ⅰ　精神保健・多職種のつながり　改訂第2版　南江堂
　　精神看護学Ⅱ　臨床で活かすケア　改訂第2版　南江堂□

教員の実務　：　精神科病棟での看護師としての臨床経験を踏まえ、精神に障害がある対象の理解と個別の生活障害に応じた看護援助について指導する。

授業科目の区分：専門分野Ⅱ		精神看護学		令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
精神看護学実習Ⅱ	実習	3年	45	1

目的：精神障害をもつ人の生涯発達を支えるために必要な援助のあり方を考える。対象との治療的援助関係の形成や、地域社会における精神看護の役割について学ぶ。	担当教員
到達目標　： １．精神科医療と精神保健福祉の実際と利用者のリカバリ(回復)について、専門職者や利用者とのかかわりを通して考察できる。 ２．精神障害をもつ人を支える職種の技術と役割について説明できる。 ３．精神障害をもつ人が地域で生活していくために必要なさまざまな援助とシステムについて理解する。 ４．自己の健康や生きる力について考察する。	専任教員

DPとの関連	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

１．精神科デイケアセンターの役割と機能を理解する
　1)精神科デイケアセンターにおける医療者の目的や多職種の役割がわかる
　2)利用者とのコミュニケーションやプログラム見学を通して、利用者のニードや目的・目標の実際がわかる
　3)実習での具体的な学びを、事後学習によって知識と統合できる
２．就労移行支援事業所・就労継続支援事業所の役割と機能を理解する
　1)実習施設における利用者の目的・目標、支援者の役割が分かる
　2)利用者とのコミュニケーションやプログラムの実践を通して、利用者のニードや目的・の実際が分かる
　3)実習での具体的な学びを、事後学習によって知識と統合できる
３．精神科訪問看護ステーションの役割と機能を理解する
　1)精神科訪問看護ステーションにおける看護師の観察やアセスメントの実際と、対象とその家族に対する支援技術がわかる
　2)看護師のアセスメントから、対象者や家族のニードや看護援助の実際が分かる
　3)実習での具体的な学びを、事後学習によって知識と統合できる
４．精神科医療福祉に関する地域社会の知識と、精神障害をもつ人の生涯発達のための知識を統合する
　1)グループ学習によって、各種の精神科医療福祉の実際について、自己の意見を交えて学習を統合できる

オフィスアワー：　実習時間中適宜

教科書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　第6版　医学書院
　　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅱ　精神看護の展開　第6版　医学書院□

参考書：■域で暮らそう！精神障害者の地域移行支援・地域定着支援・自立生活援助導入ガイド　金剛出版

教員の実務　：　精神科病棟での看護師としての臨床経験を踏まえ、精神に障害がある対象の理解と個別の生活障害に応じた看護援助について指導する。

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成育過程実習Ⅰ	実習	3年	45	1

目的： 健康障害をもつ対象とその家族に必要な援助の実践をとおして、小児病棟の機能と役割を学ぶ	担当教員
到達目標： １．対象をとおして小児の成長・発達小児の特徴を捉えることができる。 ２．健康障害や環境の変化が対象やその家族に及ぼす影響が理解できる。 ３．小児の安全を守る為に必要な援助を考え実施できる。 ４．健康障害、発達段階を理解し対象に応じた日常生活援助ができる。 ５．対象の成長発達と対象を尊重した関わりを考えた援助が実践できる。 ６．集中治療を受けているこどもの特徴がわかる。 ７．集中治療を受けているこどもとその家族を看護するために必要な小児看護師の役割が分かる。	専任教員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

5日間の実習：埼玉医科大学総合医療センター小児病棟、PICU、小児科・発達外来での実習
【小児集中治療室（PICU)】月曜日（午前）
担当看護師とともに行動し、集中治療室の環境や、集中治療を受ける子どもと家族についての理解を深める。
【小児病棟】（月～金）
患児１名（2名）を受け持ち、発達段階や疾患について理解を深め、日々の看護実践を行う。
【小児科外来・発達外来】（金曜日午前）
小児科外来、発達外来に分かれて、担当看護師とともに行動し、それぞれの外来の特徴を学び、共有する。

①形態的、機能的、心理・社会的発達
②特有疾患,病態生理（疾病，症状）健康障害の段階
③小児のﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定、身体測定、診察・治療・検査時の援助
④日常生活へのかかわり方（食事，排泄，睡眠，清潔・衣服の着脱）
⑤病棟の安全対策の理解（構造と設備）院内感染の予防
⑥入院前と入院後の生活状況、日常生活の自立状況
⑦小児の入院に伴う問題
⑧発達段階に合った遊びの種類
【共通】
①子どもの権利擁護、小児看護における倫理
②子どもの反応と自己の関わりについての考察
③家族の身体的、社会的、心理的側面をとらえたかかわり
④小児看護師の役割の考察

オフィスアワー：実習期間、学内に戻ってから対応します。
教科書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論 小児臨床看護各論　小児看護学② 写真で見る小児看護学技術　インターメディカ
参考書： 目で見る小児救急　文光堂 根拠と事故防止から見た小児看護技術　医学書院
教員の実務　：　小児領域で実務経験のある教員

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成育過程実習Ⅱ	実習	3年	45	1

目的： 地域で生活する子どもとのかかわりを通して、子どもの成長・発達をとらえ、基本的生活習慣への援助を理解する。 子どもが健やかに成長するために、成育過程にある子どもとその保護者に必要な支援を理解する。	担当教員
到達目標： １．乳幼児の成長・発達段階を学ぶ。 ２．基本的生活習慣の自立状況に合わせた援助の実際を学ぶ。 ３．発達段階に応じた遊びの実際を学ぶ。 ４．子どもの安全を守るために必要な環境を学ぶ。 ５．子どもとの関わりを通してコミュニケーションがとれる。 ６．子どもの健やかな成長・発達のための家族への働きかけの実際を学ぶ。 ７．療育施設の環境がわかる。 ８．施設で生活している対象の健康問題（症状・成長発達）がわかる。 ９．看護師を通じて、小児の援助に必要な小児看護基礎技術が体験できる。 10．外来における子どもと家族の看護がわかる	専任教員

DPとの関連	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：６０点以上を合格とする。
実習記録、事前学習・追加学習、看護実践、実習態度を評価する。
成績評価基準：実習評価票をもって基準を示す。
到達度目標を達成するための評価内容及び配点が実習要綱－評価表（細項目表）に提示してあるので参照してください。

内　　容

5日間の実習：カルガモの家　保育園
【保育園実習】
年齢別の各クラスに１名ずつ入り3日間（火・水・木）の実習を行う。
保育園で日課を共に過ごし健康な小児とのかかわりから、成長発達、基本的生活習慣の獲得について学ぶ。
①形態的、身体・心理・社会的機能の発達
②成長・発達段階別の基本的生活習慣（食事・排泄・睡眠・清潔・衣服の着脱）
③成長・発達段階別の遊び内容と玩具、保育士の関わり方
④子ども同士の関係
⑤保育園の安全対策の理解（構造と設備）、安全な環境つくり
⑥発達段階別の起こりやすい事故と予防するための対策
⑦家庭生活の把握方法，保護者との連絡体制、乳幼児の保育に関する相談・助言

【障害児入所施設】
社会福祉法人埼玉医大福祉会　医療型障害児入所施設　カルガモの家
1日（月）、担当看護師と行動し、日常生活援助や医療ケアの実際を見学、養育活動や教育活動に参加する。

①施設の位置づけ
②施設の安全対策（構造と設備）、安全な環境づくり、感染予防
③小児にとって望ましい生活環境
④小児特有の疾患、健康障害の段階
⑤入所している小児の発達を促す援助
⑥家族とのかかわり

【共通】
①子どもの権利擁護、子どもを尊重した態度
②発達段階の理解、個別性の理解
③小児への関わり方、家族への関わり方

教科書：　医学書院　小児概論・小児臨床概論

参考書：ナーシンググラフィカ　①小児の発達と看護　小児看護学
ナーシンググラフィカ　②小児看護技術　小児看護学
ナーシンググラフィカ　③小児の疾患と看護

教員の実務　：　小児領域で実務経験のある教員

授業科目の区分;専門分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
成育過程実習Ⅲ	実習	3年	45	1

実習のねらい
成育過程にある者およびその保護者が、ライフステージに応じた心身の健康づくりに取り組むための体制整備の中から、さまざまな健康レベルにある健やかな成育支援について学ぶ。
集中治療を要する子どもの療養環境やその家族に対する看護と思春期保健の実際を知り、自分自身と医療者としてのプレコンセプションケア及びヘルスリテラシーについて考える機会とする。

担当教員
山野　歩
青柳　理恵
山﨑　幸恵
髙田　麻衣
高嶋　真紀
岩澤　浩江

到達目標：
1．周産期医療の現場からNICU・GCUの対象とその家族について知ることができる
　1）集中治療が必要な児の抱える問題と療養環境を結びつけることができる
　2）集中治療を要した子どもの退院支援の実際と多職種連携を知ることができる
2．障害児とその養育者・家族が活用できる社会資源について知ることができる
3．障害児の背景と将来的なリスクについて理解できる
4．将来を見据えた健康管理について学ぶことができる
　1）思春期保健、包括的性教育の実際を学ぶことができる
　2）その人なりの健康を維持・向上するために必要なことは何かを考えることができる

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として多職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　６０点以上を合格とする。
成績評価基準：　実習評価票をもって基準を示す。

内　　容

実習施設：周産期４階（NICU・GCU）、川越市立小・中学校の特別支援学級、アーニホール
1．周産期４階（NICU・GCU）施設概要と退院支援の実際を知る。また地域における発達支援の実際を知る（見学実習）
2．各対象とかかわる医療者（心理士）から活動内容をきく
3．障害を持ちながら地域で生活する子どもとその家族の支援のあり方を学ぶ
4．子どもの成長・発達の支援活動（思春期保健）に参加もしくは講話をきき、現状と課題について考える
5．実習での学びを共有し、将来を見据えての自分自身と医療者としての支援について考えをまとめる

オフィスアワー：実習期間は16:15～17:30まで対応いたします

教科書：　なし

参考書：母性看護学概論　医学書院　小児看護学概論　医学書院
　　在宅医療が必要な子どものためのケアテキスト　メディカ出版　など

教員の実務　：　　看護師の実務経験のある専任教員

授業科目の区分;統合分野	臨地実習			令和6年度
授業科目名	内訳	開講年次	時間数	単位数
母性看護学実習	実習	3年	90	2

目的：妊娠・分娩・産褥期の母性および新生児とその家族の特徴をふまえ、健康の維持・増進と親への適応過程を促すための看護を実践できる能力を養う。	担当教員
到達目標：１）妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる ２）産褥期の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる ３）妊娠・産褥期の健康の維持・増進のための看護援助が実践できる ４）分娩期の身体的・心理的・社会的特徴が理解でき、母子ともに安全で安楽な分娩を終えるための援助がわかる ５）新生児の胎外生活適応のための援助が実践できる ６）生命の尊厳に対する自己の考えを深められる ７）責任ある態度で実習に臨むことができる	専任教員

DPとの関連	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
		6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法：　１．実習内容（発言、態度、体調管理）　２．実習記録
成績評価基準：　細項目をもとに、総合的に評価する。　６０点以上を合格とする。

内　　容

マタニティサイクルにある対象（妊婦・産婦・褥婦、新生児）の状態を把握して、アセスメントをする。また、安全・安楽な援助を留意点や根拠を基に実施して、自己の援助について振り返る。
妊婦健康診査の流れやセルフケア能力について、実際の場面から状態を把握して、保健指導へのつながりや実際を学ぶ。各時期における看護や処置、検査について実際の場面を知り、目的や留意点を知識とつなげる。
母子を取り巻く環境・生活や支援について知り、サポートの必要性や調整の方法について考える。
実習の場面を基に、生命の尊厳や生命について考えることができ、自己の課題を明確にする。プライバシーの保護など対象を尊重した態度で行動する。また、日々の行動において、他者（指導者や教員）との調整やグループメンバーとの協調性を養う。

オフィスアワー：実習時間内での調整や放課後に指導します。

教科書：系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論　医学書院

参考書：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　医歯薬出版 新生児ベーシックケア　家族中心のケア理念をもとに　医学書院	
教員の実務　：看護師・助産師の実務経験のある専任教員	

授業科目の区分:　専門分野	看護の統合と実践	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床看護統合科目Ⅰ 看護研究の実際 時間割表記名　看護研究	講義	3年	通年	1	15	成塚三恵 全教員
講義のねらい:　臨地実習で学んだ事例をもとに論文の基本スタイルに沿って論文を構成 そのプロセスを通して看護を科学的に思考できる能力を養う。						
到達目標　: １．研究計画書を作成する方法を理解する。 ２．看護研究報告書を作成する。 ３．看護研究報告書をもとに発表資料を作成し、発表する。 ４．他者の発表を聞いてクリティークする。 ５．自己の看護を振り返り研究的態度を養う。						

DPとの関連		
	○	1. 看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2. 生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3. 多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4. 地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5. グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6. 自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	看護研究論文の成果物	終講試験
成績評価基準　:　評価内容　研究評価票をもとに評価する。		

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	研究計画書の作成 １）研究のテーマ・研究の背景 ２）研究の意義・目的 ３）研究方法 ４）倫理的配慮 ５）タイムスケジュール	合同	A　合同教室	成塚三恵
2	看護研究に悲痛ような文献検索 １）キーワードの特定 ２）先行文献の種類 ３）文献検討の整理	クラス別	演習　G 図書室	渋谷綾子
3	看護研究報告書の作成① ・序論　・方法　・結果　・考察　・結論　・引用文献	合同	A　合同教室	成塚三恵
4 5	看護研究報告書の作成②③ ・看護研究の執筆の手引きに沿ってまとめる。	担当別	指定された教室	全教員
6	看護研究の発表の準備① １）発表の意義 ２）視聴覚教材の活用 ３）発表原稿の作成	合同	A　合同教室	成塚三恵
7	看護研究発表準備 １）視聴覚教材の活用 ２）発表原稿の作成	担当別	指定された教室	全教員
8	研究成果の発表とクリティーク	担当別	分科会方式	全教員

＊授業で取り扱う課題・事前準備。 １．初講時までに研究論文の要約課題をする。 ２．２回目の講義：調査テーマの決定 ３．質問紙の作成・発表資料の作成について時間外で準備する。	
受講上の注意点　： ・研究成果をまとめるにあたり、担当教員の指導を4回以上受けること。それをもって出席とみなす。この指導をうけなかった学生は成果発表はできない。 ・担当教員の指導をもらう場合は事前に日を調整すること。	
オフィスアワー　：	授業終了後、随時質問を受けます。
使用するテキスト　：	黒田裕子の看護研究 Ｓtep by Step　第6版　医学書院
参　考　書　：	ナーシンググラフィカ　基礎看護学　メディカ出版
教員の実務　：	医療機関での経験を踏まえた専任教員が、臨地実習で受け持った事例をもとに、自己の看護を振り返りを看護研究にまとめ、科学的思考力を育成するように教授する。

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室

E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	看護の実践と統合	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床看護統合科目Ⅱ 看護管理・医療安全 時間割表記名　看護管理/医療安全	講義	3年	前期	1	30	池田光子 佐藤治恵 大内道晴 小﨑妙子 小林和子 一色潤子 山野　歩 新井弘明

講義のねらい:
　看護管理では質の高い看護を提供するためのマネジメント基礎知識、技術を学習する。また、医療チームに関わる多職種との協働の中で看護師の役割を理解する。
医療安全では医療事故や過誤が発生する要因は人間の特性であることを認識した上で、医療現場の事故の特徴、予防方法、事故発生時の対応、看護師の基本的な責務などの事例を用いて、医療安全の実際を学習する。

到達目標　:
1．看護管理の定義と基本的要素、看護におけるマネジメントの考えについて説明できる。
2．看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの違いが説明できる。
3．看護P専門職としてのキャリア開発を学び、自分の将来について考えることができる。
4．組織で仕事をする責任、意味に瑠いて考えることができる。
5．ヒューマンエラーは人間の特性と環境が関係していることを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明できる。
6．医療機関における安全対策の仕組みについて理解できる。
7．看護業務を行う際の環境とリスクを理解できる。
8．看護業務に関わる主な医療事故の種類を述べることができる。
9．主な医療事故の背景、要因、対策について理解できる

DPとの関連		
	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	看護管理　試験配分　30%　医療安全　70%	終講試験

成績評価基準　:　試験内容　医療安全　70%の配分
演習　35点（事前学習課題、GWの参加状況を含む）
筆記試験　35点

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	1．看護管理学とは 1）看護管理の定義　2）概念構成　3）基本的要素　4）看護のマネジメントが行われる場 5）マネジメントの考え方との変遷と看護におけるマネジメント	合同	A　合同教室	池田光子
2	1．看護ケアのマネジメント 1）患者の権利の尊重 2）チーム医療と多職種連携・協働 3）看護業務の実際	合同	A　合同教室	佐藤治恵
3	1．看護サービスのマネジメント 1）組織目標の組織づくり 2）看護サービスの提供の仕組みづくり 2．看護マネジメントに必要な知識と技術	合同	A　合同教室	佐藤治恵
4	1．看護専門職の教育とキャリア形成	合同	A　合同教室	池田光子
5	1．医療安全と看護の責務 1）看護師および看護業務の法的規定 2）看護職能団体の取り組み 2．医療安全施策と医療の質の評価 1）医療事故の変遷からみる国の取り組み 2）医療事故の定義・分類	合同	A　合同教室	小﨑妙子

6	１．事故発生のメカニズムと防止策 １）ヒューマンエラー ２）事故分析	合同	A　合同教室	小﨑妙子
7	１．医療事故と看護業務 １）医療事故の種類と安全対策 ２）看護業務と事故発生要因 ２．演習の概要 １）臨床想定訓練の概要　①事例紹介　②演習の方法	合同	A　合同教室	小﨑妙子
8	演習１．臨床想定訓練演習 ・臨床想定訓練事例集をもとにグループワーク	合同	A　合同教室	小﨑妙子小林和子 一色潤子山野歩
9 10	演習１．臨床想定訓練演習　発表会	クラス別 ＊	G　多目的室 （大講堂）	小﨑妙子小林和子 一色潤子山野歩
11 12	演習３：ＫＹＴ演習 ・３つのKYTシートを展開する	クラス別	A　合同教室	小﨑妙子小林和子 一色潤子山野歩
13	１．埼玉医科大学総合医療センターにおける医療安全管理体制について ・当センターにおける医療安全の変遷、安全管理体制、インシデントの分析と結果、医療安全文化の醸成	合同	A　合同教室	大内道晴
14 15	１．医療過誤・医療訴訟における法的責任 ・看護師の法的位置づけ、看護師の法的責任、医療過誤事例と対策等について	合同	A　合同教室	新井弘明

＊授業で取り扱う課題
・臨床想定訓練の演習に使用する事例集を事前に配布し、事例ごとに課題をまとめる。

受講上の注意点　：

１．過去の医療事故の事例を収集しておくこと。
２．演習には十分な事前学習をして臨むこと。
３．課題の提出は時間厳守、遅れた場合は評価の対象外とする。未提出の場合は演習に参加できないこともある。
４．グループワークでは自己の役割を自覚して協力すること。

オフィスアワー　：　看護管理：授業終了後質問を受けます。
医療安全：いつでも対応できます。

使用するテキスト　：　医学書院　専門分野　看護管理
ナーシンググラフィカ　看護と統合と実践②　医療安全　メディカ出版

参　考　書　：	ナーシンググラフィカ　看護と統合と実践②　医療安全　メディカ出版 坂本すが　５日間で学ぶ医療安全超入門　学研 川村治子　医療安全ワークブック　第４版　医学書院 相馬孝博　ＷＨＯ患者安全カリキュラムガイド　MCメディカ出版 出河雅彦　ルポ　医療事故　朝日新書

教員の実務

	看護管理：管理者としての実務経験のある非常勤講師 医療安全：医療機関での看護師としての経験を踏まえ、医療事故が発生する要因は人間の の特性であることを認識した上で、医療事故の特徴や予防方法、対応について 看護師の責務を事例やロールプレイを用いて教授する。 弁護士として実務経験のある非常勤講師

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他

授業科目の区分:　専門分野	看護の統合と実践	令和6年度

授業科目名	内訳	開講年次	開講時期	単位数	時間数	担当教員
臨床看護統合科目Ⅳ OSCE 時間割表記名　OSCE	講義	３年	後期	1	30	小﨑妙子 小林和子 一色潤子 山野　歩 全専任教員

講義のねらい:対象の発達段階・健康レベル・機能障害の程度を理解したうえで、適切な看護技術を選択し、看護実践能力試験（OSCE)を実施する。それらを経験し、知識・技術・態度の修得状況を認識することで、自己の看護実践能力の課題を明確にする。

到達目標　：
１．対象の状況に応じた看護を実践することができる。
２．対象と適切なコミュニケーションをとることができる。
３．演習を通して自己の課題を明確にすることができる。
４．演習を通して看護職を目指す学生として責任と自覚が持てる。

DPとの関連		
	○	1．看護の対象を総合的に捉え、人間関係を形成できる
	○	2．生命を尊び、専門職者としての倫理に基づいた行動をする
	○	3．多様な価値観を尊重し、科学的根拠に基づいて看護が実践できる
	○	4．地域包括ケアチームの一員として他職種と連携・協働する基礎的能力を備えている
	○	5．グローバルな視点から課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組める
	○	6．自らのキャリア形成を見据えて向上心を持ち、自己研鑽し続ける

成績評価方法	OSCEでの評価90%　提出物等の評価10%	通年

成績評価基準　：　試験内容
事例を提示し、OSCEでの援助の実際を評価基準に基づいて評価する。
自己学習時間を課題学習時間にあて、その参加状況も評価に加味する。

回	学習内容	クラス	※1 方法と場所	担当教員
1	・OSCEのとは ・演習の概要説明	合同	A　合同教室	小﨑　小林 一色　山野
2	・シナリオ課題のアセスメント・看護計画	合同	A　合同教室	全教員
3	・看護計画に沿った看護技術の習熟　①	クラス別	C　演習室	全教員
4 5	・シミュレーション　ケア環境アセスメント	クラス別	C　演習室	小﨑　小林 一色　山野
6	**・認知確認試験**	合同	A　演習室	小﨑　小林 一色　山野
7	・看護計画に沿った看護技術の習熟②	クラス別	C　演習室	全教員
8 9	・PreOSCE	合同	C　演習室	小﨑　小林 一色　山野
10	・実践した結果を踏まえて計画の修正と看護技術の習熟　③	クラス別	C　演習室	全教員
11 12	・OSCE	クラス別	C　演習室	全教員
13	・OSCE評価	合同	A　合同教室	小林　一色 小﨑　山野

14 15	学びの共有	合同	A　合同教室	全教員

＊授業で取り扱う課題
・OSCEで扱う事例についてはあらかじめ提示される。既習の知識・技術を統合させるように事前学習に取り組む。

受講上の注意点　：

・履修にあったっては、必要な課題を提出することでOSCEの受験資格を得られる。

オフィスアワー　：	学生の疑問や質問に関しては何時でも受けることができる
使用するテキスト　：	特に指定はない
参　考　書　：	事例に必要な解剖生理、病態学、看護技術に関する参考書
教員の実務　：	医療機関での経験を踏まえた看護師が、対象の状況に応じた看護ができるように、看護実践能力試験（OSCE）を行い、看護実践能力の課題を明確にできるように指導する

※1 場所とは・・A、合同教室　B、ｸﾗｽ別教室　C、基礎実習室　D、小児母性実習室
E、在宅実習室　F、1階学生ﾎｰﾙ　G、その他